一九六 懷ケント巨儒名士ノ囚獄セラレシ者ヲ放遣シ又エリサベッスノ禁錮ヲ釋キ女王ヲ喻シテ宮ニ還ラシム然レトモ其意別ニ思フ所アリエリサベッス若非命ニ死セハ位ヲ繼ク者ハ蘇ノ女王マリーナリマリーハ佛王ノ姪ニ當レリ故ニ佛王因テ以テ英ノ國事ニ容喙スルコトヲ得ハ己カ利ニ非サルヲ計リシナリ○千五百五十五年二月四日ロシルスヲ焚キ同九日フープルヲ焚キ其他數人相踵テ焚殺セラル此輩幷ニ新教ノ徒ニテ其說ヲ固執スルカ爲ナリ始ガルシテル酷律ヲ設ケテ下民ヲ脅カシ謂フク數人ヲ嚴刑ニ處セハ他ハ隨テ懾服スベシト然ルニ此策大ニ違ヒ其法愈酷ニシテ民愈之ニ背キシカハ遂ニ自退キボンテルヲ進メテ己レニ代ラシムボンテルハ嘗教ノ巨擘ニシテ其初ガルシテル等ト共ニ囚獄セラレシ者ナリ其刻烈ガルシテルニ比スレハ更ニ甚シク常ニ罪人ノ苦楚ヲ見ルヲ樂ミ自劍手ト爲テ人ヲ斬殺スト云フ此人教徒ノ騷亂ヲ掌リシヨリ其政令一層ノ毒ヲ增シ蒸民生ヲ聊マス是ヨリ後三年ノ間教徒ノ焚殺セラルヽ者總計二百七十餘人無知ノ嬰兒モ亦其中ニ在リ然レトモ是等ノ事稱ボンテルノ之ヲ擅ニセルニ非ス又王ノ意ニ出ツルナリ時人王ノ好テ人ノ血ヲ流スヲ以テ血王マリートト云ヘリ

○是歲十月十六日リトレー及ラチメル二人同時ニオキスホルドニ於テ焚殺セラルラチメル大柱ニ縛セラル既ニ目前ノ柴薪ニ火ヲ點スルヲ見テリドレーニ謂テ曰我輩今日英國內ニ一大燭ヲ點ス其光輝永世滅セサルヘシト英國ノ法教今ニヨリ却テ燼ナランノトノ意ナリ火既ニ烈ナルニ及テ相顧ミテ互ニ奬勵シ欣然トシテ死ス其後千五百五十六年三月十八日クランメルモ亦オキスホルドニ焚殺セラル初ヽ母后ノ廢セラルヽニ當テ王クランメルノ其議ヲ贊成セシヲ憤テ生長ノ後忘ルヽ

一九七 コト能ハス其後クランメル屢硬言シテ王ノ意ニ觸忤シ王ノ之ヲ忌ム

コト愈〻甚シ其獄ニ投セラレテヨリ王異端ノ罪ヲ以テ之ヲ處セントス久シク既ニ決定セシカ尙深ク之ヲ屈辱セントシ死ニ就カシムル前密カニ人ヲ獄中ニ遣テ曰ク若シ志ヲ改メ教ヲ變セハ舊勳ノ故ヲ以テ特ニ其命ヲ助ケント時ニクランメル久シク牢獄ノ中ニ在テ神氣消耗シ加フルニ資性剛毅ニ乏シク深ク死ヲ怯ルヽ心アリ愁悶ノ中忽チ是言ヲ聞キ一線ノ活路開ケタリト遂ニ平生ノ持論ヲ飜シ自ラ其名ヲ謝表ノ後ニ書シ舊教ヲ奉シテ餘喘ヲ保タンコトヲ請フ然レトモ王ノ意猶未タ慊ラス又クランメルヲ某教院ノ中ニ誘ヒ至テ稠人ニ向ヒ其過ヲ謝セシメ明ニ其醜態ヲ世ニ曝シテ後俄ニ其焚殺ノ令ヲ發スクランメル未タ之ヲ知ラサリシカ始テ覺悟シテ大ニ醒ヲ改メシヲ悔イ令下ルニ及テ驚カス刑ニ臨ミ自ラ其右手ヲ火中ニ燒キ屢〻大呼シテ曰ク此手我ヲ過テリト悉ク其際烟シ盡クルヲ見テ又快ト呼ヒ死ニ至ル迄顏色自若トシテ殆ト烈火ノ其身ヲ燔クヲ知ラサルカ如シ○千五百五十五年十月ヒリップ國ニ歸テ涅達蘭ノ讓ヲ受ク是ヨリ先ヒリップ愈〻女王ヲ厭ヒシカ此ニ至テ竊ニ悅ヒ王屢〻書ヲ寄セ物ヲ贈テ其歸ヲ促セトモ樂テヽ顧ミス千五百五十七年ニ至テ西班牙佛國ト兵ヲ搆ヘヒリップ英ニ來テ援ヲ請フ然レトモ議院他國ノ故ヲ以テ釁ヲ隣邦ニ啓クヲ難カリ之ヲ肯セスヒリップ乃マリーヲ脅カシテ曰ク英國若シ此戰ニ與セスハ我レ決シテ再ヒ英ノ地ヲ履マシトマリー之ヲ聞テ悲泣シ遂ニ議院ニ哀乞シテ兵士一萬ヲ出シ是歲ペンフロックノ侯ヲ將トシテ之ヲ涅達蘭ニ進ムヒリップ乃チ之ヲ合シテ八月十日佛兵トセントクエンチンニ戰ヒ大ニ之ヲ敗リタリ然ルニヒリップハ英ノ手ヲ借テ佛ノ兵ヲ挫キ袖手シテ其利ヲ收ムルノ計ナルヲ以テ大捷ノ後事ニ託シテ觀望シ英軍ト相策應セス是ヲ以テ英ノ勢孤立シ翌年一月七日カレイ佛將ゲスノ侯ノ爲ニ襲ハレテ陷沒スカレイノ地

二形四方ニ沼ヲ帶ヒ燥土ノ城ニ通スルハ唯一條路ノミニシテ二箇ノ別
〇〇堡ヲ以テ之ヲ守レリ從前英人地勢ノ險ヲ恃テ嚴ニ守備ヲ設ケス佛人
牒知シテ之ヲ圍ミ纔ニ八日ニシテ之ヲ拔ケリエドワルド第三世ノ始
メテ是邑ヲ降シヽヨリ英人ノ手ニ屬セルコト大凡二百四年ニシテ遂
ニ又佛人ノ爲ニ奪還セラル〇初王衆議ヲ排シテ兵ヲ起シ地ヲ失フノ
ミナラス又ヒリップノ爲ニ賣ラルヽヲ知リ慚忿措カス是ヨリ前既ニ病
ニ罹リシカレイノ報ヲ聞テ病勢遽ニ激シテ終ニ起タス死ニ臨ミ悵
然トシテ歎シテ曰ク我レ死セハ試ニ我腹ヲ剖ケヨ心上必カレイノ字ヲ
銘セント千五百五十八年十一月十七日ヲ以テ死ス年四十三在位僅ニ
六年也其妹エリサベッス繼立ス王權勢威力ヲ以テ下ニ臨ミ刑罰ヲ以テ
人心ヲ齊クセントス故ニ民心服セスクランメル諸人ノ刑セラレテヨ
リ道路目ヲ側テ初ノ暫ク舊教ニ循ヒシ者モ往々新教ニ歸往スル者アリ
王ノ刑法愈〻苛刻ニシテ新教ノ氣焰愈〻畢生ノ力ヲ用ヰテ終ニ之ヲ
撲滅スルコト能ハス果シテリドレーノ言ノ如シ〇王ノ世ニ當テアル
ナアンゼルノ港名ノ航路始メテ開ケ俄帝使ヲ英ニ遣テ好ヲ修ス是俄
國歐州ニ交通スル權與ナリ
〔エリサベッス〕王ハアンボリーン后ノ腹ニ生レヘンリー第八世ノ第二女
ニシテ位ニ昇ル時年二十五歲ナリマリーノ死ニ當テ王ハットフォールド
ニ在リ此日都下ノ市人群ヲ爲シテ直ニ王ノ所ニ赴キ同二十四日王ヲ
環擁シテ之ヲ倫敦ニ奉入ス王長面隆鼻舉止敏達ニシテ少時ヨリ極メ
テ人望アリ國人其代立ヲ傳聞シテ皆歡呼踊躍セサルハ無シ王夙ニ新
教ヲ奉スト雖モ又甚メ舊教ヲ斥セス群臣ノ賀ヲ奉スルニ當テ舊教僧徒ノ
二 謁見スル者溫言ヲ以テ之ヲ優待ス但ポンチルノミ顏ヲ反ケテ一言ヲ
一〇 接セスト云フ又議事官員及其他ノ大臣大抵ハマリーノ時ノ人ヲ用ヰ

ヲ變更セス然レトモ其權ヲ平均セシメ爲ニ別ニ新教ノ徒ニ命シテ庶政ニコ參セシム其中會計總裁ニココラス、ベーコン國事總裁ウサルレム、セシル等アリベーコンハ即チ大學士ベーコンノ父ナリ○千五百五十九年一月十三日即位ノ禮ヲ行ヒ同二十一日公會王ノ繼統ヲ定ム議院又王ノ意ヲ承ケテ國王ヲ以テ教主ト爲ルノ律ヲ復シ再ヒ法教齊一ノ令ヲ發シ其禮拜ノ法祭祀ノ式等大抵改正シテ法教ノ體裁復タエドワルド第六世ノ舊ニ歸ス○西王ヒリップ尙ホ英國ノ事ヲ管轄センコトヲ欲シ王ノ代立ヲ聞キ再ヒ婚ヲ求メシカ王國人ノ之ヲ好マサルヲ察シ其請ニ應セス王又自ラ用サルヲ好ミ他人ノ牽制ヲ恐レテ夫ヲ納ルヽコトヲ欲セス後年ノ間諸國ノ君主屢〻意ヲ致ス者アリ王亦頗ル情ヲ動カシヽコトアレトモ其議一モ完成スルニ至ラス千五百七十九年アンジョー侯ノ聘ヲ納レ盟書ヲ賂ルニ及テ又俄ニ之ヲ破ルト云フ○マリーノ死セシ時方ヲニ佛國ト和ヲ議セシカ王即位ノ年其和成リ佛王カレイヲ保有シ八年ノ後之ヲ返サント約ス然レトモ佛王素ヨリ其約ヲ踐ムニ意ナク英人モ亦再ヒ之ヲ得ルコトヲ期セス是ヨリ此地永ク佛ノ版圖ニ復ス○佛國ト和シテノ後英國亦蘇格蘭ト和シ是ニ於テ三國再親交ヲ結ヒシカ幾ナラスシテ佛王ノ世子フランシス蘇ノ女王マリーヲ娶テ釁端再ヒ啓ケタリ此マリーハヘンリー第七世ノ玄孫ニシテ其血胤甚近キヲ以テ先王マリーノ其覬覦ノ心アランコトヲ疑ヒ既ニ之ヲ仇視セシカ果シテ此女佛國ニ嫁スルニ及テエリサベッスハ廢后ノ子ナルヲ口實トシ其夫ニ英王ノ號ヲ冒サシメ自ラ英ノ后ト稱シテ服飾器具皆英ノ徽號ヲ用サシカハ英王深ク之ヲ忌ミ機ヲ伺テ禍根ヲ絕タントセリ是ヨリ前蘇格蘭ニ於テハ新教ノ激徒攝政ピートンヲ暗殺シテ遂ニ舊教ノ徒ト兵ヲ搆ヘ舊教ノ徒佛ノ援ヲ怙テ新教ノ徒ヲ虐シケレハ千五百五十九年新教徒人ヲ英

ニ遣テ援ヲ請フ是ニ於テ王竊ニ之ヲ悅ヒ千五百六十年一月戰艦ヲ送ヲ內地ノ兵ニ赴援シ同年七月ニ至リ終ニ佛兵ヲ國外ニ驅逐シ且佛王夫妻ニ迫テ英王ノ號ヲ去ラシム○王意ヲ內國ノ政治ニ委テ國債ヲ減シ金貨ヲ改鑄シ其他歷代ノ弊政ヲ匡正スル所多シ王亦始メテ火藥ノ製造ヲ國人ニ敎ヘ屢民兵ヲ撿閱シ又大ニ海軍ノ數ヲ增加シテ兵備大ニ整ヒ紀綱大ニ振フ王又人才ニ富ミ其宰臣ボルレー即セシル及ワルレンハム等皆淸廉多才ノ人ニシテ王ヲ裨補セル所多シ○マリー佛國ニ嫁シテ後久シカラスシテ佛王死シ其夫立テフランシス第二世ト稱セシカ其後一年餘ニシテフランシス亦死シ其弟チャールス政ヲ攝シ其國二分シテ新敎ノ首領コンデ及コリグニー等英王ノ援ヲ請ヒハーブルノ邑ヲ英ニ納レテ其屯兵ノ地トセシム然レトモ其後二黨ノ首領或ハ暗殺セラレ或ハ虜トナリテ遂ニ和ヲ結ヒ英亦王ハーブルノ邑ヲ保タシ

トセシカ適疫病ノ行ハルヽニ會テ守ヲ撤シテ其軍ヲ旋サシム○千五百六十三年僧官會議シテ敎律三十九條ヲ定ム是ヨリ後今ニ至ル迄變更スル所ナシ故ニ後世史家之ヲ以テ英國法敎改革ノ結尾トス○フランシスノ死後マリー毋后ト相愜ハスシテ蘇格蘭ニ歸住シ千五百六十五年從弟ロルド、ダルンリーニ再醮シ之ニ王號ヲ奉テ自ラ其后ト稱ス然レトモダルンリー輕躁ナルヲ以テ久シカラスシテマリーヲ厭ヒ別ニ伶人リシオト云フ者ヲ嬖シテ內外頗ル物議アリ王リシオノ后ニ通スルヲ疑ヒ一夕其后ト會食スルニ當リ數人ノ惡漢ヲ率ヰテ室內ニ突入シ背ヨリ之ヲ刺殺ス是ヨリ夫妻反目セシカ后ダルンリーグラスゴーニ於テ痘ヲ患フルニ當リ后一日其病ヲ候シ此地ハ喧鬧ニシテ病ヲ養フニ便ナラストテエジンボローニ誘ヒ歸リ閑寂ノ地ヲトシテ王ヲ移シ自ラ其湯藥ニ侍シテ忽チ舊怨ヲ忘却スルカ如シ然ルニ千五百六十七年

二〇六

三月九日后ノ侍女ニ婚ヲ結フ者アリ后自ラ其席ニ臨マサルヲ得ストテ其夜王ニ辭シテ城中ニ歸リシカ翌曉第二時ニ至テ都下急ニ騷擾シ火アリ々々ト呼フ者アリ市人皆驚キ至テ救ヘハ即チ王ノ病室ニシテ王ノ寢所火藥ノ爲ニ破裂シ其死屍ハ飛テ遙ニ遠所ニアリ此時國人既ニ后ヲ疑フト雖モ未タ之ヲ明言セサリシカ是歲五月十五日マリー又ボスウェルノ侯ト婚ス侯ハマリーノ嬖臣ニシテダルンリーノ死セシ時最モ衆人ノ爲ニ屬目セラレシ者ナリ故ニ國人后ヲ疑フコト此ニ至テ愈〻深ク貴族遂ニ兵ヲ擧ケテ后ヲ執ヘ七月二十九日逼テ位ヲ其子ゼームスニ傳ヘシム是レ即ゼームス第六世ナリ然レトモ國人尙ホ心ヲマリーニ通スル者アリ翌年五月之ヲ獄ロリ奪ヒランダイドニ於テ攝政モルレーノ兵ト戰ヒシニ其軍再破レケレハ后貌ヲ變シテ英ノ北部ニ逃レ書ヲ贈テ英王ノ憐ヲ請フ初マリー英王ノ號ヲ用ヰシヨリエリサベッス未タ釋然タルコト能ハス故ニ今一時窘厄シテ來リ投スト雖モ英王其ニ之ヲ庇護スル意ナク又後患ヲ懼レテ放逐スルコトヲ欲セス乃チ唱言シテ曰クマリー變故ニ遭遇シ來テ我哀ヲ請フ我レ之ヲ棄ツルニ忍ヒス然レトモ夫ヲ殺スハ大罪ナリマリー先ツ此罪ヲ白スルニ非スハ我亦之ヲ見ル可カラスト是ニ於テマリー自ラ其罪ヲ白セント請ヒケレハ王書ヲ蘇格蘭ニ贈テ其由ヲ傳ヘ法衙ヲ開テマリーノ罪ヲ糾彈セシニ蘇人ノ出セル證左中ニマリーヨリボスウェルニ贈リタル甄書數通アリ中ニ謀ノ事ヲ詳載シテ罪跡甚タ明白ナリ王又言テ曰クマリーノ罪狀既ニ斯ノ如シ我レ終ニ之ヲ許スコトヲ得スト官吏ニ命シテ之ヲ獄ニ投セシム然レトモ蘇格蘭ニ內亂アリト雖モ固ヨリ英ノ關涉スル所ニ非ス況ヤマリー罪アリト雖モ王ニ於テ之ヲ禁錮抑留スルコトヲ得ス是故ニ國人王ノ處置ノ過當ナルヲ惜テ屢〻マリーヲ救ハントスリ外國ノ諸王亦英王ノ不仁ヲ咎

二〇七

メテ是ロリ國内多事ナリ○是歳ノルホルクノ侯竊ニマリーヲ娶ランコトヲ欲シ王ノ許サヽルヲ量テ多ク黨類ヲ集メ勢ヲ以テ迫ラント謀リシカ事露レテ執ヘラレ十月十一日ドーウルニ幽セラル然レトモ久シカラスシテ王又之ヲ放免スト云フ○ノルホルクノ餘黨ニノルサンベラント及ウェストモールランドノ侯等アリ此輩ハ皆舊教ノ徒ニシテ其意獨リマリーヲ救フニ止ラス之ヲ擁シテ再ヒ舊教ヲ興サントシ千五百六十九年一月二人北方ニ於テ亂ヲ作シヽカ遂ニ官兵ノ爲ニ敗ラレテ刑セラルヽ者甚多シ○西班牙及佛國ハ竝ニ舊教ノ國ニシテ此頃頻ニ新教ノ徒ヲ虐シ又マリーノ屈辱ヲ憤テ密ニ英國不軌ノ徒ト謀リ英王ヲ危セントス故ニ英王陰ニ二國ノ新教ヲ助ケテ互ニ相保持シ之ヲ以テ其勢ニ抗セントセリ佛國ニテハ教徒一旦和ヲ結ヒタレトモ其後内亂再ヒ起テ戰鬪止マス千五百七十年チャールス第九世僞テ新教ノ徒ト和シ又使ヲ英ニ遣テアンジューノ侯ヲ以テ英王ト婚セント請ヒケレハ王亦之ヲ許諾シテ二國ノ間日ニ其商議アリ然レトモ二人共ニ此婚ニ意アルニ非ス時ニチャールスハ新教ノ徒ヲ欺テ其類ヲ殄ツノ計アリ故ニ之ヲ以テ其心ヲ安セントス英王モ亦二國親睦ノ體ヲ示シ一ハマリーノ黨ヲ挫キ一ハ西王ヒリップノ望ヲ破ラントスルナリ○是ヨリ先キ西班牙ニテハ一ノ公廨ヲ設ケ之ヲインクワイジーショント名ケテ法教ノ訴ヲ斷シ日ニ新教ノ徒ヲ焚殺シテ其酷虐實ニ全歐州ニ冠タリ又涅達蘭ノ都督ニアルバノ侯ト云フ者口ヲ法教ニ藉テ其居民ヲ苦メ僅ニ六年ノ間ニシテ一萬八千人ヲ殺セリ斯ノ如ク暴虐ナリケレハ國人離叛シ國ヲ去テ禍ヲ免ルヽ者陸續絶エス英王悉ク之ヲ容レテ各ヽ生産ヲ得セシメ又商船アルバノ貨財ヲ載セテ英ノ港内ニ碇泊スル者ハ悉ク之ヲ剽劫ス是ニ於テアルバ密ニノルホルクノ侯等ヲ嗾シテ又マリーヲ擁立セ

二シメ外ヨリ兵ヲ以テ之ニ應シ直ニ倫敦ニ至テ王ヲ窘メソト約セシカ

一○會ノルホルクノ家隷ニ訴ヘ出ツル者有テ其事發露シ千五百七十二年侯等首謀ノ者皆誅ニ服スマリーヲ捕ヘテヨリ内外ノ變流ニ起リ王其煩擾ニ堪ヘス嘗テ之ヲ放還セントシ蘇ノ攝政モルレートヲ謀リシカ其議遂ニ果サス今回ノ事議院又根株ヲ究鞫シマリーノ罪ヲ正シテ後患ヲ杜カント請ヒシカ王又決スルコト能ハス却テ其書ヲマリーニ示シ又議院ニ諭シテ一切マリーノ事ニ於テ言ヲ出スコト無ラシム○千五百七十年佛王チャールス新教ノ徒ト和シテ後百方其徒ヲ都下ニ誘致シ千五百七十二年八月二十四日夜一時ニ之ヲ掩殺シ又急ニ令ヲ諸州ニ傳ヘテ所在屠戮シ頁莠分タス佛國ノ新徒之カ爲ニ殆ト空シ王使者ヲ英ニ遣テ曰ク新教徒亂ヲ謀テ政府ヲ覆サンコトヲ欲ス故ニ悉ク之ヲ誅戮シタリト英王固ヨリ明ニ其僞ヲ知リ國人皆憤怒シテ兵ヲ起シ之ヲ救ハントス切齒扼腕セシカ王之ヲ詐サス温言慰問シ又佛王ノ請ニ從テアレンコンノ侯ト新婚ヲ議ス○是歲涅達蘭ニ於テハセーランド及ホルランドノ二州オレンジノ部長ウヰルレムヲ將トシテ遂ニ西班牙ニ反キ悉ク其地ヲ以テ英ニ屬セントス請フ後ニ至テ和蘭ト稱スルハ是ナリ然レトモ英王西班牙ト釁端ヲ啓カンコトヲ恐レテ之ヲ詐サス此時ニ當テ英ハ新教ノ國ヲ以テ西佛二國ト對峙シ加フルニ西ニハ日耳曼ノ強援アリ蘇格蘭亦常ニ佛ト相結テ其隙ヲ窺フ故ニ西ト佛トノ事ニ於テハ王輕シク手ヲ下サス然レトモ其後バタビヤ及フランドルス中ノ諸州和蘭ノ會盟ニ加テ其勢漸ク盛ナリケレハ千五百七十七年王遂ニ和蘭ト好ヲ結ヒ步騎凡六千人ヲ遣テ其義舉ヲ助ク○千五百七十七年

二一英人フランシスドラークト云フ者四艘ノ船ヲ率サテマゲランノ海峽ヨリ南海ニ進ミ西班牙ノ屬地ヲ鹵掠シ其貨財ヲ奪テ直ニ海上ニ逃去

二 スドラーク是ヨリ大西洋ニ歸ラントコトヲ欲セシカ西班牙人ノ爲ニ要
二一 擊セラレンコトヲ懼レテ更ニ大西洋ヲ横裁シ東印度ニ出テ喜望峯ヲ
繞リ英ニ達ス是英人ノ地球ヲ環航セシ始ナリ是ヨリ前千五百二十一
ソト云フ者西班牙ノ船ニ駕シテ始メテ南海ニ入リ大平洋ヲ航シテ印
度ニ達セントシヒリッピン島ニ至テ土人ノ爲ニ擊殺セラレ其稗將ゼバ
スチアン、デル、カノト云フ人ノミ翌年九月ニ至リ東印度ヨリ本國ニ歸
帆セリマゲラン峽ハ南亞墨利加洲ノ極南ニ在テ此人ノ名ヲ取リタル
ナリ又此人太平洋ヲ航スルニ當テ天氣清和ニシテ舟中甚タ平穩ナリ
シヲ以テ此名ヲ下セリ太平洋ハ原語パシヒット云フ直譯スレハ平穩
ノ義ナリ○西班牙及佛國動亂ノ間英國ハ内外靜謐ニシテ殆ト記スヘキコト
ナシ大抵王ノ政ヲ爲ルハ嚴厲ニシテ兼ヌルニ縝密ヲ以テシ又大小ソ
庶務ニ於テ確乎タル成算アルニ非レハ敢テ輕舉暴動セス其下ヲ馭ス
ルニ多クハ其意ヲ主トシテ人ノ諫ヲ納レス議院及平民ノ權利ヲ收攬
シ朝庭ノ百官殆ト奴僕ノ如ク驅使セラルレトモ人皆之ヲ覺ラス抃舞シ
テ其用ヲ爲サントス然レトモ是時舊教ノ餘孽ニビシュイトト稱スル兇
徒アリテ亂ヲ好ミ之カ爲ニ物情穩ナラス千五百八十一年此黨ノ中カ
ンピオント云フ者叛ヲ謀テ誅セラル同八十五年パルレートト云フ者法
王ノ密諭ヲ受ケテ王ヲ暗殺セントセシカ又成ラス是等ノ兇徒大抵マ
リーヲ以テ口實トス故ニ議院ヲ首トシテ朝臣マリーヲ惡ムコト愈甚
シ○千五百八十五年和蘭モ亦刺客アリテウヰルレムヽ之カ爲ニ暗殺セラ
レ土人ノ氣勢大ニ挫ケ再ヒ英ニ從屬シテ其力ヲ借ラント請フ王其請ヲ
許サスト雖モレイストルノ侯ヲ一隊ノ兵ニ將トシテ之ヲ和蘭ニ發遣セ
リ王又西班牙ト兵ヲ搆フルニ至ランコトヲ謀リ是歲別ニ戰艦二十艘
ヲ亞墨利加ニ遣テ西印度諸島西班牙ノ屬地ヲ亂暴セシム○千五百八
二十六年九月レイストルシエットヘンノ邑ヲ襲ヒ却テ大ニ敗ラルレイスト
一三 ルハ王ノ嬖臣ニシテ將領ノ才アル人ニ非ス王ノ人ヲ用ヰル大抵ハ皆

二其器ニ當リタルトモ獨リ此人ノミ便變ヲ以テ寵ヲ得タリ○英國ノ僧徒

一四佛ノレイムニ書院ヲ設ケテ奮教ヲ唱フル者アリ其社中ニジョン、サベー

シト云フ無賴ノ惡僧アリテ常ニ其徒ノ說ヲ聞テ我モ異端ノ魁首ヲ除

キ法教ノ爲ニ殊功ヲ立ントテ千五百八十六年ノ頃英ニ歸テ密ニ王ヲ覬

ヒシカ又茲ニジョン、ハルラルドト云フ者アリ當ヲ英國及蘇格蘭ノ間ニ

往來シテ法ヲ說キ土人ノ奮教ヲ奉スル者ハ皆怨ヲ政府ニ啣ムヲ見テ

陰ニ亂ヲ作サントテ謀リ此頃貌ヲ變シテ再ヒ英ニ入リ是ニ於テ二人互

ニ結託シテ共ニ黨類ヲ招聚セシニ又アンソニー、バビントントト云フ者

亦來リ加ハル是ニ於テ又マリーヲ救ハントス然レトモ國事總裁ワル

シンハムハ早ク之ヲ覺リ計ヲ以テ惡其謀ヲ知ルコトヲ得タリ賊徒マリ

ートト交通スルニギッホルドト云フ僧ヲ用サル此僧賊徒ノ書ヲ持シテマ

リーノ獄舍ニ至リ破壁ノ隙ヨリ之ヲ傳ヘ又其報ヲ得テ反命スワルシ

ンハムハ之ヲ偵知シ其僧ヲ賺シテ惡往復ノ書ヲ途中ニ披閱シ封緘故ノ

如クニシテ又之ヲ僧ニ遞與ス故ニ兇徒之ヲ覺テスワルシンハム既ニ

賊徒ノ計ヲ詳悉シ急ニ發シテ之ヲ逮捕シケレハ賊徒不意ニ出テヽ逃

避スルコト能ハス首惡十四人縛ニ就キ皆法ニ處ス○是ニ至テ國人又

頻ニマリーノ罪ヲ正サントス然レトモ王尙ホ依違シテ決セス議院上書

シ往復辨論時ヲ移シテ後遂ニマリーヲノルサンプトン州中ハゼリン

ゲー城ニ遷シ公廨ヲ設ケテ之ヲ鞫問セント決シタリ時ニマリー未タ之

ヲ知ラス一日馬ニ乘リ庭上ニ逍遙セシ時一人ノ使者入リ來テ王ノ命

ヲ傳ヘテ曰クバビントン等ノ密謀既ニ發露シテ罪魁悉ク法ニ處ス王又

后ニ問フコトアリ臣等ヲシテ后ヲ別所ニ移サシムトマリーノ之ヲ聞テ

二始メテ驚キ室ニ歸テ旅裝ヲ修セントス請ヒシカ使者之ヲ許サス直ニ之

五ヲ警衛シテハゼリンゲーニ誘ヒ行キタリ斯テ其後數日官吏王ノ命ヲ

二受ケテマリーヲ究訊スマリーハ口ヲ極メテ辨解セシカ既ニパビントン
一六ノ首伏アリ其他證跡明白ニシテ其罪終ニ逃ル可カラス官吏倫敦ニ歸
テマリーノ罪死ニ當レリト反命ス其前ヨリ王頻ニマリーヲ除クニ意
アリ此ニ至テ心中竊ニ大ニ悅ヒシカ尙ホ言ヲ飾テ遽ニ之ヲ許サス議院
大臣抗疏シテ切請スルニ至リ乃チ唱言シテ曰クマリーノ罪若シ恕スヘク
ハ我怨ハ固ヨリ論スル所ニ非ス然レトモ我今輿論ニ從テ其罪ヲ正サ
ヽルコトヲ得スト翌年二月一日遂ニ書記官ダビソンニ命シテ死罪ノ
憑書ヲ作ラシメシカ翌日國璽ヲ押スルニ在テ王又俄ニ之ヲ止ム然レ
トモ議官等王ノ濫滯ニ堪ヘサレハ他日王ノ罷怒ニ逢フトモ我輩其罪
ニ當ラントテダビソンヲ促シ其書ヲ監使ニ附シテ發遣シタリ是ニ於
テ千五百八十七年二月八日マリー遂ニハゼリンゲー城ニ斬殺セラル
時ニ年四十五歲始メテ英國ニ幽囚セラレテヨリ幾ト十九年ナリ王マリ
ーノ死ヲ聞テ又佯リ怒テ曰ク我レ既ニマリーノ死ヲ許スト雖モ未タ之ヲ今日
ニ期スルニ非ス執事者倉卒ニシテ余ヲシテ愛妹ヲ殺サシメタリト是
ニ於テダビソンヲ捕ヘテ之ヲ獄ニ投シ課スルニ一萬ポンドノ贖金ヲ
以テス凡ソ王ノマリーヲ遇スル終始曖昧ニシテ人皆其意ノ寓スル所ヲ
知ラス蓋シ竊ニ外國ノ譏ヲ憂ヒ又蘇格蘭ト怨ヲ搆ヘンコトヲ懼レ徒ニ
己レノ罪名ヲ免レンコトヲ欲セルナリ然レトモ淺薄ノ詐術固ヨリ天下
ノ眼目ヲ掩フニ足ラス其醜念掩テ愈彰レ却テ後世ノ笑ヲ貽セリ洋人
之ヲ論シテ曰ク矯飾虛僞ノ人ニ於ケル最モ惡ムヘキノ大ナルノミナラ
ス又笑フヘキノ甚シキ者ナリト蘇王ゼームス其母ノ生前ヨリ屢ヽ英王
ノ過酷ヲ爭ヒシカ其死ヲ聞テ大ニ怒リ國人亦辱ヲ雪カント一時憤激
二セシカワルシンハム二國ノ間ニ周旋シテ巧ニ事情ヲ陳謝シ事遂ニ止
一七ムコトヲ得タリ○西班牙王ヒリップ英國ノ屢ヽ和蘭ヲ援クルヲ憤リ且法

敵ノ故ヲ以テ大舉シテ英ヲ攻メントシ是ヨリ前數年ノ間水軍ヲ訓錬シ武備ヲ充實シテ頻ニ其備ヲ爲シトカ千五百八十八年ニ至テ戰具始メテ整ヒ水師悉リスボンハ此時葡萄牙ノ港ニ次ス其艦數大小百三十艘西ニ屬ス

職墳二千四百三十門戰卒凡ソ二萬人當時ニ在テハ實ニ盛舉タリ西人皆誇テ謂ヘラク之ヲ以テ英ノ海岸ニ臨マハ聶爾タル小島眞ニ壓倒スルニ足レリト因テ名ケテ無敵軍ト曰ヘリ時ニ英ノ水軍未タ盛ナラス政府ノ戰艦僅ニ三十四艘國中ノ水夫ヲ舉テ一萬四千ニ過キス然レトモ國人警ヲ聞テ踴躍シテ皆戰ハンコトヲ欲シ貴族富商私ニ船艦ヲ裝ヒ倫敦ノ如キハ兵艦戰卒共ニ課數ノ一倍ヲ備フルニ至レリ王是等ノ軍ヲ部署シボーワルドヲ以テ其都督トシドラークハウキンスフロビッセル等ヲ分ケテ其下ニ屬セシム此輩ハ皆一時ノ名將ニシテ其名聲歐洲ニ傳播セル者ナリ王又陸軍ヲ分ケテ三隊トシ二萬人ハ南海ノ防禦ニ備ヘ又一隊三萬人ハテームス河口ニ置テ都府ニ備ヘ其餘三萬人ハ王自ラ之ヲ令ス王テームス河口ノ軍ニ至リ陣列ノ間ニ往來シテ將士ヲ勵マシテ曰ク余ハ脆軟ノ一女ナレトモ苟モ一國ノ主トナリテ其國ノ覆滅ヲ見ルニ忍ヒス汚辱ヲ後世ニ貽サンヨリハ寧ロ屍ヲ戰場ニ曝サント思フ汝等衆士國家ノ爲ニ勉勵セスハ有ル可ラス我今汝カ先トナリテ自ラ進退ヲ指揮シ功アル者ハ大ニ之ヲ賞セント是歲五月二十九日メシナノ侯某西軍ヲ督シリスボンノ港ヲ發セシカ其海路颶風ノ爲ニ船ヲ壞ラレ七月十九日始メテリザルド岬ノ海上ニ出テタリ英ノ總督ホーワルド乃ポルツマウスヨリ出テヽ之ヲ迎ヘ廿一日ノ朝兩軍始メテ戰ヲ合セシカ時ニ英ノ艦數ハ僅ニ六十七艘其大小モ亦迥ニ西軍ニ及ハス



ホーワルド令ヲ諸船ニ傳ヘテ曰ク敵ハ巨艦ニ乘セリ妄ニ近ツキテ覆沒スルコト勿レ只其船ヲ勒シテ徐ニ敵ノ過隙ニ乘セヨト貴族私裝ノ

舟艇諸港ノ中ニ屯聚セル者海上戰鼓ノ聲ヲ聞テ爭ヒ出テホーワルドノ軍ニ加ハリ共ニ西軍ノ後ニ躡シテ且ツ進ミ且ツ戰フ兩軍ノ船艦相合シテ三百艘舳艫相啣ミ帆影海ヲ蔽テ滿目殆ト船ナラサルハナシ西將メシナハ未ダ水戰ニ習ハス加フルニ其艦ノ高大却テ運用ニ便ナラス蹶門亦高キニ過キテ其丸遙ニ空際ニ迸飛シテ英船ニ中ル者ハ幾何モナシホーワルドノ之ヲ見テ大ニ悅ヒ遂ニ軍ヲ縱テ接戰シケレハ西軍之カ爲メ辟易シ其中大艦二艘アリ一ハ自ラ火ヲ發シ一ハ帆檣碎裂セラレ共ニドラークノ爲ニ奪收セラル此時西將パルマノ侯二萬三千ノ兵ヲ聚メテフランドルスニ在リ西ノ戰艦先ツ之ヲ舟中ニ迎ヘテ後ラームス河ニ遡ラント計リ直ニドンキルクニ向テ前進シ此月二十七日カレイノ海口ニ碇泊ス英船ハ尙ホ之ヲ逐テ尾シ來リ此日西軍ヲ距ルコト二里許ナリ夜中ホーワルド又一計ヲ案シ密ニ火船ヲ以テ敵中ニ放チケレハ西軍大ニ驚キ碇ヲ拔クニ遑ナク各其纜ヲ斷テ四方ニ逃散シ隊列大ニ亂ル翌日黎明英人之ニ乘シテ又十二艘ヲ奪ヒタリ此ニ至テ西軍既ニ勝利ヲ失ヒパルマ亦辭ヲ設ケテ其兵ヲ進メスメシナ已ムコトヲ得スシテ遁逃ノ計ヲナシヽカ適〻西南風劇シクシテ海峽ヲ出ツルニ由ナク遂ニ蘇格蘭ヲ繞リ大洋ニ出テヽ本國ニ歸ラント同二十九日風ニ從テ北發セシカ八月二日日耳曼洋ニ於テ再颶風ニ逢ヒ其船飄蕩四散シテ蘇格蘭ノ海濱ニ漂著セル者三十餘艘波濤ノ爲ニ破碎セル者數ヲ知ラス本國ニ歸リシハ僅ニ三分ノ一ニ過キスト云フ○千五百八十九年フランシス、ドラークシヨン、ノルリス及エセックスノ侯等蒲萄牙ノ海岸ニ寇シテ前年ノ役ニ報シリスボンノ外廓ヲ陷レテ歸ル○此時佛國ノ內亂未ダ止マス千五百九十一年王エセックスノ侯ヲ佛ニ遣リ是ヨリ同九十八年ニ至ル迄時々兵ヲ遣テ其王ヘンリーヲ救援ス○千五百九十六年西人再

二暴シテ英ニ來寇ストノ風説アリ王又エセックス及ホーワルドヲ水陸ノ
二軍ニ將トシテ西班牙ニ遣ル此軍途中ニカシーズヲ攻メテ之ヲ陷ル此
役エセックス獨ホーワルドノ議ニ戻テ勝ヲ得タリシニ其後王ホーワル
ドヲノッチンハムノ侯ニ封シエセックスノ功ハ置テ問ハスエセックス是ヲ
以テ不平ヲ懷クト云フ○愛倫ハ土俗獷悍ニシテ制シ難ク是ヨリ前四
百年ノ間常ニ英ノ屬國ト稱スレトモ唯其名ノミニ過キス此頃土酋ニ
ヒュー、オニールト稱スル者アリ其從弟ヲ殺シテ叔父ノ遺産ヲ奪フ英王
之ヲタイロンノ侯ニ封シテ招徠スレトモ從ハス密ニ西班牙ト通シテ
頻ニ英ノ兵ヲ破リ千五百九十九年ニ至テ其勢漸ク猖獗ナリ是ニ於テ
是歲四月王一萬八千ノ兵ヲエセックスニ附シテ之ヲ愛倫ニ遣リシニエ
セックス亦之ヲ制スルコト能ハス私ニ賊酋ト和ヲ約ス王怒テ之ヲ責ム
ルニ及テ自ラ辨解セント軍ヲ棄テ、英國ニ歸リタリ是ニ於テ王愈ヽ怒リ
之ヲ其家ニ禁錮シモントジョーイヲシテ其軍ヲ代領セシム○エセックス
ハ剛勇ニシテ能ク戰ヒ又才幹アリレイストルノ死後王ノ殊寵ヲ受ク
其性侃直ニシテ嘗テ劍ヲ案シ王ヲ罵リシコトアレトモ王之ヲ罪セス
愛倫ヨリ歸テ後憂懼シテ病ヲ生ストヽ聞キ王再ヒ哀憫ノ情ヲ發シ自ラ其家
ニ就テ病ヲ問ヘリ其後侯屢ヽ哀訴シテ其罪ヲ謝セシカ仇人ノ爲ニ阻隔
セラレテ其言王ニ達スルコトヲ得ス後某ノ事ヲ請フニ及テ王之ヲ聽
サスシテ曰ク暴戾ノ野獸ハ食ニ飽カシム可カラスト侯之ヲ聞テ大ニ
怒リ王ヲ罵テ曰ク老婆近來其心腰ト共ニ屈曲セリト是ヨリ深ク怨望
シ千六百一年黨ヲ結テ倫敦ヲ亂リ終ニ誅ニ伏ス○モントジョーイ愛倫
ニ至テ後連リニ土兵ヲ破リ千六百二年ニ至テタイロン終ニ降服シテ全
二島再ヒ平定セリ○千六百三年三月二十四日王死ス年七十在位四十五年
三ナリ始メエセックスノ盛時王其粗暴ニシテ終ヲ令クセサルヲ慮リ他日若シ

二四二

窮厄ニ罹ルコトアラハ我レ此環ヲ見テ必ス汝カ命ヲ救ハント一箇ノ指環ヲ取テ之ニ授ク後サ侯ノ刑セラルヽニ當テ王頻ニ之ヲ憐ミ窃ニ其哀ヲ請フヲ待チシカ侯終ニ之ヲ請ハス是歳ノッチンハムノ侯ノ妃死ニ臨テ王ニ見エント請ヒケレハ王自ラ其家ニ至ル妃一環ヲ出シ王ニ獻シテ曰ク此環ハエセックスノ刑ニ臨テ妾ニ託セシ者ナリ然レトモ妾良人ノ爲ニ制セラレテ之ヲ王ニ獻スルコトヲ得ス妾今上帝ニ見ユル時至レリ聊之ヲ以テ生前ノ罪ヲ除セント王之ヲ聞テ忽チ慟哭シ手ヲ以テ妃ノ背ヲ拊シテ曰ク神或ハ汝カ罪ヲ恕ストモ余ハ決シテ恕スルコト能ハス ト是ヨリ悲愁鬱結シテ病ヲ釀シ終ニ起タスト云フ遺命シテ位ヲ蘇王ゼームスニ傳ヘシム史家王ヲ論シテ曰ク王ノ端嚴强毅仁慈明察ハ前王ノ中多ク其比ヲ見ス唯惜ラクハ雍和謙虛ニ乏シク且人ニ接スルニ詐術多キヲ以テ未眞ノ良君タルコトヲ得スト王又其心ヲ制シテ過激ヲ抑ヘ私慾ヲ懲セリ然レトモ又甚タ嗤笑スヘキ者アリ常ニ己ノ容色ヲ愛シ頻ニ其顏ヲ粉飾シ死ニ至ル迄衰ヘス其老衰ヲ盲フ者アレハ之ヲ怒ルコト最甚シ又常ニ寵臣ヲ昵愛シテ其惑溺ノ甚シキ幾ト痴騃ノ如シト云フ

○ヘンリー第七世ノ位ニ即テヨリ是ニ至ル迄五世凡百十八年コンテチュードルノ統絶ス此朝ノ間之ヲプランタゼネットノ時ニ比スレハ議院ノ權却テ盛ナラス其因固ヨリ一ナラスト雖モ概シテ之ヲ論スレハプランタゼネットノ間反亂相踵テ繼嗣多クハ篡奪ニ由レリ故ニ歷世ノ君主議院ニ結テ其位ヲ固クシ常ニ其決ヲ仰キシカチュードルノ朝ニ至テハ世次相承ケテ繼立全ク其力ヲ假ラス之ニ加フルニヘンリー第八世及エリサベッスノ如キ幷ニ有爲ノ君ニシテ百事ヲ擅制シ他人ヲシテ容易ニ喙ヲ容レシメス議院ノ衰兆職トシテ是ニ由レリエリサベッスハ議院ヲ輕侮スルコト最甚シク千五百九十七年ノ間兩院評定ノ議案

二四十八條ヲ排拒スルニ至リ又院中ニ就テ二名ノ議員ヲ捕縛セシコト
二六アリ此二王ハ英邁ノ資アリテ其力能ク臣屬ヲ壓服セルヲ以テ當時敢
ヘテ背ク者無カリシカ其害他日ニ至テ發見シ遂ニ前古未有ノ大禍ヲ
惹キ起シ、ハ後王自ラ其力ヲ揺ラス又時勢ヲ察セサル罪ニ由ルト雖モ二
王實ニ其端ヲ啓キシナリ此頃ペチボーレンスト名クル者アリ我邦俗ニ云フ
用金ト稱スル者ト甚タ相類似セリペチボーレンスノ字ヲ譯スレハ冥加
金ナド云フ義ニシテ其始ハ貴族富商ノ類政府ニ事アルニ當テ自ラ其金
ヲ献シ國恩ニ報スルヲ主意トス然レトモ後世ニ至テハ王此事プラン
ヨリ嚴命ヲ以テ之ヲ課シ終ニ一種横歛ノ賦稅トナレリ
タゼチットノ間最盛ニシテチュードルノ朝ニ至テハ大ニ衰ヘタリト雖モ時
々尚其例アリ又モノポリート稱シテ一種專賣ノ制アリ我邦ノ所謂株式ノ類ニテ稍〻
其制ヲ異ニシ君主其證ヲ臣民ニ賜テ寵榮ノ具トセリ方今專賣ノ法ハ
新奇ノ術ヲ勸奬スル所以ニシテ固ヨリ其害ナシト雖モ此頃ハ之ヲ以テ
或ハ內官近竪ニ賜ヒ且專賣ノ物品多クハ鹽醋、鉛、鐵等ノ類ニテ之カ
爲ニ日用ノ諸物俄ニ其價ヲ增シ人民其害ヲ被ルコト淺少ナラス
エリサベッスノ末年此弊其極ニ至リ議院終ニ王ニ迫テ之ヲ廢ス然レトモ
尚未タ全ク止マスト云フ英國ニ於テ海軍ニ名ヲ得シハエリサベッスノ朝
ニ始マリ航海ノ術亦此時ヨリ大ニ進歩シテチュードルノ末年此術ニ名
ヲ得ル者多シ千五百八十五年ノ頃ワルトル、ラレート云フ者亞墨利加
ニ至テ始メテビルヂニアノ地ヲ開墾ス是レ英國ノ民ヲ西洲ニ移シ、始
ニシテ當今合衆部ノ濫觴ナリ

今郁亮校

二二七
改正
英史卷五終

正七位大島貞益　纂譯

## スチュアルト記上

〔ゼームス第一世〕スチュアルト氏ハ蘇格蘭古來ノ門閥ニシテ其英ノ王族ニ列リシハヘンリー第七世ノ妹マルガレットヨリ起レリ千五百三年マルガレット蘇王ゼームス第四世ニ適シテゼームス第五世ヲ生ム其子ハ即チマリーニシテマリーダルンリーニ嫁シテ王ヲ生メリ故ニ王ハヘンリー第七世ヨリ五世ノ孫ナリ王生レテ僅ニ一歳餘其母廢セラレテ其位ヲ繼キ後大凡三十五年ニシテ終ニ英王ノ位ヲ攝ス是ヨリ前エドワルド第一世兵ヲ蘇格蘭ニ弄シ二國始メテ怨ヲ結ヒシヨリ大凡三百年ノ間戰爭殆ト虛歲ナシ生靈干戈ノ禍ニ罹ル者其幾何ナルコトヲ知ラサリシニ是ニ於テ全島始メテ英ノ管轄ニ歸シタリ初ヘンリー第七世其

二九

殊ヲ嫁スルニ當テ大臣之ヲ諫ムル者アリ王之ヲ納レスシテ曰ク凡ソ物小ヲ以テ大ニ合スルハ理ノ常ナリ彼ノ王若シ我カ位ヲ繼クコトアリトモ必我ヲ以テ彼ニ加ヘス彼ヲ以テ我ニ加ヘン然レハ英國ノ能ク全島ヲ併一スルハ必コノ婚媾ヨリ始マルナラント是ニ至テ果シテ其言ノ如シ是時王年三十六歲嗜馬王ノ女アンヲ娶テ既ニ二男一女アリ其長男チヘンリート云ヒ次チチャールスト云ヒ女チエリサベスト云フ王幼ヨリ北鄙ニ生長シテ威儀ニ嫻ハス言語蹇澁麤止粗野ニシテ英人ノ始メテ謁見ヲ得ル者皆望ヲ失ハサルハ無シ王又有名ノ學士ゼオルジ、ボチャナンノ教育ヲ受ケテ群書ヲ渉獵シ自ラ該博ヲ以テ許シヽカ其學要領ヲ失テ全ク識見ナシシュルリーノ侯某常ニ王ヲ目シテ文明國中第一ノ博學愚者ト云ヘリ○千六百三年七月二十五日王ウエストミンストルニ於テ即位ノ禮ヲ行フ初メ王ノ英ニ入ルトキ蘇人多ク隨ヒ來リシカ是ニ至テ皆爵ヲ得官ニ列ナリ王位ニ即テ未タ三月ヲ出テサルニ新タニナイトノ爵ヲ得ル者七百人ノ多キニ至レリ按スルニ此頃ハナイトノ勳爵唯一モ驍勇ノ士ヲ擇マス然レトモ樞要ノ官ハ大抵舊規ニ因リ其内サリスボリーノ侯セシル首輔タリ此セシルハ即ナポルレーノ子ニシテ操行ハ稍〻其父ニ遜ルト雖モ才氣ハ之ニ下ラス王ノ位ヲ得タルハ此人與テ力アリ因テ終身其殊遇ヲ受クト云フ○是歲ロルド、コブハムクリッフヰン、マルカム等王ノ從妹アラベルラ、スチュアルトヲ擁シテ密ニ廢立ヲ謀リ其黨類悉ク捕收セラルワルトル、ラレーモ亦此事ニ坐シテ嫌疑ヲ蒙リ王坐スルニ反逆ヲ以テシテ之ヲトーウルニ幽ス○千六百四年三月十九日議員倫敦ニ聚リテ法教諸律ヲ議定シ又王ノ獨權ヲ以テ入港ノ飲料諸物ニ稅ヲ課スルコトヲ許シ名ケテトン稅ポンド稅ト云フ王又議院ニ因テ金ヲ得ントシ其員中心ヲ王ニ通スル者ニ命シテ其意ヲ諷セシカ兩院命ヲ奉セ

二三二

ス是ヨリ王意ヲ飾テ會中決シテ金貨ノ事ニ言ヒ及サズ然レトモ其意自平カナルコト能ハス數日ニシテ遂ニ議院ヲ閉銷ス○エリサベッス在位ノ間ハマリーノ時ニ於ケルカ如キ焚殺屠戮ノ事ナシト雖モ教徒ノ虐ヲ受クルコト尚ホ多シ故ニ王ノ即位ニ當テ舊教ノ諸人其母ノ故ヲ以テ皆翹首シテ新政ヲ望ミシモ王亦新教ヲ主張シテ毫モ先王ノ嚴ヲ弛メス是時舊教ノ徒ニカテスパイ及ペルシートテ二人ノ者アリ一日共ニ時事ヲ談シテ互ニ王ノ苛嚴ヲ謗議シ話次ペルシーハ微ニ王ヲ刺殺センノ意ヲ啓スカテスパイ之ニ答ヘテ曰ク王一人ヲ殺スモ事ニ益ナシ必根株ヲ絶タントセハ上下兩院ヲ併セテ之ヲ除クニ非レハ不可ナリト因テ火藥ヲ議院ノ床下ニ埋メ其開院ノ日王以下悉ク席ニ臨ムヲ待テ之ヲ爆殺セントト云フペルシー深ク此策ニ與シ必ス共ニ力ヲ盡サントト相約シテ別レシカ又ゴーイ、ハウクスト云フ者アリ原ト英國ノ產ニシテ此頃西班牙ノ軍ニ從テ和蘭ニ在リ其人元來豪暴ヲ以テ名ヲ得ルカ故ニ二人密ニ之ヲ英國ニ迎ヘテ密事ヲ告ケ其他數人ニ通知シテ徐ニ黨類ヲ招聚ス時ニ千六百四年ナリ翌年夏賊徒ペルシーノ名ヲ用ヰテ上院ノ隣ニ一屋ヲ僦シ頻ニ壁下ノ土ヲ鑿開セシカ又上院ノ床下ニ炭窖アリテ假借スヘシト聞キ更ニ此窖ヲ僦シ中ニ火藥三十六桶ヲ塡シテ綿密ニ薪柴ヲ其上ニ掩覆ス是年冬ヨリ春ニ至ル迄公會屢〻期ヲ愆ヲ遂ニ十一月初五ノ日ヲ以テ開院ト定マリタリ此間十八月ノ久シキヲ經テ之ヲ覺ル者ナカリシカ上院中ノ一員ニロルドモントイーグルト云フ者アリ會議ニ先タツコト十日其僕一封ノ書ヲ持シ來テ之ヲ捧ケテ曰ク奴忽然此書ヲ得タレトモ何人ヨリ遞與セルコトヲ知ラストモント

二三三

イーグルヲ展觀スルニ紙尾全ク名字ヲ載セス其中言ヘルコトアリ曰ク今回ノ會議神人共ニ合シテ衆惡ヲ罪セントス汝宜シク事ニ托シ

ヲ會議ニ往クヘカラス其禍發スルニ當テ人々其自ル所ヲ知ラスト雖モ其害實ニ恐ルヘシ汝必余カ言ヲ輕視スルコト勿レト此書何人ノ作ル所ナルコトヲ審ニセス蓋シ叛黨ノ一人フランシス、トレッシャムト云フ者モントイーグルト姻戚ノ親アリ且同シク舊教ノ徒ナルヲ以テ暗ニ此書ヲ投シテ其命ヲ救ハンコトヲ欲セシナリ然レトモモントイーグル其意ヲ解セス之ヲ以テセシルニ示シヽニセシル亦曉ルコト能ハス是ヨリ又數日ヲ經テ後セシル王ノ佃獵ニ從テ野外ニ出遊シ談話ノ間偶然此書ノ事ヲ王ニ語リシニ王忽チ蹙額シテ曰ク此レ必小事ニ非ス蓋シ火藥ヲ以テ議院ヲ覆サントスル者アルナラント然レトモ王尚ホ秘シテ他人ニ告ケス十一月四日ニ至リ密ニソッホルクノ侯ヲシテ院下ノ窖ヲ驗セシメシニ薪柴ノ疊積セルノミニテ別ニ異アルヲ見ス然レトモ傍ニ魁偉ノ一男子アリテ其相貌甚疑フヘシ之ヲ問ヘハ唯答ヘテペルシー氏



ノ僕ナリト云フ此夜人定ノ後官吏再ヒ王ノ命ヲ受ケテ窖中ニ至リシニ以前ノ男子手ニ提燈ヲ携ヘテ又戸外ニアリ因テ急ニ之ヲ捕ヘ其身ヲ搜索シケレハ發燭及燧石ノ類點火ニ須要ノ物悉ク其壞中ニ在リ官吏愈ヽ怪ミ窖中ニ入テ薪材ヲ飜シヽカ果シテ數十桶ノ火藥アリテ掘リ出シタリ翌日王此人ヲ鞫訊シテ其實ヲ答フルヲ聞ケハ即チーイ、ハウクスナリ然レトモハウクス慨然獨リ擔當シテ敢ヘテ同盟諸人ノ姓氏ヲ語ラス唯ヽ曰ク恨ムラクハ早ク火藥ヲ迸裂シテ讎敵ト共ニ焦死セサリシコトナト是ヨリ先叛黨諸方一時ニ起ラントシ其中數人既ニ兵器ヲ整ヘテワルウヰッキ州ニ在リ倫敦ノ叛徒ハウクスノ執ヘラレシヲ聞テ倉皇逃レテ此地ニ至リシカ其數僅ニ五十ニ過キス近傍ノ土兵爭ヒ起テ之ヲ圍ミ賊徒防戰ノ間其火藥忽チ火ヲ發シ人々焦爛シテ戰フコト能ハスペルシー及カテスバイハ一丸ノ爲ニ貫射セラレ其餘黨類多クハ擒縛

セラレテ各法ニ伏ス○王常ニ遊樂ヲ好ミ又屢侍臣ニ寵賚シテ財用給セス千六百十年王又稅ヲ賦セントシテ新ニ議員ヲ徵シセシルヲ院中ニ遣テ其意ヲ告ク然レトモ二院ノ獻納スル所寡少ニシテ王ノ意ニ滿タス是ニ於テ王更ニ獨權ヲ以テ貿易諸品ニ稅ヲ課セントセシカ下院固ク其不法ヲ陳シテ聽カス此頃封建ノ遺習尙ホ存セル者多クシテベテボーレンス及モノポリー等ニ見ユ（解上卷）ノ外君主臣屬ノ遺孤ヲ保育スト稱シテ其財產ヲ私シ或ハ非薄ノ傭錢ヲ以テ驛路ノ車馬ヲ役シ又民物ヲ買取スルニ主者ニ問ハスシテ擅ニ其償ヲ定ムル等ノ弊アリ議院此等ノ惡習ヲ除カントテ每歲二十万ポンドノ定額ヲ獻シ此數事ニ代ヘント請ヒシカハ王初ハ頗ル之ヲ好セシカ翌年二月其議未タ決セスシテ俄ニ院ヲ閉チ尋テ悉ク議員ヲ解散ス方今英國ノ議員ハ七年ニ一次改撰スルヲ定制トス此頃ハ其期限全ク定マリナシト雖代撰ヨリ代撰ニ至ル間常ニ公會ヲ設クルニ非スアショールンメント名ケテ議院自ラ院ヲ閉ツルコトアリプロロゲーショント名ケテ王ヨリ之ヲ閉ツルコトアリ此二ノ者ハ共ニ議院ヲ改撰スルニ非ス唯暫時ノ間會ヲ罷ムルノミナリ本文中聚ト云ヒ徵ト云フハ新撰ノ議員始メテ會ヲ開クヲ云ヒ解ト書スルハ之ヲ遣歸スルヲ云フ又閉ソ學ヲ用ヰルハ其中間ノ會議ニ就テ云フナリ是ヨリ以下殊ニ內亂ノ終ニ至ル迄ハ明ニ此義ヲ區別セサレハ粉亂ヲ生シ易シ覽者匆々ニ讀過スルコト勿レ○エリサベッスノ末年東印度商社始メテ官許ヲ得テ印度地方ノ通商ヲ開キシカ千六百十一年ニ至リ其年限ノ盡クルヲ以テ更ニ王ニ請ヒ復官許ヲ得テ始メテシュラットニ商館ヲ建立ス此頃王又意ヲ銳クシテ愛倫ヲ墾開シ絕島始メテ開化ノ餘光ヲ受ク○千六百十二年五月セシル死シ尋テ十一月六日世子ヘンリー亦歿ス世子幼ヨリ穎悟コレテ器度衆人ニ卓越シ其死ニ當テ年尙ホ十八歲ナリシカ近臣ノ爲ニ畏敬セラルヽ事迥ニ其父ニ優レリ○千六百十三年二月十四日王女エリサベッスヲ以テ日耳曼國中ラインノ部長フレデリッキニ嫁スエリサベッス後ニ至テソヒアヲ生ミソヒアハノーブルノ部長オーピスチュスニ嫁シテセオルジ第一世ヲ生ム即チ今王ヒクトリ

ヤノ祖ナリ○セシル死シテ後ロベルト、カルト云フ者代テ首輔ト爲リタリカルハ原ト蘇格蘭ノ人ニシテ千六百九年ノ頃始メテ朝ニ仕ヘ容貌言辭ヲ以テ頻ニ寵眷ヲ蒙リシカ是ニ至テ王之ヲ扳擢シ尋テ又ソメルセットノ侯ニ封ス是時故エセックスノ一子其父ノ爵ニ復セラレテ亦エセックスノ侯ト稱セシカカヌ登用セラレテ後密ニ其妃ト情ヲ通シテ之ヲ奪ヒ其友トマスオーブレボリーノ諫止スルヲ怨ミテ遂ニ之ヲ讒陷シ後暗ニ獄中ニ毒殺ス既ニシテ千六百十六年カルノ寵衰フルニ及テ其舊惡ヲ訴フル者アリ黨類悉ク法ニ伏セシカ王尙ホカルヲ刑スルニ忍ヒス只其官爵ヲ褫テ朝廷ヲ屏斥ス後二人共ニ僻地ニ退キ相仇視シテ身ヲ終フト云フ○千六百十四年四月王又財庫ヲ補ハンコトヲ欲シ議員ヲ徵シテ之ヲ議セシム然トモ下院命ヲ奉セスシテ曰ク先ツ悉ク弊政ヲ除クニ非スハ決シテ輸稅ノ事ニ及フコト能ハスト王怒テ直チニ之ヲ解キ議員未タ一事ヲ議定セスシテ分散ス是ニ於テ王又ベチボーレンスノ法ヲ用ヰ其命ヲ奉セサル者ヲ捕ヘテ之ヲ罰セントセシカ刑法長官コークノ其不法ナルヲ固諫スルニ因テ此議亦行ハス其後コーク屢王ト法ヲ爭辨シ千六百十七年終ニ之ヲ以テ官ヲ去リ後下院中ノ一員トナリテ分爭ノ間大ニ其名ヲ顯セリ○千六百十五年ノ頃ヨリ王又ビルリールスト云フ者ヲ寵嬖シテ是ヨリ後數年ノ間此人累遷シテボッキンハムノ侯ニ封セラレ又頗ル政府ノ機事ニ干預ス此人亦奸佞ノ一小人ニシテカルト同シク外貌ヲ以テ寵ヲ蒙リ其登庸セラレシヨリ飲讌逸樂朝廷ノ風ヲ爲シ朝中ノ故老先王ノ威儀ニ閑フ者ハ皆之ヲ指彈セサルコトナシ○千六百十八年王大學士ベーコンヲ以テ相國トシ尋テ又セント、アルバンスノ侯ニ封スベーコンハ其說コークト相反スルヲ以テ常ニ王ノ爲ニ寵セラル○ワルトル、ラレー始メテビルヲニアニ殖民セシ後ヲ海

二ヲ渡リ來ル者多クハ遊惰ノ都人士ニシテ其跡一旦殄絶セシカ千六百四〇六年倫敦及プライマウス幷ニ會社ノ名ノ二會社更ニ官許ヲ得テ此地ニ民ヲ移シ是ヨリ英國ノ土人亞墨利加ニ移住スル者日ニ多シ時ニラレーハ其前コブハム等ノ不軌ニ連坐シテ罪ヲ蒙リシヨリ尙獄中ニ在リ此頃西洲開拓ノ議日ヲ逐テ盛ナリト聞キ唱ヘテ曰クギアナノ內地ニ一大金山アリテ唯己レノミ之ヲ知レリト王聞テ之ヲ信シ千六百十七年ラレーノ禁獄ヲ釋キ數隻ノ船ヲ附シテ之ヲ亞墨利加ニ發遣ス然レトモ此事固ヨリ虛誕ノ妄說ニシテ唯幽囚ヲ免ルヽノ計ナルヲ以テラレーギアナニ至テ直ニ西班牙ノ屬地ヲ亂暴シ其一邑ヲ燒テ後一モ得ル所ナクシテ歸リタリギアナハ初英人ノ撿出ニ係ルト雖中コロ西人ノ所有トナレリ故ニラレーノ發スルニ臨テ英國在留ノ西使之ヲ爭ヒシカ是ニ至テ王又西使ノ爲ニ責メラレ千六百十八年十二月終ニラレーヲ戮シテ西班牙ニ謝ス〇千六百十八年ポヘミア新教ノ徒日耳曼政府ノ虛ニ苦ミ英王ノ女壻フレデリッキヲ奉シテ日帝ヘルシナンド第二世ニ叛ス此戰爭後ニ至テ全歐洲ニ波及シ千六百四十八年ニ至ル迄連結ノ解ケス世ニ三十年ノ戰ト稱スルハ即是ナリ英人皆謂ヘラクポヘミアハ同教ノ國且フレデリッキハ姻戚ノ故アルヲ以テ救援セスンハ有ル可カラスト然レトモ此時王ハ世子チャールスノ爲ニ西王ノ女ヲ娶ラントヲ擬シ其議ノ阻閡セラルヘキヲ恐レ且臣民ノ其政府ニ叛クヲ助クルハ不義ナリト云テ契然顧ミス國人囂々之ヲ議スルニ及テ僅ニ四千ノ兵ヲ遣テラインヲ守ラシム〇千六百二十一年議員又倫敦ニ聚リ一月三十日會議ヲ開クニ當テ直ニ弊政ヲ討論セシカ既ニシテ又汚濁ノ官吏ヲ淘汰スト稱シロルド、ベーコンヲ捕テ其屢苞苴ヲ受クル罪アルコトヲ鞫問シ其狀二十八條ヲ得シカハ遂ニ其官職ヲ褫テドーウル中ニ幽閉ス其前ベーコン先王ノ朝ニ在テ始テ仕ヲ求メシ頃ポ

二四二

ルレー密ニ先王ヲ諫メテ曰クベーコンハ奇才アリト雖其才唯文學ニ長シテ政治ニ任スヘキ人ニ非スト既ニシテエセックスノ罪ニ陷ルニ及ヒベーコンラレー等ト共ニ主トシテ其獄ヲ搆成シ是ニ至リ又貨ヲ以テ敗ルト云フ然レトモ王其才ヲ愛ミ幾許ナラスシテ之ヲ獄ヨリ出シ年々若干ノ金ヲ餽テ其老ヲ養ハシム○是ヨリ先千六百二十年ボヘミアノ兵大ニプラーグニ破レテフレデリッキ單身和蘭ニ遁走シ是歲夏ニ至テ墺兵ライン ニ亂入シテ敗報連ニ英國ニ至リシカハ國人急堪フルコト能ハス十一月十四日再ヒ議院ヲ開クニ至テ下院上書シテフレデリッキヲ救ヒ且西班牙ノ婚議ヲ破テ世子ノ爲ニ別ニ新教ノ女ヲ娶ランコトヲ請フ然レトモ是時婚議既ニ半ニ至ルヲ以テ王其書ヲ受ケス院中ニ言ハシメテ曰ク朝廷ノ機密ハ汝等ノ得テ解スル所ニ非スト下院之ヲ聞テ大ニ驚キ固ク其語ノ政體ニ害アルヲ爭フニ至リ王又其職ニ踰ユル罪ヲ責メ且其中汝カ曹ノ國事ニ與ルコトヲ得ルハ皆我祖先以來ノ特恩ニ因ルトノ辭アリ是ニ於テ下院一大議論ヲ發シ英國議院ノ權ハ古來政體ノ定ムル所ニシテ決シテ君主ノ恩賜ニ非ルヲ極論セシカハ王大ニ怒テ自其書ヲ衆人稠坐ノ中ニ裂キ尋テ又議院ヲ閉鎖ス王ハ持論專恣ニシテ法律ノ下ニ屈スルコト能ハス居常人ニ語テ曰ク君權ハ神授ニシテ臣民ノ得テ觸ル可キニ非スト常ニ此論ヲ以テ議院ヲ規スルカ故ニ其議相悃フコト能ハス翌年二月遂ニ又議員ヲ解キセルデン及前ノ刑法長官コーク等ヲ首トシ其他抗論セシ者ヲ執ヘテ獄ニ投シケレハ議員モ亦皆憤々トシテ分散セリ○王既ニ議員ヲ散シテ後世子ノ婚ヲ成シテフレデッリキヲ穩ニ國ニ返シ是ヲ以テ人口ヲ塞カントス頻ニ其事ヲ議セシカ忽一意外ノ事ヲ生シ其議殆ト成ルニ至テ又俄ニ破ル

二四三

此頃ボッキンハムノ侯ビルリールス盛ニ王ニ寵アリ又世子ノ歡ヲ得ン

二四コトヲ欲シ之ニ説テ曰ク公子微行シテ西班牙ニ至リ西王ト婚事ヲ面
四議セハ事意表ニ出テ、西王必大ニ悅ハント世子大ニ之ヲ然リトシ強
ヒテ王ニ請テ千六百二十三年二人英國ヲ發セシカ其途中巴勒ヲ過リ
世子佛王ノ女ヘンリータヲ瞥見シテ其色ヲ悅ヒ且ボッキンハムモ亦西
國在留ノ間其大臣ノ爲ニ禮セラレサルヲ怒テ二人俄ニ其心ヲ變シ是
歲十月英ニ歸ルニ及ヒ力メテ婚議ヲ拒ミシカハ王止ムコトヲ得スシ
テ之ニ從ヒ更ニ世子ノ爲ニヘンリータヲ娶ラント約ス○千六百二十
四年王遂ニ西班牙ト絕シテ大ニフレデリッキヲ援ントシ二月十九日議
員ヲ徵シテ其意ヲ演フボッキンハム亦院中ニ至テ西國微行中ノ顚末ヲ
語リ巧ニ事實ヲ譎テ皆罪ヲ西人ニ歸セシカハ議院奮然トシテ直ニ三
十萬ポンドノ金ヲ備ヘタリ是ニ於テ是年冬王先ツ六千ノ兵ヲ和蘭ニ遣
テ倘ホ盛ニ軍事ヲ議セシカ翌年三月二十七日未タ其師ヲ出スニ及ハスシ
テ王病ニ罹テ死ス時ニ年五十九在位二十三年ナリ
〔チャールス第一世〕王ハ先王ノ第二子ニシテ千六百十二年其兄ノ死ニ依
テ立テ世子トナリ是ニ至テ其父ノ位ヲ嗣ク王ハ舉止莊嚴ニシテ又躬ラ
節儉ヲ務メ其性質大ニ父ト異ナリ但惜ムラクハ先王擅制ノ說ニ浸潤
セラレ君タル者ハ固ヨリ斯ノ如クナルヘシト自ラ其性ル、所ニ安シテ
疑ハス加フルニ其人ヲ馭スルニ詐術ヲ以テシ信任スル所亦其人ニ非
ス因テ遂ニ民心ヲ失ヘリ○是歲六月王代者ヲ佛ニ遣テヘンリータノ
婚儀ヲ成シ尋テボッキンハムヲシテ之ヲ英ニ迎入セシム○王先王ノ遺
緒ヲ繼テ兵ヲ日耳曼ニ出サンコトヲ欲シ是月始メテ議員ヲ徵シ、ニ
此回ノ貢員ハ其說大ニ前次ト異ニシテ專ラ革弊ノ論ヲ主張シ僅ニ十四
二四萬ポンドノ軍資ヲ納レテ其餘ヲ肯セス會都下ニ疫癘ノ行ル、ニ依テ
五王會議ヲオキスホルドニ遷シ此處ニテ又頻ニ戰爭多費ノ狀ヲ陳セシ

カ是時コーク及セルデン等再ヒ議員ノ中ニ選マレ其他ジョン、エルリオット、トマス、ウェントウルス及パイム等皆雄辯果敢ノ士ニシテ必民害ヲ去ントセハ王ノ窘迫ニ乘スルニ如カスト頑乎トシテ其論ヲ枉ケス既ニシテ寵臣ボッキンハム密ニ戰艦ヲ佛ニ貸シテロセールノ新教徒ヲ討スト聞キ下院滋ヒ懌ハス此際疫癘又オキスホルドニ流傳セシカハ王乃チ之ヲ口實トシテ八月十三日遂ニ議員ヲ解散ス ロセールハ佛ノ地名ニシテ其國ノ新教徒屢佛將リセリュノ爲ニ敗ラレ此頃此地ヲ懸守セリ以下事理繁雜ナルカ故ニ外國ノ事頃ニ至テハ間詳ニ其由ヲ述ヘサル者アリ覽者之ヲ知ラントセハ官版西史綱紀○此時未タ西班牙ト釁端ヲ開カス故ニ其戰爭尚ホ止ムニ及フヲ見ルヘシ可キヲ王強ヒテ少許ノ兵ヲ募リエドワルド、セシルヲ將トシテ之ヲ發遣セシカセシル途中ニカヂースヲ攻テ却テ敗衂シ大ニ軍兵輜重ヲ喪テ歸リタリ○千六百二十六年二月王又議員ヲ徵ス然レトモ下院前説ヲ固執シテ隻言ヲ變セス王モ亦頑僻ニシテ憑ヲ枉ケテ之ニ從フコトヲ知ラス是ヨリ先王屢ブリストル侯某ノ不遜ヲ憤リ是ニ至テ之ヲ上院中ニ執ヘントセシカハ侯却テボッキンハムノ惡事ヲ論シ劾シテ曰ク西班牙ノ戰ハ皆其私怨ニ出ツト下院亦其後ニ尾シテ盛ニ其罪ヲ鳴ラシ、カハ王懼レテ又之ヲ解散ス○千六百二十七年王亦佛國ト怨ヲ搆ヘボッキンハムヲロセールニ遣テ其教徒ヲ援ケシム是ヨリ先ボッキンハム王ノ聯姻ノ故ヲ以テ又佛王ニ結ハントセシカ其相リセリューノ爲ニ輕侮セラルヽヲ怒テ王ニ勸メテ此舉ヲ謀リシナリ時ニ王議院ニ得ラレス且強ヒテ民財ヲ借リ或ハ濫ニ貢稅ヲ課スト雖其令行ハレス府庫蕩盡シ術計殆ト窮マリシニ又無用ノ兵ヲ起シ令下ルニ及テ國人皆愕然タラサルハナシ既ニシテボッキンハム兵ヲ率ヰテロセールニ至ルニ及ヒ邑人侯ノ人ト爲リヲ疑テコレヲ入レス因テ轉シテレー島ヲ攻メテ其兵大ニ敗レ其行亦徒ニ下民ノ謗議ヲ增スノミナリ○諸方ノ征戰悉

二四八

挫敗シテ國用愈〻給セス千六百二十八年三月王又議員ヲ徵シ其開院ノ日自ラ院中ニ至テ曰ク汝等迷ヲ執テ回ラス命ニ背キ職ニ惰ラハ予別ニ爲ル所アリト然レトモ是時下院ノ氣勢固ヨリ瞽盲虛喝ノ得テ威服ス可キニ非ス加フルニ此回ノ代員ハ皆才學膽富ノ豪族ノミニシテ直ニ暴政ヲ例舉シ一書ヲ作テ之ヲ王ニ獻ス其畧ニ云ク願クハ王威力ヲ以テ强ヒテ民財ヲ借リ或ハ之ヲ奪フコト勿レ議院ニ由ラスシテ貢稅ヲ賦スルコト勿レ妄リニ人ヲ幽囚シ或ハ故ナクシテ之ヲ獄中ニ抑留スルコト勿レ擅ニ水陸兵士ヲ民家ニ屯シテ其財ヲ以テ之ヲ給養スルコト勿レ軍法ヲ以テ平時ノ法ヲ亂ルコト勿レ此等ノ事ハ古來既ニ定マレル所ニシテ律書中歷々トシテ明文アリ願クハ王古法ニ循守シテ長ク良君ノ名ヲ保チ臣等ヲシテ亦不羈自由ノ民タルコトヲ得セシメヨト此間往復倚卑遜ノ語ヲ用ヰテ議員未タ臣禮ヲ破ラスト雖其氣朝廷ヲ呑ミ勢ヲ以テ迫ルノ意既ニ隱然タリ然レトモ王尙ホ改ムルコトヲ知ラス遁辭ヲ以テ之ヲ亂ラントシケレハ下院大嚷シテ再ヒ舊論ヲ復シポッキンハムノ罪ヲ歷詆セシニ因リ王終ニ逃ル可カラサルヲ知リ其書ヲ取テ律書ノ中ニ增入ス此書題シテペチーション、オフ、ライトト曰フマグナ、カルタ以來ノ大律ニシテ後人之ヲ並稱シテ今ニ至ル迄尊重セリポッキンハムハ其後王ノ議院ヲ閉ツルニ依テ僅ニ刑戮ヲ免レシカ是年再ロセールニ赴カント八月二十三日ポルツマウスニ水軍ヲ調スルニ當リ部下ノ士ヘルトンノ爲ニ刺殺セラル○王既ニ議院ノ請ニ從ヒ新律ヲ立ツト雖固ヨリ之ヲ守ルニ意ナシ千六百二十九年三月王公會ヲ解キ是ヨリ後ハ到底下院ノ屈ス可カラサルヲ計リ心ニ暫テ復タ之ヲ徵サス爾後大凡十年ノ間或ハ船錢ト名ケテ大ニ海軍ノ費ヲ募リ或ハ强借ノ法ヲ用ヰテ民財ヲ徵取シ其他中古以來廢絕シタル諸法ヲ復シテ苟モ金

二四九

二五

貨ヲ得ヘキ術アレハ其殘酷ト殘暴トヲ顧ミス此ノ如クナリケレハ全

○國ノ人心淘々トシテ百姓ノ怨讟一日ハ一日ヨリモ甚シ要シテ之ヲ論スルニ英國貢稅ノ權ハ悉ク議院ニ屬スルニ王今議院ヲ離レテ之ヲ徵スヲ故ニ舉クトシテ不法ナラサルハナシ蓋シ船錢ノ如キハ王實ニ之ヲ海軍ニ用ヰテ國ノ禆益ヲ爲スト雖徵取其法ニ非サルカ故ニ民尙之ヲ憚ハス又王ノ民心ヲ失ヒシハ獨リ聚斂ノ一事ノミニ非ス此頃新教ノ支流コピュリッタント名クル一派アリテ盛ニ國中ニ行レ其說稍國教ト徑庭セシカハ王ロードト云フ高僧ノ言ヲ聽テ之ヲ虐ス其徒苦テ多ク亞墨利加ニ逃ルヽニ及ヒ又諸港ヲ鎖シテ民ノ外國ニ流移スルコトヲ許サス之ヲ以テ怨ヲ教徒ニ結ヘリ王又官爵ヲ懸ケテ數名ノ議員ヲ馴致シ其中ウエントウルスヲ擢用シテ之ヲ以テ民怒ニ抗セントセシニ此人官ニ就テヨリ大ニ持論ヲ變シテ頻ニ王權ヲ擴張ス故ニ其黨其富貴ノ爲ニ心ヲ變スルヲ憎ミ皆之ヲ視ルコト仇讎ノ如シ其他王ノ百術千計必シモ皆不善ナルニ非サレトモ既ニ人心ヲ失シテ後ハ王剛毅ヲ以テ事ヲ强フレハ人之ヲ稱シテ暴ト云ヒ又非ヲ知テ過ヲ謝スレハ之ヲ其性ノ怯ナルニ歸シ一舉一動悉ク民情ニ觸忤シテ千六百三十七年ニ至リ遂ニ土崩瓦解ノ階ヲ開ケリ○法教改革ノ後ヨリ蘇格蘭ニハ別ニ其國ノ教法アリテ稍英國ト同シカラスセームス英ニ入テ後全島ノ法教ヲ一ニ歸セシコトヲ欲シ千六百十二年ノ頃自蘇格蘭ニ至テ教律ヲ改革セシコトアリ此時國人既ニ新法ニ不服ナリシカ王又父ノ意ヲ繼テ屢其國ノ教事ヲ改メシニ王及ロード等ノ說少シク羅馬教ニ傾キ諸儀制舊法ニ疑似スルコト多キヲ以テ北人彌之ヲ悅ハス千六百三十七年王英

二五

國ノ制ニ倣テ禮拜ノ式ヲ制シ七月廿三日始メテ之ヲエヂンボロトノ

一

寺院中ニ讀マシム本日一人ノ僧官盛服ヲ著シテ其壇ニ臨ムニ及ヒ群

二五二 民忽チ大哄シテ僧官其書ヲ讀ムコトヲ得ス僧官尙ホ之ヲ壓制セントス强ヒテ壇ニ上リケレハ一人椅子ヲ取テ其頭ニ擲チタリ僧官大ニ驚キ壇ヲ下テ遁走シケレハ群民追テ其家ニ至リ殆ト之ヲ毆殺セントス是ニリ國人大ニエヂンボローニ會シテ國敎扞護ノ詔書ヲ作リ都鄙ノ人民競テ之ニ署押シ全國俄ニ糜沸ノ如シ王始メテ懼レ急ニ新法ヲ廢棄シタレトモ其時既ニ晩クシテ國人之ヲ足レリトセス千六百三十八年冬國人密ニ西班牙及佛國ノ兵ヲ借テ國中所々ノ城砦ヲ奪ヒ進テ二國ノ境ニ迫ラントス王乃チ之ヲ鎭壓セントス二萬餘人ノ兵ヲ募リ翌年二月悉ク國中ノ貴族ヲ從ヘ盛ニ儀衛ヲ整ヘテベルウヰッキニ到著シタリ是ニ至テ王遂ニ和ヲ議シ兩軍一旦其兵ヲ解キシカ既ニシテ其議又破ル然ルニ王ノ軍資ハ此時既ニ盡キテ復ヒ兵ヲ養フコト能ハス或人公會ヲ開カンコトヲ王ニ勸メテ曰ク王若シ氣ヲ降シ意ヲ和ケテ之ニ謀ラハ彼レ豈ニ必シモ王ニ不良ナランヤト王其議ニ從ヒ千六百四十年四月又議員ヲ徵聚ス時ニ會議ヲ缺クコト已ニ十一年ナリ本日王躬ヲ往テ會ヲ開キ言ヲ曰ク今次ノ會議予汝カ輩ノ力ニ依テ蘇人ノ反ヲ討セントコトヲ欲スト一人傍ニ在テ又其言ヲ贊ス然レトモ衆員之ニ應セス又漸ク王ノ不誠ヲ論シケレハ王事ノ諧ハサルヲ知リ僅ニ一月ニシテ之ヲ解散ス英軍是ノ如クシテ趦趄スル間北人ハ再ヒ軍ヲ整ヘテ八月二十日既ニドウヰード河ヲ踰エ同二十七日始メテ王ノ分隊ト戰テ之ヲ破リタリ是ニ於テ英軍ハ退テコルクシールヲ保シ蘇人ハ軍ヲニューケッスルニ進ム此時王ウェントウルスト共ニコルクニ在リシカ軍須虧缺シテ敵ノ新銳ニ當ルコト能ハス之ニ加ルニ軍中竊ニ志ヲ北人ニ通スル者多ク國人ノ沸騰モ亦日々ニ盛ナリケレハ王愈狼狽シテ百計出ス所ヲ知ラス九月二十四日

二五三 貴族大ニコルクニ會シテ假ニ北人ト寢兵ノ約ヲ定メ議院ニ憑ルニ非

レハ此急難ヲ解ノコト能ハストテ頻ニ公會ヲ促シ、カハ王已ムコヲヲ得ス又諸州ノ議員ヲ徵シテ倫敦ニ會セシム○千六百四十年十一月三日此回ノ議員始メテ會議ヲ開キ是ロリ千六百六十年ニ至ル迄解散セス世ニ之ヲ名ケテ長公會ト云ヘリ時ニ其前久シク會議ヲ缺キ加フルニ下民ノ憤怒鬱積セシヲ以テ兩院ノ始テ開クル即チ叫屈伸寃ノ書紛然湧カ如クニシテ殆ト應接理治ノ遑アラス此十年ノ間朝臣最モ下民ノ爲ニ屬目セラルヽ者四人アリ其二人ハ即チウェントウルストロードニシテ其他二人ハウェンデバンク及フリンチトテ故トロードノ爲ニ薦進セラレシ者ナリ中ニ就テウェントウルスハ其前ストラホルドノ侯ニ封セラレ尊テ愛倫ノ都督トナリ常ニ王ノ謀主トシテ其計畫ニ參リ百姓ノ爲ニ怨ヲ受クルコト殊ニ深カリケレハ下院第一ニ此人ヲ除カント建議シ其議ノ洩レンコトヲ懼レ院ヲ鎖シテ之ヲ討論スウェントウルスモ亦自ラ



衆怨ノ歸スルヲ知リ深ク會ヲ懼ルヽ意アリ然レトモ此回ノ公會ハ王殊ニ侯ノ才力ニ依賴シテ其會ニ臨マンコトヲ欲シ且王尙ホ自ラ信スル所アリ故ニ侯ヲ慰シテ曰ク予在リ彼輩ヲシテ汝カ一髮ヲモ害セシメシト侯之ヲ辭スルコト能ハス是月九日倫敦ニ來リ同十一日始メテ上院ニ至リシニ下院方ニ侯ノ罪案ヲ議シ終リテ之ヲ上院ニ輸シヽ時ナリケレハ直ニ侯ヲ執ヘテ獄ニ投シタリ斯テ下院ノ氣勢一時ニ暴發シテ收束ス可カラス後ヲ數日ニシテウェンデバンク及フリンチハ禍ヲ懼レテ共ニ他邦ニ奔竄シ十二月十八日ロード亦執ヘラレテ獄ニ下サル王一朝ニ四人ノ股肱ヲ失ヒ朝廷ノ百官皆股栗シテ一語ヲモ出スコト能ハス王亦勢ノ敵ス可カラサルヲ知リ手ヲ拱シテ敢ヘテ爭ハス會議起テ僅ニ數週ヲ出テサルニ國權暗ニ下院ノ手ニ歸シタリ○是ニ於テ下院不法ノ稅ヲ除キ無辜ノ囚ヲ釋シ諸專斷ノ法術ヲ撤シ又印行ノ自由ヲ

二五六 復シ凡法衙ノ官吏租税ノ徵使或ハ市邑ノ尹令ノ類其前十年ノ間王意ニ阿テ暴威ヲ逞クセシ者皆兇徒ノ名ニ坐シ不時ニ撥摘セラルヽカ故ニ人々危懼ノ心ヲ抱テ屏息スルニ至レリ且此時下院ノ人員獨リ百姓ノ黨ノミニ非スハイド及ハルクランド等ノ如キハ皆沈實ニシテ過激ヲ好マス深ク心ヲ王家ニ存スト雖モ弊害ヲ鋤クノ一事ニ於テハ其議常ニ相協和シテ一人ノ異ヲ立ツル者ナシ又此回ノ集議ハ北方ノ擾亂ヨリ起リシニ因テ始メテ王ノ傲頑ヲ挫キシハ北軍ノ力ニ依レリトテ下院密ニ北軍ト相維持シテ故ニ之ヲ解カス又往時エドワルド第三世ノ朝ニ一年一次必議員ヲ徵ス可シトノ律定マリシカ後世嚴ニ之ヲ守ラス是ニ至テ議院一事ヲ定メテ云議員徵聚ノ期ハ必三年ヲ超ユ可カラス毎三年九月三日朝廷必徵員ノ檄ヲ發スヘシ又官若シ其檄ヲ發セスハ諸州ノ人民自ラ會シテ議員ヲ撰貢スヘシト又云フ會議五十日ニ滿タサレハ議院ニ謀ラスシテ之ヲ閉鎖シ或ハ解散ス可カラスト又ピュリッタンノ教派ハ質林潔素ヲ旨トシテ舊教華奢ノ風ト氷炭相容レス然ルニ此頃下院ノ人員十ノ六七ハ皆此派ノ人ナリケレハ近頃國教ノ彌ヽ昔時ニ復セントスルヲ惡ミ寺院ノ彫飾或ハ木像ノ類ノ如キ皆焚毀シテ一物ヲ遺サス又僧官ハ宜シク國事ニ與カルヘカラストテ悉ク之ヲ上院中ヨリ逐ハント謀リシカ上院ノ之ニ與セサルヲ以テ其事僅ニ息ミタリ蓋シ議院ノ分爭起リシヨリ是ニ至ル迄上院ハ只依違スルノミナリシカ此頃下院ノ爲ル所稍ヽ激暴ニ涉ルヲ見テ始メテ憤發抗爭スル者アリ○千六百四十一年三月二十八日兩院各ヽ數員ヲ擇テ始メテウェントウルスノ糺彈ヲ開キ下院其罪二十八條ヲ舉ケテ云フウェントウルス王ヲ佐ケテ國家ノ舊法ヲ覆シ獨裁擅制ノ政府ヲ建テヽ之ニ代ヘント謀レリト下院

二五七 又反逆ノ罪ヲ以テ侯ヲ處セント謀リシカ英國ノ舊制直ニ王身ヲ犯ス

二者ニ非レハ反逆ノ例ニ入ルヽコトヲ得ス下院乃チ牽強ノ說ヲ作テ曰ク
五八 專斷ノ制ハ王ノ身ニ害アリ苟モ王ヲ誘シテ危害ニ陷ラシムル者ハ反
逆ヲ以テ之ヲ論シテ可ナリトウェントウルス口ヲ極メテ之ヲ辨駁シ十七
日ニシテ屈セス其議論爽快痛切ニシテ審聽ノ官ト雖皆情ヲ動カサヽ
ルハナシ王亦頻ニ之ヲ憐ミ竊ニ其逃逸ヲ謀リシカ獄吏ノ爲ニ阻セ
ラレテ其計遂ケス又北征ノ軍ヲ呼ヒ迫テ公會ヲ解カントセシニ下院
早ク之ヲ覺察シ愈〻相結托セシカハ王懼レテ敢テ發セス紀彈ノ初ニ當
テ上院ノ人員八十名アリ然レトモ皆下院ノ勢ヲ怖レテ漸クニ逃亡シ
其斷ヲ定ムルニ至テ之ニ臨ム者僅ニ四十五人其内侯ヲ誅スヘシト曰
フ者二十六人其過當ヲ論スル者十九人ニシテ其獄遂ニ成リ五月八日
兩院狀ヲ上テ王ノ施行ヲ請フ時ニ朝臣悉〻逡巡シテ敢ヘテ侯ノ爲ニ言
フ者アラス獨リ倫敦ノ敎長シュークヅント云フ者舊テ曰ク王若シ此獄ヲエ
ソトセハ何ソ意ヲ枉ケテ人ニ從ハンヤト王ヲ激勵セシカ王ノ氣力既ニ沮
喪シテ其言ヲ用ヰルコト能ハス遲疑憂悶スルコト二日ニシテ終ニ准
死ノ命ヲ下シケレハ此月十二日官吏侯ヲドーウルヨリ出シテ之ヲ背
後ノ阜上ニ斬殺ス侯常ニロードト力ヲ戮セテ百姓ノ黨ニ抗シ其行フ
所國ニ害アリシハ固ヨリ昭々ニシテ下院ノ控訴スル條件大抵ハ實證
アリト雖其刑ノ過重ナルハ亦疑ヲ容レス且其辨論ノ間毫モ撓屈セサ
リシニ因テ其罪ヲ忘レテ之ヲ惜ム者多シ○八月初旬王又蘇格蘭ニ至
テ敎會中ノ首領ト面議シ遂ニ悉〻其持論ヲ拋チ蘇國ノ國敎ヲ回復ス此
行下院其勢ヲ北方ニ夸耀シ併セテ王權ノ衰替ヲ視サントス其員中ノ者
ヲ選テ王ニ隨行セシメ蘇人ト約シテ向ヒ一年ノ間其兵ヲ駐留セシメ又
二 三十萬ポンドノ餽贈ヲ爲シテ去冬以來援助ノ勞ヲ謝シテ毫モ憚ル色
五九 ナシ○九月八日議院暫ク會ヲ撤シ其間兩院各〻數人ヲ留メテ假ニ事務

ヲ撤セシム蓋シ議院其閉院ノ間人ヲ留メテ事ヲ行ハシムルハ上古ヨリ其例ナキ所ナリト云フ○愛倫ニハ其國ノ護衛トシテ平常三千ノ兵ヲ置ケリウエントウルスノ此國ニ都督タリシ頃陰ニ之ヲ以テ議院ノ勢ヲ壓セントシ其數ヲ一萬二千ニ增加シケルカ議院其意ヲ覺リ强ヒテ之ヲ舊數ニ復セシム然ルニ此時放遣セラレタル兵士豪族ロシル、モールル及土酋ヘム、オニール等ヲ推シテ是歲ノ冬亂ヲ起シ、カ此國ハ僻遠ニ在ルヲ以テ土着ノ英人尙ホ純然タル舊教ヲ固執セル者多ク其徒悉ク賊徒ニ加リ前後群起シテ全島忽チ蜂窠ヲ撥スルカ如シ時ニ英民ノ移住セル土地分レテ數州トナリ中ニ就テ尤モ繁華ノ地ト稱スル一州ユルストルニ賊徒等第一ニ亂入シテ貴賤男女ヲ擇ハス手ニ隨テ殺戮シ是ヨリ他ノ諸州ニ散蹂シテ家屋ヲ毀壞シ田野ヲ蹂躪シ又居民ノ衣服ヲ剝テ之ヲ逐フ會〻嚴冬氷雪ノ候ニ遇テ老幼郊野ニ露立シ凍冱ニ堪ヘス命ヲ殞ス者前後相望メリ此間死亡十萬ヲ以テ數フト云フ然ルニ十月廿日議員再ヒ會ヲ開クニ至リ愛倫ノ變報至テ日フ土賊皆王ノ命ヲ受クト稱シ勅書ヲ持スル者アリト是ニ於テ員中往々其說ヲ信シ議員ノ憤怒亦一層ヲ增シタリ王蘇格蘭ニ在テ變ヲ聞キ十一月五日倫敦ニ歸リケルニ議員囂々トシテ王ヲ責メテ已マス王群疑ヲ解カント悉ク愛倫ノ軍事ヲ以テ議院ニ托シケレハ衆員却テ討賊ヲ名トシテ大ニ糧食武器ヲ辨備シ又王ノ舊惡二百六條ヲ數ヘテ之ヲ民間ニ鏤行シ議院ノ王ニ信據セサル所以ヲ論述シタリ斯テ下院ノ凌轢朝暮ニ盛ナリケレハ上院中ノ諸員漸ク王ニ黨スル者アリ又ハイド及ハルクランド等ノ諸人未タ下院ヲ去ラスト雖既ニ志ヲ王ニ通シテ屢〻院中ニ抗論シ又朝廷ノ官員及諸方有志ノ少年王ノ緩急ニ赴カントト相聚テ團ヲ爲シ是歲ノ末ニ至テハ



屢都下ノ小民ト衝擊シテ或ハ血ヲ灑クニ至レリ○王蘇格蘭ヨリ歸テ

二六二

後一策ヲ獻スル者アリテ云ク下院ノ勢強シト雖其事ヲ主宰スル者ハ數人ニ過キス若此輩ヲ執ヘテ院中ヨリ除カハ他ハ誠ニ與シ易カラン

ト王之ニ從ヒ千六百四十二年一月八ヲ上院ニ遣リ言ハシメテ曰クキ

ソボルトンホルリスハンプデンバイイム等ノ六人反逆ノ罪アリ執ヘテ之ヲ治セスハ有ル可カラスト此中キンボルトンハ獨上院ノ員ニシテ他ノ五人ハ皆下院ノ者ナリ翌四日王二百ノ衛士ヲ從ヘテ親下院ニ至リ衛士ヲ戸外ニ止メテ獨院中ニ入リ五人ノ者ヲ覓メシカ皆既ニ遁匿シテ席ニ在ラス王之ヲ衆中ニ問ヘトモ衆員敢ヘテ答フル者ナシ王又議長ヲ責メケレハ議長對ヘテ曰ク臣今見ル可キノ目ナク言フ可キノ舌ナシ臣ノ職ハ只此院ノ衆論ニ從フ可キノミト此夜六人潛カニ院中ヲ逃レテ其身ヲ市人ニ托セシカハ市人屯聚シテ徹宵篝火ヲ燃シ兵ヲ執テ之ヲ環衛セリ翌五日王倫敦ノ會議所ニ至リ又彼六人ヲ乞ヒシカ終

ニ之ヲ得ルコト能ハス而シテ此往復ノ間市人ハ街上ニ群呼シテ頻ニ王ヲ罵リ或ハ譏語ヲ作テ王ノ車中ニ投スル者アリ既ニシテ事勢愈逼リ王倫敦ニ在ルコトヲ得ス是月十日王僅ニ宮人ヲ從ヘテハンプトンノ離宮ニ退キケレハ同十一日市人戰船騎卒ヲ發シテ水陸ヲ護衛シテ

ームス河中ニ走舸ヲ浮ヘテ六人ヲ院中ニ送還シタリ○是ニ於テ議院愈粮餉ヲ儲ヘ兵士ヲ募リ又密ニポルツマウス及ヒュールノ邑宰ニ令ヲ傳ヘテ各堡壘ヲ修繕シ警備ヲ嚴ニシテ進退皆議院ノ命ヲ待タシム是ヨリ前州牧邑宰ノ類大抵皆議院ノ爲ニ其官職ヲ褫レシカ是ニ至テ議院之ヲ其舊ニ復セント議ス其實ハ議院ニ服事スル者ノミヲ命シテ全國ノ兵權ヲ握ラントノ謀ルナリ二月初旬此案兩院ノ決ヲ經テ之ヲ王ニ

二六三

上テ其允許ヲ請ヒ且王遠方ニ在テハ事ヲ議スルニ便ナラストテ倫敦ニ歸住センコトヲ請フ然レトモ王兩ナカラ之ヲ聽カス議院乃チ王ヲ脅

二六四

シテ曰ク王若シ此請ヲ許サスハ議院衆論ノ爲ニ迫ラレテ已ムコトヲ得ス兵馬ノ權ヲ强奪ス可シト時ニ后ヘンリータ密ニ王ノタメニ彈藥武器ヲ調セントテ和蘭ニオモムキ王コレヲ送テトープルニ在リツヒニ議院ノタメニ要迫セラレンコトヲ恐レ其二子チャールス及ゼームスヲシタカヘテ是ヨリ又ヨルクニ退ク○三月十九日王ヨルクニ到著シ其後ヒュールノ邑ヲ得テ之ニ據ラントシ四月二十三日ミッカラ其郭外ニ至リシカ邑宰ホザム議院ノ約束テ守テ城門ヲ開カス然レトモヨルクノ市民ハ皆王ノ至ルヲ悅ヒ多ク鄕勇ヲ募テ親兵ニ備ヘ又諸州ノ貴族或ハ自ヨルクニ至リ或ハ使者ヲ送リ爭テ勤王ノ意ヲ陳ス是ニ於テ王ノ意稍强クシテ遂ニ兵ヲ起サントス然レトモ又軍資ヲ辨スル所ナシ僅ニ林苑ヲ民ニ質シ又貴族ノ金ヲ假借シ后又和蘭ニ在テ其冠飾ヲ典シ僅ニ軍須ヲ購得シテ之ヲ王ニ餽リケレハ王此等ヲ以テ若干ノ兵ヲ募リ八月二十二日陰霾風雨ノ夕始メテ王旗ヲノッチンハムノケッスル山ニ樹ツ倫敦ニ於テハ議院王ノ爲ニ請書ヲ卻ケラレテヨリ一種奇異ノ說ヲ作リ王位ト王身トハ素ト自ラ別ナリトテ恣ニ王ノ名ヲ用ヰテ愈軍需ヲ微發セシカロルクノ土民悉ク王ニ與シテ兵ヲ募ルト聞キ始メテ準備ヲ公ニセリ斯ノ如クニシテ二黨日ニ干戈ヲ尋キシカハ國人又各歸嚮スル所ヲ定メ農工商賈ヲ首トシテピュリッタン敎徒及蘇格蘭國敎ニ從フ者ノ類其榮悴ヲ議院ノ汚隆ニ抑望スル者ハ悉ク議院ニ與シ貴族高僧及ヒ英ノ國敎ヲ奉スル者等凡ソ王ト浮沈ヲ共ニスル者ハ擧テ王ニ加レリ其他草野ノ豪傑功名ヲ顯ハシ富貴ヲ博セントスル輩踴躍シテ王ノ募ニ應シハイドハルクランド及コールペペル等其議論ノ合ハサルヲ以テ亦意ヲ決シテ王ニ歸ス○九月九日兩黨各榜示ヲ出シテ戰ヲ起ス

二六五

所以ヲ告諭シ同日エセックスノ侯ロベルトノルサンプトンニ發向シテ

議院ノ兵ヲ領ス時ニ王ノ戰備未ダ整ハス兵衆寡弱ナルヲ以テ王一旦シリューズボリーニ退キシカ須臾ニシテ一万餘人ヲ得ケレハリンドセイノ侯ヲ其總督トシリュペルトアストン等ヲ之ニ副ヘテ再都門ニ向ハシムリュペルトハライン ノ部長ブレデリッキノ子ナリ英國ノ難起ルト聞テ其弟マウライスト共ニ英ニ來リ后王ヲ援ケテ屢〻功アリ斯テ十月二十三日王軍ワルウヰッキ州中ノエッジ山ニ至テ始メテ大ニエセックスノ兵ト戰フ是日兵ノ交リシ頃既ニ晡時ニ近ク日沒ニ至テ戰未ダ決セス兩軍共ニ兵ヲ執テ旦ヲ待チシカ翌日黎明再ヒ陣ヲ對スルニ至リエセックス急ニ兵ヲ引テワルウヰッキニ退キケレハ王亦其軍ヲ収メテ舊營ニ歸レリ此役王ノ大將リンドセー傷ヲ被リ後數日ニシテ死ス是ヨリ是歳ノ冬王リーシングノ邑ヲ奪ヒ進テ倫敦ニ迫リシカ大ニ爲ルコトナシ翌年四月ニ至テ數月攻圍ノ後リーシングモ亦エセックスノ爲ニ奪還セラレケレハ王又退テオキスホルドニ入リ其後亂末ニ至ルマテ大概此地ヲ以テ其本營トス○此間ニューケッスルノ侯王ノ軍ニ將トシテノルサンベランド等ノ數州ヲ下シコルクヲ奪ヒ軍勢張ルコト甚シク尋テ西方モ亦大ニ風靡シタリ是ヨリ先キ千六百四十三年春西南諸州ハ大抵議院ノ兵ニ據有セラレテ王ノ爲ニ守ル者ハ僅ニコルンワルノ一州ニ過キス是夏王ヘルトホルドノ侯及マウライスニ一隊ノ騎兵ヲ附シテコルンワルニ遣リケルカ此軍西方ニ至テ後直ニデボンノ全州ヲ蹂躙シ七月五日ハスノ近傍ロンスダウント云フ地ニテ議院ノ兵ト戰ヒ同十三日再デビーゼスノ近傍ニ戰テ遂ニ之ヲ破リ其將ウヰルレム、ワルレル逃レテブリストルニ入リシカ其後十餘日ニシテ王軍又此邑ヲ降シ遂ニ王ノ麾下ト合シテ八月十日轉シテグローストルヲ圍ミタリ○是ヨリ先、王屢〻使者ヲ遣テ議院ト和ヲ講スレトモ其議皆果サス議院ノ要求スル所理外

ノ事多キカ故ニ院中ノ人ト雖往々憤怒ヲ挾ム者アリ是歳首夏エドモンド、ワルレル等黨ヲ結ヒ密ニ議院ヲ要シテ和ヲ講セント謀リシカ事洩レテ首謀皆斬戮セラル然レトモ其後議論常ニ一ナラス西州ノ敗報頻ニ倫敦ニ至リシ頃ハ院中ノ不和殊ニ盛ニシテ事々統一スルコト能ハス人皆和ヲ請テ危急ヲ避ケンコトヲ欲セシカピュリッタンノ激徒等百方之ヲ沮ミ遂ニ又エセックスニ一萬四千ノ兵ヲ附シテグローストルヲ救シム○王グローストルヲ圍メドモ守將能ク禦テ拔クコト能ハス既ニシテエセックス大衆ヲ率ヰテ來リ援フト聞キ終ニ圍ヲ撤シテ鋭ヲ避ケ其歸路ニ要シテ戰ハントスエセックスノ軍モ亦騎兵ニ乏シクシテ戰ヲ好マス圍ノ解クルヲ幸トシ直ニ倫敦ニ向テ歸リケルカ其途中ニューボリーニ至ル比王既ニ兵ヲ聚メテ此處ニ在リエセックス不意ニ出テヽ避クルコトヲ得ス九月二十日又戰ヲ交フ是日モ亦勝敗未判セスシテ日暮ニ及ヒケレハ兩軍交ヲ退キ翌朝エセックスハ直ニ其軍ヲ進メテ倫敦ニ歸リタリ此役ハルクランド戰死スハルクランドハ兵起テヨリ常ニ鬱悒樂マス是日朝人ニ語テ曰ク國家ノ亂離ハ尚茲ニ止ラス然レトモ余ハ既ニ世ニ倦ミタリ今日ヲ出テスシテ身ヲ事外ニ置クヘシト云ヒシカ果シテ戰場ヲ退カスシテ死ス○是歳夏ヨリ冬ノ間北部ノ戰爭勝敗一ナラス千六百四十四年一月愛倫鎮撫ノ兵隊王ノ命ヲ奉シテ入援シ威爾斯ノ北部ニ上陸シテ進テチェシールヲ降シタリシカ二十五日ナントウサッチニ於テ不意ニ議院ノ大將ハイルハックスニ掩擊セラレ又大ニ敗走ス○愛倫ノ兵隊入援ノ議ト前後シテ議院亦蘇格蘭ト盟ヲ結ヒ北將レベン是年一月ヲ期シテ二万ノ兵ヲ率ヰ南下セントノ約アリ王軍



北部ノ總督ニューケッスル之ヲ聞キ其部下ヲ督シテ自ラ之ニ備ヘケルカハイルハックス既ニナントウサッチノ敵ヲ卻ケ其勝兵ヲ以テ後ニ迫リケレハ

二七〇

ニューケッスル腹背敵ヲ受ケテ遂ニコルクニ退キハイルハッスレベン隨テ之ヲ合圍シ後數月マンチェストルノ侯某リンコルンヲ降シテ又來テ攻兵ニ加リケレハ城中愈窘窮シテ其陷沒既ニ旦夕ニ在リ然ルニ適リュペルト二万ノ援兵ヲ以テコルクニ近ツキケレハ攻兵圍ヲ解テマルストン、ムールニ退キタリリュペルトハ勇ナリト雖粗暴ニシテ謀ヲ好マス攻兵マルストンニ退テ後書ヲ城中ニ贈リ戰ヲ挑ミケレハリュペルト怒テ戰ハントシニューケッスルヲ諫ムレトモ聽カス我レ王ヨリ命ヲ受ケタリトテ七月二日遂ニ城外ニ出テ、敵ト相對ス議院ノ神將ニオリブル、コロンウェルト云フ者アリ大志アリテ最用兵ノ術ニ長シ常ニ其部下ヲ精練シテ向フ所勝タサルコトナシ因テ其兵ヲ鐵身兒ト稱ス是日コロンウェル左軍ノ將トナリテリュペルトノ隊ト相對シケルカ兩軍鏡ニ交レハコロンウェル直ニ進テ之ヲ擣破シ北クルヲ逐テ戰場外ニ長驅ス又王軍ノ左ハリュカストト云フ將大ニ敵軍ヲ襲テ奮戰スルコト數刻悉ク之ヲ四方ニ驅逐シテ謂ヘラク敵既ニ逃レ去レリト其輜重ヲ奪テ既ニ退キ去ラントスル時コロンウェルモ亦既ニ大捷ヲ得タリト信シ戰場ニ歸リ來テ不意ニ之ト搪突シタリ二人相見テ大ニ驚ロキ彼我互ニ地ヲ代ヘテ再ヒ大ニ戰ヒシカ稍久シクシテ王軍終ニ全ク敗レ其大砲悉ク敵ノ爲ニ奪取セラル戰爭ノ翌日ニューケッスルハ其言ノ用ヰラレスシテ敗辱ヲ得タルヲ怒リ且恢復ノ期ナキニ倦テ直ニ大將ノ職ヲ辭シスカルボローヨリ船ヲ雇テ海外ニ逃ル其後リュペルトモ亦敗兵ヲ聚メテランカシールニ退キケレハヨルク及ニューケッスルノ二城相踵テ敵ニ降リ十月ノ末ニ至テ北方悉ク議院ノ手ニ歸シタリ○然レトモ西南及ヒ中州ノ地ニテハ是歲ノ間王ノ將トシテ屢議院ノ兵ヲ挫キ其勢大ニ北地ト同シカラス四月エセックス及ワルレル期ヲ約シテ共ニオキスホルドニ迫リケレハ王

二七一

二一旦之ヲ避ケテウーストルニ退キシカ既ニシテエセックス又其兵ヲ引
二七テ西州ニ赴クト聞キ急ニ返テ六月二十九日ワルレルノ軍ヲバンボリ
ーノ近傍ニ破リ直ニエセックスヲ逐テ西發ス時ニエセックスハコルンワ
ルニ在テ土兵ノ爲ニ圍マレシカ王又大兵ヲ率ヰテ至ルニ及ヒ遂ニ軍
ヲ棄テ、單身プライマウスニ逃レケレハ步卒ハ悉ク王ニ降リ其彈藥輜
重亦皆王ニ奪ハル是ヨリ先キワルレルノ敗レシ後其部下ノ兵皆膽ヲ落
シテ次第ニ逃散シエセックス其軍ヲ失フニ及テ西南全ク議院ノ兵ナシ
然レトモ議院又急ニ新兵ヲ募テ發遣シ十月二十七日王之トニューボリ
ーニ戰テ其兵少シク敗レケレハ王又オキスホルドニ退キ時候既ニ寒
ニ向フヲ以テ明年ヲ待テ戰ヲ復セントス○ロードノ獄ニ下リシ後
軍事倥偬ニシテ議院之ヲ糺問スルニ遑アラス是年ノ冬戰爭少シク餘
暇アリケレハ議院之ヲ獄ヨリ出シテ其罪ヲ論シ下院必之ヲ殺サント
期セシカロードノ爲ニ論證スル者多クシテ其口實ヲ得ルコト能ハス
是ニ於テ下院其獄ヲ終ヘスシテ枉ケテ誅殺ノ令ヲ作リ之ヲ上院ニ輸
シ、ニ上院亦之ニ抗論セシカハ下院更ニ部下ノ小民ヲ嗾シテ上院ニ
迫リ翌年一月十日遂ニ其首ヲ刎ヌ○是時ニ當テ英國教派ノ中其大ナ
ル者三アリ其一ヲ英ノ國教トシ一ヲ蘇格蘭ノ國教トシ又其一ヲピュリッ
タントス此三者各異ヲ立テ、相下ラス戰爭ノ起テヨリ後ハ二黨ノ主
トシテ論スル所皆此三教ノ事ニシテ王ノ死ニ至ル迄和ヲ議セシコト
前後殆ト十ヲ以テ數フト雖皆之カ爲ニ完成スルコト能ハス然ルニ千六
百四十四年ノ間議院ノ中ニ又自主黨ト名クル一種ノ教派起テピュリッタ
ン教ト密ニ相凌轢シタルカ是歲ノ冬ニ至テ二教ノ睦睨愈甚シク遂ニ
二七三各黨ヲ結テ院中ノ議論又二分シタリ此黨ノ教士ハ皆上下平均ノ說ヲ
標準トシテ國事ハ必民政ヲ期シ又教法中ニ僧官アルコトヲ許サスコ

二七四

ロンウェル及ヘンリー、バン等ヲ此黨ノ巨魁トシテ其他俊秀ノ士多ク之ニ加ハリケレトモ其勢力ピュリッタンノ徒ニ比スレハ尚ホ微弱ニシテ議論ヲ以テ勝ツコト能ハス故ニ常ニ狡黠欺罔ヲ以テ之ニ敵セリ斯テ是歳十二月コロンウェル又議院中ニ建議シテ凡ソ院中ノ員タル者ハ文武共ニ官ヲ帶フヘカラストテ悉ク辭セシメクス及ワルレル以下ノ諸將ヲ罷メテ更ニハイルハックスニ軍務ヲ委ネ又其身ハ院中ノ一員ニシテ官ヲ帶ヒサル例中ニ在リト雖陰ニハイルハックスヲ賺シテ其副將ニ補セラル然ルニ元來ハイルハックスハ愚直ニシテ權詐ニ疎ク每事コロンウェルノ爲ニ賣弄セラレ是ユリ兵權暗ニコロンウェルノ手ニ歸シテ自主黨大ニ氣勢ヲ得タリ○此頃二黨又和議ヲ開キ頻ニ往復辨論シケルカ千六百四十五年二月ニ至テ此議又破レ五月王再オキスホルドヲ發シ自ラ將トシテチェストルノ圍ヲ救ヒ其歸路レーストルヲ襲テ又之ヲ奪フ適ハイルハックス虛ヲ窺テオキスホルドヲ圍ムト聞キ急ニ其軍ヲ旋ラシテ其救ニ赴キシカハイルハックスハ亦王ノ連勝ヲ聞キ圍ヲ撤シテ北向シ六月十五日ノルサンプトン州中ナセベーニ至テ兩軍不慮ニ出逢ヒタリ王不意ニ敵衆ノ爲ニ壓セラルヽヲ見テ餘衆ノ聚ルヲ待テ戰ハントセシカリュペルト又其議ニ與セス遂ニ兵ヲ交フ是日王中軍ニ將トシテリュペルト其右ヲ令シ戰起ルニ及テリュペルト敵ノ一隊ヲ破リ其將ヲ虜ニシテ更ニ敗兵ヲ追擊ス王モ亦ハイルハックスト戰テ幾ト其隊ヲ破ラントシケルカ折シモコロンウェル王ノ左軍ヲ破リ返テハイルハックスニ力ヲ戮セケレハ王二方ニ敵ヲ受ケテ支フルコト能ハス終ニ大ニ敗走ス既ニシテリュペルト再ヒ戰場ニ歸リシニ麾下既ニ崩潰シテ復整理スヘカラス王悉ク其銃砲彈藥ヲ野ニ委棄シ僅ニ騎兵ヲ從ヘテ威爾斯ニ退キケレハリュペルトモ亦プリュストルニ遁走セリ○ナセベーノ戰ノ後ハ諸州ノ王軍

二七五

二七六 漸ク振ハスハイルハックス勝兵ヲ率サテブリージウォートルバス及セルボルン等ノ諸邑ヲ連下シ九月ブリストルノ邑ニ近ツキケレハ是月十日リコベルト堡砦ヲ棄テヽ遁走ス時ニ王ブリストルノ危急ヲ聞キ自ラ之ヲ援ケント既ニ行ヲ治セシカリコベルト戰ハスシテ走ルト聞キ怒ルコト甚シク悉ク其官爵ヲ褫テ之ヲ海外ニ放逐ス○時ニチエストル再ヒ圍ヲ受クルニ會ヒ王自ラ之ヲ救テ是月二十三日却テ大ニ破ラル王乃チ敗兵ヲ聚メテオキスホルドニ退キケルカ是年冬ノ間ハイルハックスコロンウエルト共ニ悉ク西南及中州ヲ平定シ千六百四十六年ノ春ニ至テハオキスホルドヲ除ク外ハ全ク王ノ爲ニ守ル者ナシ○王其勢ノ日々ニ盛マルヲ見テ屢〻使者ヲ議院ニ遣リ辭ヲ卑シクシテ和ヲ求ムト雖議院只往事ヲ歷詆シテ使辭ノ答書ヲモ報セス王又關券ヲ得テ自ラ倫敦ニ入リ面リ事ヲ議セント請ケレハ却テ令ヲ諸方ニ下シテ愈〻警備ヲ嚴ニセリ是ニ於テ王愛倫ノ叛徒ト和ヲ結ヒ其舊敵ヲ英ニ興サント約シテ一万ノ兵ヲ借ラントセシニ其約書不幸ニシテ議院黨ノ手ニ落チケレハ又議院ノ爲ニ一ノ口實ヲ增シタリ此際ニ當テハイルハックス兵ヲ率サテオキスホルドニ迫リ日ヲ剋シテ邑ヲ圍マントシケレハ王大勢ノ既ニ挽回ス可カラサルヲ知リ千六百四十六年四月二十六日夜僅ニ二人ヲ從ヘテオキスホルドヲ逃レ五月五日ニューアルクノ邑外ニ至テ身ヲ蘇格蘭ノ軍ニ投ス此時北人自主黨ノ日々ニ氣勢ヲ逞シクスルヲ見テ大ニ懌ハス之ニ加フルニ王ハ素ト其國ノ產ニシテ且歷世君主ノ統ナルカ故ニ王今生死ヲ以テ彼ニ托セハ彼必憐テ或ハ憤發スルコトアラント計リシナリ然ルニ北軍ハ王ノ不意ニ至ルヲ見テ大ニ驚キ敬禮ヲ盡シテ厚ク之ヲ二七七 待チシカ其實ハ王ヲ援クルニ意アラス時ニ近來數年間ノ戰費尙ホ議院ヨリ北軍ニ償フ可キ者アリ故ニ北軍王ヲ以テ奇貨トシ擁シテ遺金ヲ

二得ンコトヲ欲スヲ是ヨリ論談八月ニシテ千六百四十七年一月三十日北
七八人遂ニ四十万ポンドヲ以テ王ヲ議院ニ賣與ス○此時ピュリッタン徒ノ強
ハ議院ニ在リ自主黨ノ強ハ陸軍ニ在リ議院王ヲ得テ後兵革ノ事一時
止ミケレハ自主黨ノ勢ヲ挫カンカタメ國用ヲ省クニ託シテ兵士ノ一
分ヲ遣歸セントス然ルニ偏禪ノ諸將多クハ草莽ヨリ崛起セシ者ニシ
テ今又鄙賤ニ歸ルヲ悪ミ且士卒モ亦未タ其俸ヲ得サルヲ怨テ共ニ此事
アルヲ懌ハスコロンウェルハ人ト爲リ狡獪多智其意群雄ヲ排シテ自ラ大
權ヲ握ランコトヲ欲シ軍士ノ不平ヲ懷クニ乘シテ陰ニ之ヲ煽揚ス議
院コロンウェルニ命シテ諸將ト共ニ軍士ヲ綏撫セシムルニ及ヒコロン
ウェル敢ヘテ勦解ノ策ヲ施サス數日ノ後反命シテ曰ク軍士ノ訴フル處
皆確著ニシテ據ル所アリ議院強ヒテ之ヲ制セントスルハ甚理ニ非ス
ト時ニ王ハノルサンプトン州中ホルムバイニ在リ五月四日コロンウェ
ルヽ窃ニ其部將シュイスト云フ者ニ命シ王ヲ奪テ之ヲ軍中ニ奉入スハイ
ルハックスハ尚ホ上將ノ位ヲ擁スト雖諸將ノ爲ニ輕侮セラレテ此議ヲ關
リ知ラス議院怒テコロンウェルヲ執ヘントシケレハコロンウェル之ヲ諜
知シテ軍中ニ逃レ六月十日却テ其營ヲセント、アルバンスニ移シ倫敦
ニ迫ラントス是ニ於テ議院市兵ヲ驅テ郭門ヲ警護シ都下又騷然タリ
然レトモ其後議院北敎ノ首領十一人ヲ院中ヨリ放逐シ其他數條意ヲ
枉ケテ軍士ノ請ニ從ヒシカハ軍士一旦リージングニ退キケルカ都人
議院ノ甘シテ其制ヲ受クルヲ怒リ群起シテ軍士ノ猖獗ヲ罰セント請
ヒシカハ軍士ハ兇徒ヲ驅逐シ議院ノ厄ヲ救フト唱ヘテ又軍ヲ進メ八
月六日遂ニ都下ニ亂入シテ近ヒ者議院ノ發シタル政令ヲ悉ク廢止シ市兵
二ノ士官及邑宰區長ノ類數十人ヲ獄ニ下シ又周郭ノ土壁ヲ毀チ一時凶
七九焰歴ス可カラス時ニ議院ハ市兵ト陸軍ノ間ニ攝セラレテ一臂ヲ揮

フコト能ハス却テ報祭ノ日ヲトシテ其困辱ヲ免レタルヲ謝スト云フ

○是ニ於テ國内復タコロンウェルニ抗スル者ナシコロンウェル乃兵士ノ暴ヲ了知シ一日其撿閲ノ時ニ當テ急ニ賊徒ノ巨魁ヲ執ヘテ之ヲ責メテ曰ク汝等亂ヲ謀リ兇ヲ行フ其罪誅ス可シト之ヲ射殺シテ衆ニ殉ヘケレハ是ヨリ軍士モ亦肅然トシテ慴服シ敢ヘテ約束ニ違フ者ナシ○王ハジョイスノ爲ニ密ヒ去ラレテヨリ常ニ兵隊ノ爲ニ擁セラレ其到ル處ニ隨テ處ヲ轉シ八月二十四日軍士倫敦ニ入リシ後又ハンプトンノ離宮ニ移住シケルカ其防衛前時ニ比スレハ頗ル緩ニシテ起居稍ヽ便宜ヲ得タリコロンウェル以下亦時々往來シテ其鬱悶ヲ慰藉シ此時諸將實ニ王ヲ放ルスニ意アリシカ其言辭ノ携貳多ク契約ノ憑信ス可カラサルヲ見テ終ニ其意ヲ絶ツト云フ後四十餘日十一月十一日夜王守兵ノ怠ルヲ窺ヒ倫ニ宮中ヲ逃レウェイト島ニ至テハンモンドト云フ者ニ寄リシカ不幸ニシテ此人又志ヲ議院ニ通シ王ヲカリスブルーク城ニ奉シ竊ニ兵士ヲ置テ之ヲ守ラシム王爰ニ在ルコト四十餘日又書ヲ議院ニ寄セテ其哀ヲ請ヒシカ激徒之ニ答ヘス十二月二十八日王又逃亡ヲ謀リ誤テ身ヲ窓間ノ鐵竿ニ插ミ守者ノ爲ニ發覺セラル是ヨリ激徒愈警備ヲ嚴ニシテ悉ク其婢僕ヲ遠サケ朋友舊故ノ如キ一切其來訪ヲ許サス千六百四十八年ノ首ニ至テ遂ニ令ヲ下シテ曰ク爾後王ノ言ヲ傾聽シ或ハ之ト交通スル者アラハ反逆ヲ以テ論セント○蘇格蘭ノ教徒滋自主黨ノ爲ニ凌轢セラレテ日ニ相快ラス千六百四十八年春密ニ使ヲウェイト島ニ送リ國ヲ舉テ王ニ勤セント請フ英國ノ民モ亦コロンウェル諸人ノ爲ル所實ニ國ノ爲ニ非ルヲ見テ是歳ノ間王ノ爲ニ兵ヲ舉クル者少カラス時ニ世子チャールス和蘭ニ在リテームス河口ノ戰艦十七艘其大將ヲ陸ニ逐テ和蘭ニ至リ之ヲ舟中ニ迎ヘテ議院ヲ討セントス又ラング

二八二

ダール及マスグラーブト云フ者二人各兵ヲ聚メテ英國ノ北部ニ起リ其他郡鄙ノ小民黨與ヲ嘯聚シテ之ニ和スル者多シ七月蘇格蘭ノ將ハミルトン大兵ヲ率ヰテ英ノ境ニ入リケレハコロンウェルヲ禦カントテ自ラ將トシテ北方ニ發行ス時ニラングダール等聚ムル所ノ兵勢モ亦甚盛ナリ此輩北軍ト相策應セハコロンウェルト雖恐ラクハ敵スルコト能ハサランヲ兩軍各〻其教派ノ同シカラサルヲ惡テ相助ケスコロンウェル此釁隙ニ乘シテ八月十七日先ラングダールヲランカシール中プレストンノ近傍ニ襲テ之ヲ破リ同二十日又ハミルトントユトクストルニ戰テ之ヲ虜ニシ是ヨリ直ニ蘇格蘭ニ進ミ數月ニシテ國內ヲ平定ス是ヨリ先ハイルハックス兵ヲ率ヰテコルチェストルヲ圍ミシカ八月二十八日遂ニ之ヲ降シテ其守將リカス等ヲ射殺シケレハ全國再ヒ王ノ爲ニ唱フル者ナシ○此騷亂ノ間議院諸將ノ都下ニ在ラサルヲ窺テ再ヒ其鞠絆ヲ免レント九月十八日使ヲ王ニ遣テ諸州ノ兵ニ力ヲ戮セテ復辟ヲ謀ランコトヲ請フ然レトモ各〻深ク法教ニ拘執シテ無用ノ辨論ニ時日ヲ費シ所々ノ王黨悉ク覆敗スルニ至テ其議尙決セスコロンウェル以下諸將畧〻既ニ騷亂ヲ平ラケテ後書ヲ議院ニ寄セテ曰ク王久シク兵馬ヲ弄シテ遂ニ民ヲ塗炭ニ苦マシメ其罪既ニ重大ナルニ議院之ニ與スルハ是國ニ反クナリトノ之ヲ責メケレハ議院又諸將ヲ反詰シテ曰ク安ニ國權ヲ竊テ公會ノ命ニ從ハサル者ハ其罪反逆ニ當セリ且王ノ言フ所苟モ理アラハ之ト和スルニ於テ固ヨリ不可ナルコトナシト然ルニ十二月五日衆員例ノ如ク議院ニ赴クニ當テ軍中ノ一將プライドト云フ者大衆ヲ率ヰテ下院ノ前ニ在リ議員來リ聚ルニ隨テ悉ク之ヲ拘留シ其說諸將ト同シキ者ニ非レハ院中ニ入ルコトヲ許サス斯テ全議員ノ中ニ就テ五十二名ハ執ヘラレテ獄ニ下リ百六十名ハ員中ヨリ除斥セラレ

二八三

二八四

殘ル者ハ僅ニ五六十名ニ過キス是ヨリ後ハ每事唯々トシテ只諸將ノ意ヲ承奉シ議院ハ殆ト其名アルノミナリ○是ニ於テ諸將聚會シテ後來ノ國事ヲ議シ從前ノ制度ヲ廢シテ共和ノ政ヲ建テント一書ヲ作テ其規摸ヲ定メシカ之ヲ布行スルニハ先ツ王ヲ除カ、サルコトヲ得スコロンウェル乃チ其意ヲ議院ニ諷シケレハ十二月二十三日下院議案ヲ作テ曰ク國王ト雖公會ニ對シテ兵ヲ擧クル者ハ其罪必反逆ヲ以テ論ス可シト翌年一月一日其議案ヲ上院ニ輸ス時ニ上院中ノ議員ハ殆散亡シテ此案ヲ決スル爲ニ來會セル者僅ニ十六名アリ然レトモ其論載スル所誣妄ヲ極ムルヲ憎テ之ヲ卻ケヽレハ下院又暴論ヲ發シテ曰ク下民ハ國權ノ原ツク所ニシテ下院之ニ代テ國事ヲ議定スルニ何ソ必シモ他人ノ許可ヲ待タント遂ニ大ニ審官ヲ選ヒ是月二十日ヲ以テ王ヲ鞫問セント期ス○是ヨリ先キプライドノ議員ヲ淘汰セル日ニ當テコロンウェル別ニ人ヲ遣テ王ヲハンプシール州中ヒュルスト城ニ移シケルカ其警備更ニ一層ノ嚴ヲ加ヘ王ヲ暗室ノ中ニ投シテ守卒ノ外ハ敢ヘテ來リ近ツク者ナシ斯テ王此地ニ在ルコト十餘日一夕寢ニ就クノ後庭外鏘々トシテ兵馬ノ聲アリ王怪ミ起テ人ヲシテ之ヲ問ハシムレハハルリヅント云フ者又王ヲウヰンドソールニ移サント騎兵ヲ率サテ來リ迎フルナリ此夜王直ニ城中ヲ出テヽ十二月二十二日ウヰンドソールニ到着シ是ヨリ翌年一月糺彈ノ論決スル迄此ニ在リ是月十九日議院人ヲ遣テ遂ニ王ヲ倫敦ニ迎ヘ其翌日審判ノ諸員悉ウェストミンストルニ會シテ始メテ王ヲ糺彈ス初審判ノ人員ヲ定メシトキ兩院ノ議員陸軍將官及通常法術ノ官吏等ヲ合セテ百五十名ト爲シカ貴族ハ斷然其席ニ臨ムコトヲ肯セス法官モ亦固ク其不法ナルヲ爭ヒケレハ本日ニ至テ來リ會スル者僅ニ六十九人アリ其中コロンウェルアイルトンハルリヅン等

二八五

二八六

首トシテ糾彈ヲ始メコックト云フ者全英國人民ニ代リ一書ヲ開キ王ノ罪ヲ訴テ曰フ英國ノ人民チャールス、スチュアルトヲ以テ其王ト選ヒ規畫セル政權ヲ以テ之ニ托セシニ彼レ擅制横恣ノ政府ヲ創立セントヲ謀リ漫ニ議院ト國民トニ對シテ兵戈ヲ動シタリ故ニ今英國ノ人民彼ヲ以テ虐主逆賊及我共和政府ノ仇敵タル罪ヲ一身ニ累スル者ト爲テ之ヲ訴フト讀ミ終テ衆員王ノ答フル所以ヲ問シカ臣民タル者得テ其國君ヲ糺彈スルノ權ナシトテ王敢ヘテ之ヲ辨解セス良久シクシテ衆員會ヲ散シ二十二日再ヒ王ヲ廳前ニ召シ、カ王尙ホ前論ヲ執テ變セス是ノ如キコト前後三日ニシテ王終ニ衆ニ許スニ審官ノ權ヲ以テセサリケレハ二十七日ニ至リ激徒王ノ承認スルヲ待タスシテ獄ヲ定メ王ヲ以テ死刑ニ處セント決ス此間蘇格蘭ノ人民頻ニ其悖逆ヲ爭ヒ和蘭モ亦其間ニ居テ勸解スト雖激徒幷ニ之ニ從ハス時ニ世子チャールス尙和蘭ニ在リ白紙ノ後ニ其姓名ヲ書シ議院ニ寄セ哀乞シテ曰ク苟モ父ノ命ヲ救フ可クハ其條約ノ如キハ唯一命ノマヽナリト然レトモ亦聞カサル者ノ如シ是月三十日ヲ以テ王ヲ刑スル日ト定メホワイトホール倫敦中ノ離宮ノ名ヲ以テ其刑ヲ施ス所トシ殿前ノ庭上ニ刑臺ヲ設ケテ兵士之ヲ環衛ス觀ル者四聚シテ堵ノ如シ本日朝第十時軍士王ヲ驅テ宮中ニ入リ午後第三時又之ヲ擁シテ刑場ニ至ラシム王身ニ正服ヲ著ケ儼然トシテ威儀衰ヘス場ニ臨テ傍人ニ告ケテ曰ク近來ノ戰爭ニ於テ余固ヨリ人ニ恥ツルコトアラス今日ノ事ハ神只余ノ不德ヲ罰スルノミト語リ終テ其頭ヲ臺上ニ俯ス是日劊手二人アリ各面ヲ掩ヒ其誰タルヲ知ラシメス一人後ニ回テ其頭ヲ斬リシカハ一人高ク之ヲ捧ケテ衆ニ視シテ曰ク

二八七

此ハ是逆賊ノ頭ナリト時ニ王年四十九在位二十五年三男三女アリ長子チャールス次子ゼームス共ニ亂ヲ和蘭ニ避ケ其他二女亦他邦ニ在テ

英ニ留マル者ハ獨リ一子ヘンリー一女エリサベッスノミナリ此時ヘンリー年僅ニ七歳王死スル前日二兒守者ノ許ヲ得テ王ト訣別セシカ王ヘンリーヲ膝上ニ抱キ其頭ヲ撫シテ曰ク我死セハ衆或ハ汝ヲ奉シテ王ト爲ン然レトモ二兄尚ホ在ラハ汝決シテ王タルヘカラストヘンリー王ノ顏ヲ熟視スルコト少間ニシテ忽チ叫テ曰ク兒ヤ第一ニ寸斷セラレン ト衛士爲ニ涙ヲ流スト云フ

今邨亮校

改正英史卷六終

改正英史卷七

正七位大島貞益　纂譯

スチュアルト記下

〔民庶共治〕チャールス刑セラレタル日議院直ニ榜示ヲ出シテ若シ議院ノ命ヲ得スシテ新ニ王ヲ擁立スル者アラハ反逆ヲ以テ論スルコトヲ告喩シケルカ二月六日下院議ヲ建テ、上院ヲ廢ス同七日遂ニ國ニ君主ヲ設クルハ徒ニ下民ノ自由ヲ羈絆スルナリトテ永ク立君ノ制ヲ廢シ民庶共治ノ國トシ同八日大璽ヲ改鑄シ同十四日新ニ三十八名ノ行法會ヲ創立シテ之ニ國政ヲ委托シ其中ブラッドセウヲ會長トシミルトン、ラナンヲ其副トシ爾來相議シテ萬機ヲ攝行セシム○是ヨリ先キ愛倫ニ於テハ都督オルモンド其地ノ戍兵ヲ統轄シ王ノ爲ニ戰テ屢ヒ利アラス千八百九六百四十六年遂ニ城塞ヲ委棄シテ英ニ歸リ尋テ佛國ニ至テ王ノ長子

チャールスニ隨ヒシカ王死シテ後再ビ愛倫ニ歸リ土人及舊教ノ徒ヲ聚メテ此頃又漸ク土地ヲ回復シケレハ是歳七月議院コロンウェルヲ愛倫ノ都督ニ任シ此地ニ發行セシムコロンウェル先ツ四千ノ兵ヲ送テ戍將ショチスヲ援ケ尋テ八月自ラ愛倫ニ到著セシニショチスハ既ニ援兵ヲ合シテオカモンドヲジュブリンノ近傍ニ破ルニ會ヒ乃チ其勢ニ乘シテトロヘダ及ウェックスホルド等ヲ連下シ一地ヲ得ルヿトニ守兵ヲ屠戮シテ一人ヲモ遺サス餘城震慴シテ風ヲ望テ潰走シ僅ニ九月ニシテ略ヽ全島ヲ平定セリ是ニ於テ翌年五月コロンウェル部將アイルトンヲ留メテ英ニ凱旋ス

○蘇格蘭ニ於テハ王ノ刑セラレテヨリ土人愈ヽ自主黨ノ横恣ヲ惡テ共治ノ制ニ從ハス別ニ先王ノ長子チャールスヲ奉シテ君トシ之ヲ和蘭ニ迎ヘテ共治ノ黨ニ抗セント議ス然レトモ其中尚從前ノ教論ヲ固執スル者アリ乃チ人ヲ和蘭ニ遣テ言ハシメテ曰ク教事ハ一ニ北教ニ依リ固ク舊教ヲ禁止セハ北人願クハ王子ヲ奉戴セント然レトモチャールス教事ヲ許スコトヲ難カリ依違シテ未タ決答セス千六百五十年北將モントローストト云フ者ニ計ヲ教ヘテ北方ニ兵ヲ起サシメ以テ激徒ヲ壓セントロリシカモントロース兵破レ却テ激徒ノ爲ニ襲獲セラル其後北人モントローストヲ刑シ來テチャールスヲ詰リシカハチャールス佯リ驚テ曰ク是固ヨリ余ノ知ル所ニ非スト北人乃チ教事ヲ以テ請ヒケレハ王亦僞テ其請ニ從ヒ是歳六月遂ニ和蘭ヲ發シテ蘇格蘭ニ航ス○議院北人ノチャールスヲ奉スルヲ聞テ之ヲ討セント議スルニハイルハックス議論ノ介ハサルヲ以テ官ヲ退キケレハ更ニコロンウェルヲ以テ陸軍ノ大總督ニ任シ其兵一万六千七月トウィードト河ヲ渡テ北地ニ侵入ス然ルニ北將リスレート云フ者頗ル謀略アリ預メ近地ノ民ニ令シテ原野ヲ掃清セシメ自ラエジンボロートレイス間ノ要地ヲ扼シテ之ヲ待チケレハコロンウェ

ル至テ得ル所ナシ北軍ヲ誘出シテ急ニ戰ハントセシコリスレー壁ヲ固クシテ出戰ハス是月三十一日コロンウェル已ムコトヲ得スシテドンバルニ退キシカハリスレー乃チ其軍ヲ進メテダウン山ヲ要シ以テ其退路ヲ絶チタリ適英軍ノ中疾疫大ニ行ハレテ兵士死スル者十ノ五六コロンウェル計窮シテ爲ル所ヲ知ラス然ルニ北軍中輕躁ノ徒敵ヲ侮慢シテ頻ニ進戰ヲ促シヽニ因テリスレー持重スルコト能ハス九月二日終ニ其軍ヲ平地ニ下シテ陣セシムコロンウェル遙ニ敵軍ノ動クヲ見テ大ニ呼テ曰ク神、奴輩ヲ以テ我ニ授ケタリト翌日黎明急ニ兵ヲ進メテ北軍ヲ襲擊シ斬獲スル所一万四千人遂ニ勢ニ乘シテエジンボロー及レイスヲ連下シホルス灣以南一舉ニシテコロンウェルノ手ニ歸シタリ然レトモ時既ニ冬ニ逼リコロンウェル亦病ニ罹テ軍ヲ視ルコト能ハス明春ヲ待テ兵ヲ進メントス○チャールスノ始メテ蘇格蘭ニ至ルトキ激徒之ヲ舟中ニ要シテ先ツ北教ヲ尊奉センコトヲ誓ハシメ尋テ布告ヲ發シ父祖ヨリ以來妄ニ法教ヲ弄シテ多ク上帝ノ民ヲ殺シタル過ヲ謝セシム後千六百五十一年一月スコンニ於テ即位ノ禮ヲ行ヒタレトモ事コトニ尙激徒ノ爲ニ拘束セラレテ殆ト囚房ニ在ルカ如シ是歲春雪漸ク消スル頃ヨリ北將ハミルトン及リスレー等軍ヲ聚メテスチルリングニ駐留セリチャールス僅ニ激徒ニ請テ其軍ニ加ハルコトヲ得シカハ諸將ヲ勸誘シテ英倫ニ入ラントス時ニコロンウェル病愈エテホルス灣ヲ渡リペンスヲ取テ軍ヲ此地ニ屯シ南方ノ路開ケシカハチャールス其虛ニ乘シ一万四千ノ兵ヲ率ヰテ蘇境ヲ超エ八月二十二日ウースストルニ達スコロンウェル之ヲ聞テ大ニ驚キ禦將モンクヲ留メテ北地ニ備ヘ急ニ自チャールスヲ追躡シテ是月二十八日又ウースストルニ至リ兵ヲ邑外ニ陣ス初チャールス蘇格蘭ヲ出テヽヨリ兵士途中ニ亡スル者多ク南人亦其

二九四 急ニ出ツルヲ以テ未ダ來集セス九月三日コロンウェル議院ノ援兵ヲ合シテ來襲セシカハ搭闘五六時コシテ北軍終ニ大ニ敗レ殺獲セラルヽ者數ヲ知ラス日暮チャールス邑ヲ出テヽ逃走シ途中ヨリ悉ク從者ヲ揮散シ獨リ狀貌ヲ變シテ諸方ニ潛匿セシカ是ヨリ艱難ヲ備歴スルコト四十餘日ニシテ十月遂ニシュセックスニ至リ一船ヲ備テ佛ニ遁ル○愛倫ノ戍將アイルトン三万餘人ニ將トシテ連ニ上兵ヲ敗リケルカリコメリッキノ邑ヲ圍ムニ當テ疫ヲ患ヒ邑陷ルニ及テ終ニ死シケレハリュドロート云フ者代テ軍事ヲ領シ是歳七月カルウェーヲ攻メテ又之ヲ陷沒スモンク蘇格蘭ニ在テ亦ドンデーアベルシーン等ノ諸邑ヲ攻下シ其他ゲルンシーセルシーマンノ諸嶋及亞米利加植民地等ノ未タ共和ノ制ヲ奉セサル者又皆是歳秋冬ノ間相尋テ降服シ是ニ於テ諸方ノ亂畧平定ス○和蘭ノ統領オレンジノウヰルレムハ先王チャールスノ女婿ナルヲ以テ英國廢王ノ後多ク王黨ノ逃亡セル者ヲ庇護スヽヲ以テ二國互ニ相親マス千六百五十年ウヰルレム病ニ因テ死シケレハ議院使ヲ和蘭ニ送テ爾後好ミヲ通シ互ニ共治ノ制ヲ護ランコトヲ請フ然ルニ和蘭其使節ヲ禮セス又ラヘークニ逃在スル所ノ王黨頗ル使節ヲ侮辱スレトモ和蘭之ヲ制セス是ニ於テ議院怒テ航海ノ律ト名クル者ヲ定メ凡ソ諸國舶載ノ貨物其本地ノ産ニ非ル者ハ一切英國ニ輸入スルコトヲ禁シテ暗ニ之ニ報和蘭ハ國産ニ乏シキ國ナルヲ以テ他國ノ産物ヲ鬻キ其利ヲ占メテス生ヲ營ス故ニ本土ノ産ニ非サル者ノ輸入ヲ禁スル時ハ和蘭最モ窘窮ス是ヨリ二國ノ釁隙益〻甚シク千六百五十二年五月英ノ海軍大將ブラック和蘭ノ將ハン、トロンプト事ヲ爭テ戰ニ及ヒ七月八日英國遂ニ和蘭ト兵ヲ搆フ○八月十六日英將アイスキュー兵艦四十艘ヲ率サテ和蘭ノ二九五 艦七十艘ト始テプライマウスノ近傍ニ戰ヒ勝敗決セス九月二十八日ブラック及ペン等再ヒトロンプ及リュイトルトケントノ海岸ニ戰テ英軍利

二九六 アラストロンプ乃其艦ノ檣頭ニ一大箒ヲ樹テ誓テ大海ヲ掃清セント誇言セシカハ英人間テ深ク之ヲ恥トシ又兵艦八十艘ヲ出シブラックヲ將トシテ千六百五十三年二月和蘭ノ海軍隊ヲ英吉利峽ニ要擊ス時ニ和蘭ノ戰艦七十六艘トロンプリュイトル等之ヲ號令シ他ニ商船三百艘アリ是日黎明ヨリ戰起リ連戰三日夜英軍終ニ勝ヲ得テ和蘭兵艦十一艘商船三十艘ヲ失ヒ死傷モ亦過當ナリブラックハ原ト賈人ノ子ニシテ始テ議院ノ募ニ應スル時年既ニ五十ヲ過キシカチャールス第一世ノ晩年陸軍ニ將トシテ屢〻王ヲ西州ニ窘メ轉シテ海軍ヲ領スルニ至テ又頻ニ殊勳ヲ建ツト云フ○廢王ノ後ヨリ政綱解弛シテ民歸向スル所ヲ知ラス人々皆議院ヲ怨ミ舊政ヲ思慕スル心アリ時ニ議院又コロンウェルノ勢威日ニ赫々タルヲ惡テ專コト其意ヲ承奉セス故ニコロンウェル又公會ヲ解カンコトヲ欲ス千六百五十三年春大ニ軍中ノ士官ヲ會シ一書ヲ作テ議院ノ失職ヲ責メ自解散シテ新公會ヲ以テ之ニ代ヘンコトヲ勸メシニ議院之ヲ諾シテ果サス却テ陸軍ノ數ヲ減シ陰ニコロンウェルヲ抑ヘント謀リケレハコロンウェル遂ニ意ヲ決シテ議院ヲ放解ス四月二十日コロンウェル兵士三百名ヲ隨ヘテ自ラ議院ニ到リ院中ノ議事ヲ默聽スルコト稍久シクシテ忽聲ヲ厲マシテ曰ク時至レリト急ニ兵士ヲ院內ニ呼入レ百方議員ヲ罵辱シテ後謂テ曰ク今日ノ禍ハ汝等自之ヲ取レリ我レ專ノ此ニ至ランコトヲ悲ミ日夜哀痛シテ寧ロ死センコトヲ神ニ祈ルト雖終ニ避クルコトヲ得サルナリト而シテ后兵士ヲ呼テ議員ヲ驅逐シ獨リ院中ニ止ルコト少間其悉ク逃亡シ去ルヲ見テ院戶ヲ鎖シ其鑰ヲ持シテ去レリ○斯テ是月三十日コロンウェル十三名ノ行法會ヲ制シテ自其一ニ居リ尋テ諸州ノ議員ヲ徵聚シテ新ニ公會ヲ設ク此回

二九七 ノ議員ハ皆名ヲ指シテ徵取スル所ニシテ其數僅ニ百四十名ニ滿タス

二九八 多クハ狂妄無頼ノ賤民ニシテ會中議スル所皆無文法(コンモンロウ)ヲ以テノルマン奴隸ノ遺風トシ文學ヲ禁シ學校ヲ廢スル等ノ事ナリ然レトモ其黨モ亦コロンウェルノ欲スル所ノ如クナラス是ニ於テ十二月十三日自主黨ノ一人シデンハムト云フ者再ヒ院中ニ入テ議員ヲ揮散シ且逼テコロンウェルヲ國保ノ職ニ上ラシメ遂ニ制ヲ定メテ爾後二十一名ノ行法會ヲ設ケ及歩騎三万人ノ常備兵ヲ置テ共ニコロンウェルノ指揮ヲ受ケシメ三年毎ニ一タヒ議員ヲ改撰シ且國保ノ職ハコロンウェル終身之ニ任シ其死ニ至テ行法會ヲシテ嗣者ヲ撰マシム是ヨリコロンウェルノ從衛稱號悉ク王ニ僭擬シ其專横却テスチュアルト諸王ニ加レリ○千六百五十三年七月英ノ水軍再ヒ和蘭ノ水軍隊ヲテキスルニ圍テ大ニ之ヲ破リトロンプ丸ニ中テ死シケレハ和蘭氣挫ケテ和ヲ請ヒ千六百五十四年四月隣好ヲ結テ緩急互ニ應援センコトヲ約ス其後英國相踵テ嗹馬瑞士及瑞典(フウエーデン)ト新條約ヲ結ヒ尋テ又佛國ト連盟シ之ヲ援ケテ西班牙ヲ討ス時ニ佛王ルイス第十四世猶幼シ其相マザリン政ヲ攝シ西班牙之ト兵ヲ搆シ西佛幷ニ來テ援ヲ求メシカコロンウェル西國ノ尙舊教ニ溺ルヽコト深キヲ惡ミ且シャマイカ諸島ノ貨寶ヲ掠メント謀テ終ニ佛ト盟ヲ結ヘリ是歲英國二個ノ水軍隊ヲ艤シ一ハブラックヲ將トシテ地中海ニ遣リ一ハペン等ヲ將トシテ西印度ニ遣リシカ共ニ大事ノ記スヘキモノナシ千六百五十七年四月ブラック西班牙ノ海軍隊十六艘ヲ逐テ福島ニ到リテ悉ク其艦ヲ港中ニ燒キテ歸リシカ其歸途ヨリ病ニ罹リ英ノ海岸ニ至テ死ス○千六百五十五年九月コロンウェル新政ノ條規ニ從テ議員ヲ徵シヽカ議員會ヲ開テ首トシテコロンウェルノ暴進國法ニ反セルコトヲ論セシカハコロンウェル怒テ又之ヲ解ス時ニ國內漸クコロンウェル

九九 ルノ政ニ服セス王黨ノ遺孽之ニ乘シテ諸州ニ蠭起シケレハコロンウェ

三〇 ル全國ヲ十一鎮ニ分テ一鎮ニコトニ將官一名ヲ置キ之ニ數名ノ官吏ヲ附シテ所在ニ王黨ヲ追捕セシム是ニ於テ全國復ヒ反ク者ナシコロンウェル又其第二子ヘンリーヲ以テ愛倫ノ都督ニ任セシカヘンリーハ人ト爲リ溫厚ニシテ威嚴ヲ兼ネ又勢利ニ競奔スルコトヲ好マス是テ以テ頗ル島民ノ爲ニ愛附セラルト云フ○千六百五十六年九月再ヒ議員ヲ徵聚シ其都下ニ聚マルニ及テ行法會一々其新政ニ服スヤ否ヲ歷査シコロンウェル又別ニ衛兵ヲ院ノ戶外ニ置テ行法會ノ券書ヲ持スル者ニ非レハ院ニ入ルコトヲ許サス是ノ如クニシテ殆ト百名ヲ屏斥ス故ニ會開テ復タコロンウェルノ威ニ觸ル、者ナシ議員第一ニコロンウェルヲ勸請シ之ニ王號ヲ奉リシカ軍中ノ將官其議ニ服セサル者多キヲ以テコロンウェルヲ之ヲ受クルコトヲ得ス是ニ於テ議院更ニコロンウェルノ意ノマヽニ嗣職ヲ命スルコトヲ許シ且新ニ上院ヲ撰設スルコトヲ許シヽカハ千六百五十八年一月改メテ公會ヲ開キ舊時ノ制ニ復シテ上下兩院ヲ設ク此會上院ノ議員六十名アリ其中大抵ハ皆豪農富商或ハ軍中ノ將官ニシテ古來ノ貴族ハ僅ニ五六名ニ過キス然レトモ貴族ハ此輩ト伍スルヲ恥チテ徵ニ應セス且國人ノ憤怨益甚シク兵士ト通シテ亂ヲ謀ルノ機顯レシカハ二月四日コロンウェル遂ニ又議員ヲ解遣ス○是歲コロンウェルレーノルヅト云フ者ヲ六千人ニ將トシテフランドルスニ差遣シ佛軍ニ力ヲ戮セテドンキルクヲ圍ミ西班牙ノ軍其救援ニ來リケレハ六月四日兩軍逆擊シテ大ニ之ヲ破リ尋テ又ドンキルクヲ陷ル是ニ於テ西班牙勢ノ敵ス可カラサルヲ知リ刺客ヲ用ヰテコロンウェルヲ殺サントセシカ其計成ラス是歲オルモンド亦英ニ歸リハイルハックス等ト共ニ事ヲ舉ケント謀リシカ亦發覺シ其首領二人捕ヘテ誅セラル○三〇一 時ニコロンウェルノ政令益〻人心ヲ失テ怨讟群起シ且オルモンド等ノ事

三〇二

ノ後ハコロンウェル憂虞シテ憑信スル所ヲ知ラス常ニ出ツルニ多ク衛兵ヲ隨ヘテ往還路ヲ同シクセス夜間寢ヌルニ屢室ヲ轉シ平居衣下ニ甲ヲ被リ短劍拳銃ノ類身ヲ離サス是歲九月三日終ニ憂ヲ以テ死ス時ニ年六十國保ノ職ニ在ルコト四年ナリ行法會其死ニ臨テ後嗣ヲ命センコトヲ請ヒシカ既ニ昏瞑シテ答フルコト能ハス因テ議シテ長子リチャルドヲ之ニ繼カシム○リチャルドハ優柔ニシテ逸惰ヲ好ミ桀驁ヲ馭スヘキ才ニ非ス職ヲ襲ク後其弟ヘンリー愛倫ニ在リモンク蘇格蘭ニ在テ共ニリチャルドノ爲ニ各其地ヲ鎮撫ス之ニ賴テ二國僅ニ事ナキコトヲ得タリシカ軍中ノ將士ハ最モリチャルドノ權ニ服セス千六百五十九年一月新ニ議員ヲ徵シ公會ヲ開クニ當テ軍將フリートウード等共和黨中ノ兇徒ヲ嗾シテ別ニ軍中ニ會議ヲ開キ一將ノ信任ス可キ者ヲ推撰シテ之ニ軍事ヲ托セント議ス議院軍士ノ又跋扈センコトヲ懼レ其國保ノ命ヲ受ケスシテ妄ニ會議セルヲ詰リケレハ軍士怒テリチャルドニ逼リ是歲四月二十二日議員ヲ解キタリ凡ソ此等ノ事ニ於テリチャルド優游不斷ニシテ一モ之ヲ制スルコト能ハス尋テ自ラ任ニ堪ヘサルヲ知リ五月二十五日職ヲ退キシカ其後ヘンリーモ亦愛倫ノ都督ヲ辭シテ兄弟共ニ田里ニ歸休ス是ニ於テコロンウェルノ辛苦經營セル所未タ一年ヲ出テスシテ忽チ紐ヲ解キタリ其後軍士後事ヲ議定シ亂緒ヲ統里セントテ前年長公會ノ議員ヲ徵聚シ又公會ヲ開キタルニ公會權ヲ爭テ軍士ト相軋リシニ由テ十月十三日軍將ランベルト又院中ニ入テ議員ヲ驅逐ス○是時ニ當テ久亂ノ餘事皆項尾ニ流レ國ノ柄ヲ執ル者ハ皆斗筲ノ輩ニシテ一起一踣紛然トシテ抵極スル所ナク國人亂雜ニ倦テ

三〇三

昌平ヲ望ムコト一日千秋ノ思ナリモンクハ共治ノ初ヨリ此頃ニ至ル迄蘇格蘭ニ在テ北方ヲ鎮護セシカリチャルドノ職ヲ退テヨリ竊ニチャー

三〇四

ルスヲ迎ヘテ位ニ復セントスル計アリ是ニ至テ遂ニ意ヲ決シランベルトヲ除テ議院ノ厄ヲ救ハントヽ聲言シ其兵ヲ率ヰテ英倫ニ歸リケレハランベルト之ヲ邀ヘントヽ又兵ニ將トシテニューケッスルニ發向ス然レトモ其間海陸軍中多ク議院ヲ援クル者出テ來テ十二月議員再ヒ職ニ復シランベルトノ兵亦漸ニ逃亡シテ戰フコト能ハス翌年二月ニ至テモンク遂ニ倫敦ニ入リランベルトニ代テ國柄ヲ執リタリ然レトモ復辟ノ計ハモンク秘シテ未タ人ニ告ケス陽ニ共治ノ制ニ雷同シ公會ヲ扶翼スル者ノ如クニシテ時機ヲ窺ヒシカ終ニ會中ノ議論其計ニ利アラサルヲ察シ又逼テ之ヲ解散シ議員改撰ノ令ヲ發ス○チャールスハ英國ノ佛ト和シテヨリ又佛ヲ去リ此頃ハブッリセルスニ在リモンク密ニ書ヲ贈テ計ヲ通シ先ッ和蘭ニ至テ報ヲ待タシム斯テ四月二十五日新公會開クニ當テモンク其計ヲ院中ニ建議セシニ院中敢ヘテ之ニ抗スル者ナシ既ニシテ使者グレンビールト云フ者チャールスノ書ヲ奉シテ至ル其中一切前罪ヲ許シ諸教ヲ容恕シ議院ト共ニ政ヲ爲ンコトヲ載セシカハ議院遂ニ計ヲ決シテ答書ヲ贈リ且ッ榜示ヲ出シテ新王迎立ノ事ヲ全國ニ布告シタリ是ニ於テチャールス和蘭ヲ發シテ五月二十五日ドーブルニ著シモンクノ之ヲ迎ヘテ倫敦ニ奉入ス是時國人故王ノ統ノ國ニ返ルヲ聞テ歡喜スルコト限ナシ沿途ノ貴賤駕ヲ迎ヘテ賀ヲ奉ル者到處ニ麕聚セリ二十九日チャールス倫敦ニ達シテ位ニ昇リチャールス第二世ト稱ス

〔チャールス第二世〕王ハ先王ノ長子ニシテ位ニ昇ル時ニ年三十歳亂ヲ避ケテ海外ニ在ルコト十六年先王ノ死シテヨリ今千六百六十年ニ至ル迄十二年ナリ然レトモ凡ソ法律及政府ノ文書ニ於テハ皆先王ノ死年ヲ以テ王ノ元年トシテ別ニ共和ノ時ヲ設ケス王位ニ即テ第一ニ大赦ノ

三〇五

三〇六 令ヲ下シ凡ソ先王ノ晩年及其治ノ間議院ノ爲ニ盡力セシ者ハ一切措テ問ハス又朝廷ノ大臣皆黨派ヲ論セス必名望アル者ヲ撰テ職ニ任シモンクヲ以テアルベマールノ侯ニ封シエドワルド、ハイドヲ以テクラレンドンノ侯ニ封シ且首輔トスハイドハ即チ原ト議院中ノ巨魁ニシテ分裂ノ初ハルクランドト共ニチャールス第一世ニ歸シ今王海外ニ在リシ間常ニ其難苦ニ從テ大ニ輔佐セル所アリ國人此等ノ事ヲ聞テ皆悅服セサルハナシ然レトモ亂末自ラ王ヲ刑殺スルニ與リシ者ハ大赦ノ例ニ入ルコトヲ得ス此輩刑セラルヽ者凡十八アリ又コロンウェルアイルトン及ブラッドセウ等ノ墓ヲ發キテ其頭ヲ截リ千六百六十一年一月之ヲウェストミンストル宮ノ前ニ曝サシム其他バン及ランベルトモ亦糺彈セラレテバンハ刑セラレランベルトハ罪ヲ免サル〇千六百六十年十二月王公會ヲ解キ尋テ亦兵士ヲ解遣シ僅ニ騎兵一千步兵五千ヲ止メテ不虞ニ備フ〇千六百六十一年四月二十五日王即位ノ禮ヲ行ヒ同五月新ニ議員ヲ徵聚シテ公會ヲ開キタリ此會中議院令ヲ出シテ國教ノ徒ニ非サル者ハ市邑ノ官吏タルコトヲ禁シ翌年五月再ヒ院ヲ開クニ至テ法教齊一ノ律ヲ發シ凡ソ僧徒其頃改正シタル禮拜ノ書ニ從ハサル者ハ官ニ處リ地ヲ有スルコトヲ許サス之カ爲ニ管地ヲ放タルヽ者二千餘人アリ〇是ヨリ先キ千六百六十一年佛ノ相マザリン死シテルイス第十四世政ヲ躬シ大ニ威武ヲ輝カス志アリ千六百六十二年使ヲ英ニ遣テ舊好ヲ修センコトヲ請フ此時葡萄牙國ヲ建テヽヨリ未タ久シカラス尙西班牙ノ爲ニ屢ヽ攻侵セラル王乃チ佛ト共ニ之ヲ助ケント約シ其妹ヘンリータヲ以テ佛王ノ弟ヒリップニ妻ハシ五月王亦自ラ葡萄牙ノ王女カゼリンヲ娶リ且ツ葡萄牙ヨリタンジールス亞非利加ボンベー印度二砦及五十万ポンドノ金ヲ受ク〇英國和蘭ト共ニ貿易國ニシテ互ニ相競ヒケルカ王

三〇八ノ弟ゼームス亞非利加會社ト名クル者ヲ制シギニー亞非利加ノ海岸ニ貿易シテ和蘭ノ商人ト爭ヲ生シ其他英ノ商船和蘭ノ爲ニ阻セラルヽ者多カリケレハ千六百六十四年八月會社ノ水軍隊新安特堤(アムステルダム)亞米利加ヲ襲テ之ヲ取リ千六百六十五年二月英國遂ニ和蘭ニ對シテ戰ヲ宣知ス○六月三日英ノ兵船九十八艘ゼームスリュペルト及モンターグヲ將トシテ和蘭ノ水軍トソッポルクノ海岸ニ戰テ大ニ之ヲ破リ敵艦十九艘ヲ護タリ○是歲秋疫癘大ニ倫敦ニ行ハレテ死スル者十万人ニ下ラス倫敦ノ邑宰ラウレンス以下有志ノ諸人金ヲ募テ之ヲ賑救シ王亦毎週千ポンドヲ出シテ募ニ應ス○佛王ルイス英蘭二國ノ兵ヲ搆フルヲ聞キ和蘭終ニ敵スルコト能ハスシテ英國ノ愈洋面ニ横行センコトヲ慮リ千六百六十年又盟ヲ破リ兵艦四十艘ヲ英吉利峽ニ遣テ和蘭ヲ援ケシカハモンク其部下ノ兵艦二十艘ヲ分チリュペルトヲ將トシテ之ニ當ラシム然ルニ六月一日和蘭ノ水軍隊八十艘北ホールランドニ至テ不意ニモンクノ隊ニ迫リタリ時ニ英ノ艦數ハ僅ニ五十餘艘ニ過キス是日苦戰時ヲ移シ夜ニ入テ兩軍交綏ス二日戰ヲ復スルニ至テ兵艦十六艘新ニ和蘭ノ軍ニ加ハリケレハ英艦大ニ毀損ヲ受ケ終ニ海岸ニ向テ退キタリ三日英艦尙續テ退走シケルカ和蘭ノ軍其後ニ躡シテ之ヲ追ヒ午後第二時終ニ追ヒ及ホシケレハモンク已ムコトヲ得スシテ回戰スル際リュペルトノ軍適來テ英軍ニ加ハリ是ヨリ又大ニ戰ヒ第四日ニ至テ勝敗未タ決セス適大霧海上ヲ蔽フニ會テ兩軍遂ニ兵ヲ收メ各〻其港ニ歸リ去リタリ○是歲七月二十五日和蘭ノ水軍リュイトル及前ノトロンプノ子トロンプヲ將トシテテームス河口ニ至リモンク及リュペルトヲ戰ヒ三〇九兩軍各〻八十艘劇戰二日一夜ニシテ和蘭ノ軍遂ニ大ニ敗ル英軍之ヲ追ヒ和蘭ノ海岸ニ至テ歸レリ○是歲九月二日倫敦ニ火アリ延燒一万三

三千戸三日三夜マテ滅セス倫敦アリテヨリ未曾有ノ大災ナリト云フ○
一○時ニ和蘭トノ戰爭概シテ皆英ニ利アリト雖英國其實益ヲ収ムルコト能ハス加フルニ倫敦頻年ノ禍ニ逢テ上下困弊シ千六百六十七年五月フレダニ於テ和議ヲ開キタレトモ和蘭ハ殊ニ和スルニ意アラス六月九日和蘭ノ兵艦不意ニノールニ至テシールテスヲ取リ同十二日カザムニ至テ港中ノ船ヲ燒焚ス時ニ英國海岸ノ備ナクシテ之ヲ防クコト能ハス和蘭ノ軍遂ニテームス河ニ溯テ二十九日チルボリーニ至リ近傍ヲ鹵掠シテ忽チ遁逃ス然レトモ此間佛王ハ又和蘭ノ獨リ重名ヲ得ンコトヲ慮テ大ニ之ヲ助ケス七月十日遂ニ和議成テ三國共ニ兵ヲ罷ム○是ヨリ先キ王漸ク政事ニ荒怠シテ財用給セスハイドノ言ヲ以テドンキルクヲ佛ニ賣リシニ此事大ニ民情ニ乖忤セシカ是ニ至テ國人又テームスノ辱ヲ以テハイドニ歸シ其罪ヲ責テ已マス王亦ハイドノ方正ヲ忌テ稍之ヲ疎斥セシカハボッキンハム等ノ妬人間ニ乘シテ之ヲ搆陷シ八月王終ニハイドノ官職ヲ褫ヒ尋テ之ヲ大洲ニ放逐ス○ハイド黜ケラレテ後クリッホルドアシレーボッキンハムアリントンラウデルダール等事ヲ執ル世人之ヲ目シテカバールト曰フカバールハ五人ノ名ノ首字ヲ聚メタルナリ此五人皆奸佞ノ小人ニシテ是ヨリ王ノ政愈衰フ○千六百六十五年西班牙ノ王ヒリップ第五世死シ佛王其后ノ故ヲ以テ涅達蘭ヲ爭ヒ千六百六十七年ニ至テ遂ニ西班牙ト兵ヲ搆フ然レトモ英國ハ和蘭及瑞典ト連盟シテ西班牙ヲ援ケシカハ佛王力屈シテ千六百六十八年八月アイクラシペルニ於テ和ヲ講ス然レトモ佛王三國ノ爲ニ阻セラルヽヲ憤リ殊ニ和蘭ノ其首唱タルヲ怨ミテ之ニ報セント謀リケルカ又英國ノ
三 和蘭ヲ援ケンコトヲ恐レテ先ッ甘言ヲ以テ王ヲ誘ヒケレハ王遂ニ和蘭
一 ト絶シテ千六百七十年密ニドーブルニ於テ佛王ト盟フ其中事平ラク

三ニ至ル迄佛王年々十二万ポンドヲ王ニ餽ラント約シ且其事ノ餽ナル
二ヲ以テ國人ノ或ハ服セサランコトヲ慮リ英國若シ王ニ叛ク者アラハ六
千人ヲ送テ王ヲ援ケンコトヲ約ス然レトモ王國人ノ非議センコトヲ
恐レ他人ヲシテ之ヲ知ラシメス此議ニ與ル者ハ獨リクリッホルドアリン
トンノ二人ノミナリ○千六百七十二年三月英國佛ト共ニ和蘭ニ對シ
テ戰ヲ宣知シ五月二十八日英佛ノ水軍始メテ和蘭ノ將リュイトルト戰
テ和蘭ノ軍退走ス此時英國銀行ノ制未タ整ハス巨農或ハ銀商ノ類餘金
ヲ以テ政府ノ租稅察ニ托スルコト通習ニシテ當時察中ニ積ム所ノ金
大凡三十万ポンドアリ今回ノ戰王軍資ノ乏シキヲ苦ミクリッホルド及
アシレーノ言ヲ用ヰ其金ヲ奪テ費用ニ充ツ○王又別ニ少許ノ軍ヲ和
蘭ニ遣テ佛王ヲ助ケ連戰皆勝チ和蘭ノ將ウヰルレム遂ニ安特達ニ退キ
堤防ヲ決シ海水ヲ納レテ都城ヲ懸守ス此時ジョン、デ、ウヰット云フ者和蘭
ノ國事ヲ掌リウヰルレム其軍事ヲ掌テ二人相和セス是ヲ以テ國論支離
シ頻ニ和議ヲ希フ者多シト雖二王之ヲ許サス既ニシテ日耳曼及西班
牙共ニ兵ヲ出シテ和蘭ヲ援ケ、レハ佛王一旦其兵ヲ率ヰテ佛ニ旋師
ス○時ニ和蘭トノ戰爭徒ニ佛王ノ勢威ヲ增スヲ以テ國人懌ハス此間
王亦容恕ノ布告ト名クル者ヲ發シテ大ニ法敎ノ禁ヲ弛メ以テ密ニ舊
敎ヲ復スルノ地ヲ爲シシカハ千六百七十三年二月議院ヲ開クニ當リ
公會此等ノ事ヲ愁訴シテストノ律ト名クル者ヲ定メテ凡テ國敎ノ徒
ニ非ル者ハ官ヲ得ルコトヲ禁ス然ルニ王ノ弟ゼームスハ近ロ舊敎
ヲ奉スルヲ以テ其海軍總督ノ任ヲ解キリュペルトヲ之ニ代リ其他クリッホ
ルドノ輩此律ニ因テ官ヲ辭スル者多シ又是ヨリ先キ內亂ノ間都下常ニ
三兵ヲ備フト雖戰爭警防已ムコトヲ得サルニ出テ今時ノ制ノ如ク內外
三一無事ノ時ニ於テ常備ノ兵ヲ設ケタルハ此王ノ時ヨリ創マレリ故ニ議

三員之ヲ以テ偏ニ公會ヲ威壓スルモノト爲テ之ヲ放解セシコトヲ請ヒ
一四且和蘭トノ戰鬪彼此ノ曲直ヲ明ニシ和ス可ラサル所以ヲ確知スルニ
非レハ更ニ軍資ヲ納ルヽコトヲ肯セス○此頃アシレー漸ク民怨ノ已レニ
聚ルヲ見其說ヲ變シ王ノ政ヲ謗議シケレハ是歲十一月之ニ坐シテ官
ヲ褫ハレ其後ボッキンハムモ亦職ヲ去リ是ヨリ二人共ニ百姓ノ黨ニ加
テ王ニ抗爭セリ是ニ於テカバール黨破レダンベーノ侯オスボルント
云フ者代テ事ヲ主宰ス此人稍〻氣節アル人ニテ王ノ甘シテ餉給ヲ外國
ニ仰クヲ醜ミ其在職ノ間務メテ佛王ヲ排斥セシカ又好テ王權ヲ擴張
ス是ヲ以テ國人ノ爲ニ愛セラレス○千六百七十四年又議院ヲ開クニ
當テ會中ノ不平益〻甚シカリケレハ二月九日王和蘭ヨリ三十万ポンド
ノ償金ヲ得テ和ヲ結ヒ是ヨリ千六百七十七年ニ至テゼームスノ女マ
リーヲ以テウヰルレムニ妻ハシ翌年八月佛國モ亦和蘭ト講和シテ兵ヲ
罷ム○千六百七十八年國內流言アリテ言フ舊教徒中亂ヲ謀テ政府ヲ
覆サントスル者アリト又オーテストト云フ者ゴッドフレートト云フ者ニ依
テ王ニ訴ヘテ曰ク舊教徒羅馬法王ノ命ヲ受ケテ王ヲ刺殺シゼームス
ヲ位ニ即ケンコトヲ圖リ佛王之ニ與テ陰ニ其事ヲ慫慂セリト王ハ之
ヲ以テ無根ノ造語ナリトシテ顧ミサリシカゼームスハ其事ノ已レニ涉
ルヲ以テ必事由ヲ究極センコトヲ欲シ王ニ請テオーテストヲ鞫訊セシ
ニ果シテ信スルニ足ル者ナシ然レトモ此頃王ノ深ク舊教ヲ援クルハ
世ノ能ク知ル所ニシテ舊教ノ徒稍〻氣息ヲ蘇スル時ナリケレハ人々尙ホ
未〻氷釋セスオーテストノ辭ヲ用ヰゼームスノ法師コールマント云フ者
ヲ捕ヘテ其私書ヲ檢セシニ其中王佛王ノ賄ヲ受テ舊教ヲ復セント約
三スル書アリ此頃ゴッドフレー會賊ノ爲ニ暗殺セラレシカハ國人其舊教
一五徒ノ報復ニ出ツルヲ疑ヒ更ニ一箇ノ疑團ヲ增シタリ斯テ是歲十月議

三院ヲ開クニ當リダンベー上院ニ往テ佛王ノ狡詐ヲ陳列シ百方彼舊教
一六亂ノ信ス可キコトヲ論証セシカハ公會終ニ上院中ノ貴族五人ヲ捕ヘ
テトーウルニ下シ其後舊教ノ徒ノ議員ト爲ルコトヲ禁シテ悉ク之ヲ放
逐シ遂ニオーテスヲ信シテ厚ク之ヲ待遇セシカハ一時風ニ倣テ無稽
ノ言ヲ獻スル者競進シ妄説造語紛然トシテ湧起セリ其中ベドロート
云フ者オーテスト共ニ后ノ此事ニ關渉セルヲ証セシカト王卻ケテ其
言ヲ容レス既ニシテ十二月二十一日佛國在留ノ公使モンターグト云
フ者急ニ歸リ來テ二通ノ文書ヲ下院ニ出シダンベーモ亦王ノ意ニ訣
テ佛蘭和議ノ間佛王ノ賄ヲ促シヽコトアルヲ證シケレハ下院輙チ又之
ヲ信シダンベーヲ以テ國ヲ賣ル賊ナリトシテ反逆ノ罪ニ處セントセ
シカダンベーハ此議ヲ主宰スル者ニ非ス王ノ命ニ出テタルコト書中
ニ分明ナリシカハ上院其寃ヲ訴ヘテ下院ト相爭ヒ遂ニ劇論ニ至リシ
ヲ以テ千六百七十九年一月王院ヲ閉チ尋テ議員ヲ解遣ス此回ノ議員
ハ復王ノ翌年人民歡呼ノ中ニ撰貢セラレ皆欣々トシテ都下ニ入リシ
カ王ノ詭譎民ヲ馭シテ頗ル父王ノ風アルヲ視テ漸ク之ヲ親愛セス其末
年解散ノ前ニ至テハ其猖獗殆ト長公會ト異ナルコトナシ○千六百七十
九年三月王又議員ヲ徵聚シテ公會ヲ設ケシカ議院ヲ開クニ及ヒ下院
直ニダンベーノ罪案ヲ復シテ之ヲ獄ニ投ス王爲ニ救解スレトモ聽カ
ス其後議院三十名ノ行法會ヲ制立シ又別ニテンプルアシレーソンド
ルランドハリハックスノ四人ヲ以テ方今內閣ノ如キ小會ヲ設ケ以後王
ナシテ每事先ツ此二會ニ諮詢シ而シテ後舉行セシメ遂ニアシレーノ言
ヲ以テゼームスヲ傳位ノ順ヨリ省カント建議シケルカ下院ハ之ヲ主
三一張シ上院ハ之ヲ拒テ其議相協ハス紛々議論ノ間五月王又懼レテ公會
七ヲ解ス○此會中彼有名ナルハビアス、コルプスノ律定マレリ此律ハ濫

三一八

獄枉裁ヲ防クカ爲ニ設クル者ニシテ凡ソ國民罪ニ非スシテ獄ニ投セラレ或ハ故ナクシテ獄中ニ拘留セラルヽ者ハ他ノ法衙ニ訴ヘ速ニ法ニ照シテ審斷セラレンコトヲ請フコトヲ准許ス此律出テヽヨリ官吏私曲ヲ狹テ人ヲ經フルコトヲ得ス是ヨリ寃獄ノ數大ニ減ス英政沿革記ナリ○王即位ノ初年ヨリラウデルダールハ蘇格蘭ニ在テ僧シャープト云フ者ト共ニ教徒ヲ苛虐シテ民之ニ堪フルコト能ハス是歲五月三日激徒遂ニシャープヲ刺殺シテ官兵ニ敵シ尋テグラスゴーヲ取テ大ニ兵ヲ聚メケレハ王其庶子モンマウスヲ遣テ之ヲ討伐シ六月二十二日モンマウス反徒ヲボスウェル橋ニ破テ其亂ヲ平ケ因テ留テ北方ヲ鎮ス○是ヨリ先舊教亂ノ案ニ坐シテゼームス猜疑ヲ受クルコト甚シク且ラク英ヲ去テ此頃ブリュッセルスニ在リ然ルニ是歲秋王微疾アリテ之ヲ呼ヒ歸シヽカ居ルコト少間ニシテ王ノ疾愈ユルニ會ヒ王ゼームスヲ蘇格蘭ニ遣テモンマウスニ代ラシムモンマウスハ王海外ニ流落シタル間ウォールスト云フ者ノ女ト通シテ生ム所ニシテ王ノ嫡子ニ非スト雖其性温柔ニシテ叔父ゼームスノ頑强ニ似ス衆人多ク望ヲ屬スルヲ以テゼームス之ヲ忌害シ其蘇格蘭ニ在テ日ニ權ヲ得ルヲ聞キ自ラ請テ之ニ代リシナリ後ゼームス遂ニ之ヲ王ニ讒シテ大洲ニ放逐セシム○是歲十一月アシレー再ヒ罷メラレ尋テテンプルモ亦自ラ官ヲ退キ前ノハイドノ子ローレンス、ハイド及シドニーノ二人之ニ代リタリ然ルニアシレー深ク此貶黜ヲ怨テ必之ニ報セント謀リケルカ此頃再ヒ舊教徒陰ニ不軌ヲ謀ルト訴フル者アリアシレー因テ其説ヲ扶翼シ益〻之ヲ煽動ス時ニ從前舊教獄ノ餘燼未タ歇ラス人々積疑ヲ懷ク餘ナルヲ以テ其説人ニ入リ易ク國人又朝廷ノ舊教ヲ援クルヲ怨ミ速ニ公會ヲ開テ政令ノ缺ヲ補ハンコトヲ促シシカハ朝廷ノ黨ハ隨テ下民ノ安ニ朝政ヲ譏ル

三ヲ憤リ全國再ヒ囂々タリ此際諸州ノ代員改撰ノ時ニ當リケレハ二黨各
二○其黨人ヲ撰擧セント互ニ相競ヒケルカ適モンマウス英ニ歸テ西方諸
州ヲ周遊シ僻地ノ小民親シク接見スルコトヲ得テ愈愛附ノ情ヲ增シ
是ヲ以テ諸州ノ撰擧多クハ朝廷ノ爲ニ利アラス是分爭ノ間ウヰグトリ
ーノ名始メテ起レリトリーハ猶野蠻ト云フカ如クウヰグハ農民牛馬ヲ
叱スル語ニテ共ニ共源ハ譏語ナレトモ後終ニ各
其自稱ト爲レリ概シテウヰグ黨ハ時ニ隨テ舊政ヲ更張スルコトヲ主張
シトリー黨ハ王家ヲ尊奉シ舊制ニ因襲セリ故ニ後文循舊就新ノ字ヲ
以テ之ヲ譯ス○千六百八十年十月諸州ノ撰成リ議員都下ニ來聚セシカ多ク
ハ百姓ノ黨ニシテ又舊教亂ノ放措ス可ラサル事ヲ討論シゼームスヲ
傳位ノ順ヨリ除ク議ヲ復シテ遂ニ其議案ヲ上院ニ輸ス是ヨリ先キアシ
レーハゼームスノ舊教亂ニ首謀タルヲ論シ法術ニ訴ヘテ用ヰラレス
是時又上院ニ在テンンドルランド及ヒエセックス等ト共ニ力ヲ極メテ
其議ヲ贊成セシカ終ニハリハックスノ爲ニ說破セラレテ議案上院ヲ經
ス是ニ於テ下院怒ヲ遷シテ其前舊教亂ノ爲ニ幽囚セラレシ者ヲ罰セ
ント謀リ先ツスクツホルドノ侯ヲ獄ヨリ出シテ上院ニ訴ヘ遂ニ之ヲ刑殺
シケルカ其所爲又漸ク激暴ニ涉リシカハ千六百八十一年一月王又公
會ヲ解散ス○既ニシテ是年春再ヒ議員ヲ徵發シ王倫敦市人ノ傍議ヲ避
ルヲ爲ニオキスホルドニ於テ公會ヲ開キシカ諸州ノ貢員大抵ハ皆前次
ト同人ニシテ意氣愈ヽ決シ多ク僕隸ヲ率サ或ハ小民之ニ群從シテ其體
裁大ニ尋常公會ト同シカラス是ニ於テ王亦親衞ヲ隨ヘテ不虞ニ備ヘ
其他王ノ黨人皆頗ル警心アリ三月二十一日會議ヲ開クニ當テ下院又直
ニ舊教ノ獄傳位ノ順叙等ニ論シ及ボシケレハ僅ニ七日ニシテ王又之
ヲ解散ス時ニ上下ノ釁隙益ヽ甚シク下民往々暴ヲ以テ逼ラントスル勢
三アリ然レトモ此頃王新ニ佛王ト約ヲ結ヒ又年々若干ノ饋餉ヲ得ルヲ
二以テ金貨ヲ議員ニ仰カス又國內尊王ノ徒大抵半ニ居リ殊ニ僧徒ハ心
一

三ヲ王家ニ寄スルコト深ク此輩所々ノ説教ニ勉メテ輿論ヲ抑ヘケレハ
二王ノ意大ニ憑恃スル所アリ故ニ能ク斷然公會ヲ解セシナリ此會中倫
二敦ノ市人コルレーシト云フ者拳銃ヲ携ヘ兵ヲ佩ヒテ會ニ臨ミタリト
テ會散シテ後王之ヲ捕ヘテ刑シ尋テアシレーヲ捕ヘテ之ヲ獄ニ投ス
時コオーテス及ベドロー等ノ黨類權勢ニ阿附シテ翻然其罪ヲ論証セ
シカ其証左ノ虚妄ナルヲ以テ陪審之ヲ卻ケテ採用セス然レトモ其後
アシレーハ讎家ノ爲ニ偵伺セラルヽコト甚シクシテ英ニ在ルコトヲ
得ス逃レテ和蘭ニ至リ千六百八十三年遂ニ和蘭ニ死ス○古來倫敦以
下總ヘテ富盛ノ市邑ニ於テハ王ヨリ批准スル所ノ制度アリテ凡ソ官吏
ノ撰任及其他ノ庶政皆其准書ヲ照シ市人之ヲ施行シテ王喙ヲ容ル、
コトヲ得ス千六百八十三年王密ニ邑官與奪ノ權ヲ収攬セントシ倫敦
ノ市政稍〻規摸ニ背クコトアリト稱シテ其准書ヲ官ニ収ム市人ノ哀訴
スルニ至テ乃チ之ヲ還與シ且ツ命シテ曰ク從來市政ノ善カラサルハ官吏
ノ其撰ヲ得サルニ由レリ今ヨリ後ハ邑宰區長ノ類皆王ノ許可ヲ得ス
ハ撰任スルコトヲ得スト遂ニ他ノ大邑ニ於テモ亦准書ヲ檢査スルニ
託シテ之ヲ官ニ奪ヒ市民金ヲ獻シテ懇請スルニ至テ始メテ之ヲ還與
ス是ヲ以テ王遂ニ巨富ヲ致シヽノミナラス邑官皆其黨人ヲ用サルコ
トヲ得タリ○時ニ民黨ノ魁タル者ニハウヰルレム、リュッセルアルセルノン、
シドニー等アリ是ヨリ先千六百八十一年王疾ヲ患テウヰンドソールニ
在リシ頃モンマウス及リュッセルノ輩アシレーノ爲ニ慫慂セラレテ王ノ
疾若シ愈スハ兵ヲ舉ケテゼームスノ傳位ヲ拒マント圖リシコトアリ然
ルニ適〻王ノ疾平癒シ且アシレーノ捕ラルヽニ會テ其事中止セシカ是
三歳王ノ邑政ヲ鈐制シ怨嗟スル者益〻多キニ至テモンマウスリュッセルエセッ
三クスシドニー及ホーワルド等又前議ヲ尋キ倫敦及西方諸州ニ於テ一

三時ニ事ヲ舉ケント商議ス又茲ニロンボールドト名クル者アリ原共治
二四ノ頃ノ一士官ニシテ王ノニューマルケットニ競馬ヲ觀ルヲ窺ヒ其歸途レ
ーハウスト云フ田園ニ埋伏シ銃ヲ以テ覘射セント擬セシカ本日王期
ニ先タチテ宮ヲ還リシニ因テ其計成ラス既ニシテ反徒ノ中レーハウ
スノ計ヲ自首スル者アリテロンボールド縛セラル然ルニロンボール
ド素トモンマウス等ノ計ヲ熟知シ之ヲ衙庭ニ訴ヘシカハ其陰謀亦悉ク敗
露シリュッセルシドニー及ホーワルド等皆捕獲セラルレーハウフノ計ト
リュッセル等ノ陰謀トハ原事ヲ異ニシ英國ノ法ヲ以テ論スレハリュッセル等
ノ罪ハ唯謀叛ニシテ死ニ當セス然レトモ王ノ意必之ヲ殺サントシ言
テ曰ク余若シ今ニ及テ彼ヲ殺サスハ他日彼必余ヲ殺サン者ナリト然ル
コリュッセルモ亦强ヒテ死ヲ辭セス曰ク若シ英國ニ擅制ノ政府ヲ建テンコ
トヲ欲セハ必余ヲ殺スニ非スハ能ハシト是歲七月終ニ刑殺セラルリュッ
セル刑セラルヘ朝エセックスハ喉下ニ刀ヲ貫キ死シテ獄中ニ在リ之ニ
次テシドニーモ亦刑ヲ蒙リ其他ノ黨與皆法ニ伏ス唯ホーワルドハ自ラ
陰謀ヲ吐露シ且他人ノ罪ヲ論証セシニ因テ獨刑ヲ免レタリモンマウ
スハ事敗ルヽ初獨リ大洲ニ逃逃シ後ハリハックスノ救解ニ因テ一旦英ニ
歸リシカ既ニシテ又王ノ意ニ戻リ再ヒ國外ニ放逐セラル○千六百八十
五年二月六日王疾ニ侵サレテ死ス時ニ年五十五在位二十五年王性質
疎懶ニシテ苟安ヲ貪リ百事壅滯スレトモ已ムコトヲ得サルニ到ラサ
レハ顧ミス且好テ色ヲ漁シ嬖妾數人アリ又其畢生ノ問意ヲ舊教ノ回
復ニ委ネテ時勢ノ不可ナルヲ察セス唯羅和ヲ以テ人ニ交リ尊大自負
ノ風ナキヲ以テ其生前未タ大禍ヲ惹キ起サスト云フ
三〔ゼームス第二世〕王ハチャールス第一世ノ第二子ニシテヨルクノ侯ニ封セ
二五ラレ其父ノ死ニ當テ兄チャールスト共ニ和蘭ニ在リチャールス位ニ昇ル

三ニ至リ英ニ歸テ海軍總督ト爲リ和蘭トノ戰ノ間勇ヲ以テ稱セラレシ
二六カ後舊教ヲ奉スル故ニ官ヲ罷テレテ再海外ニ赴キ蘇格蘭ノ亂後モン
マウスニ代テ王ノ死ニ至ル迄其國事ヲ統理シ是ニ至テ遂ニ位ニ昇レ
リ時ニ年五十三歲ナリ王剛愎險惡言語信ナラス位ニ昇テ後貴要ノ大
臣皆先王ノ舊ニ循テ新教ノ徒ヲ用サ國事法教共ニ定制ニ遵從セシコ
トヲ布告セシカ幾何モナク舊教ノ式ヲ擧行シ又使ヲ羅馬ニ遣テ密ニ
法王ト交通ス○是歲四月二十三日即位ノ禮ヲ行ヒ同五月十九日新ニ
議員ヲ徵ス此回ノ議員ハ大ニ前次ト同シカラスシテ每事王ノ意ヲ承
奉ス故ニダンベー及其他オーテス等ノ爲ニ論證セラレタル舊教貴族
皆罪ヲ免レテ獄ヨリ出ツ又オーテス等ノ諸人ハ稍〻公會ヲ開ク前安ニ
詭說ヲ唱ヘテ人ヲ欺クニ坐シ刑法ノ官ゼブリース等其罪ヲ論シテ獄
ニ下スゼフリトスノ人ト爲リハ狠戾凶惡ニシテ其罪人ヲ處スルニ呵
責至ラサル所ナシ後皆其苦ニ堪ヘサルヲ以テ死ス唯オーテスハ獨リ死
ヲ免レテウヰルレム第三世ノ時ニ至ル迄生存セリ○モンマウスハ英國
ヲ去テヨリ和蘭ニ至テウヰルレムニ寄テ厚ク禮セラレシガゼームス位
ニ昇ルニ及テ此ニ留ル事ヲ得ス又去テブリッセルスニ至リ王ノ立ツニ
至テ密ニ位ヲ奪ハントスル志アリ初メ王ノ蘇格蘭ニ在リシトキアルシ
ールト云フ者法教ノ事ニ坐シテ罪ヲ得シカ亦逃レテ此頃和蘭ニ在リ
是ニ至テモンマウスト謀ヲ通シ是歲五月アルシール先ツ蘇格蘭ニ歸テ
兵ヲ擧ケ踵テモンマウス亦デボンシールニ上陸シテクウントンニ至
リ自立シテゼームス第二世ト稱シケレハ西方諸州ノ民相告ケテ之ニ
歸向シ須臾ニシテ六千餘人ヲ得タリ然レトモ其徒皆無賴ノ賤民ニシ
三テ且兵器充足セス加フルニモンマウス性質緩慢ニシテ決斷ニ乏シク
七シテ處々ニ逗撓スル間アルシール北人ノ爲ニ破ラレテ戮ニ就キ其報

三軍中ニ至リタリ然レトモモンマウス尙ホ衆ヲ鼓シテ前進シブリーシウヲ二八ートルニ至テ始メテ官兵ニ逢フ時ニ官兵新ニ到着シテ營壘未タ成ラスモンマウス其備ナキニ乘シテ一戰セント七月六日曉ヲ侵シテ之ヲ襲ヒシカ夜尙ホ暗黑ニシテ兩軍虛實ヲ知ラス砲戰三時許ニシテモンマウスノ軍遂ニ大ニ破レモンマウス衆ニ先タチテ遁走セシカハ餘衆潰亂シ死傷算ナシ其後二日モンマウス獨リ僻地ニ至リ饑餓シテ行クコト能ハス草ヲ被ヲ路傍ノ濠中ニ偃臥シ追騎ノ爲ニ搜獲セラレテ是月十五日遂ニ倫敦ニ於テ刑殺セラル○此役ヘベルシャムト云フ者官兵ノ將トナリ其部下ニキルクト云フ者アリ二人兇猛ニシテ殺ヲ嗜ミ凡ソ擒獲スル所隨テ屠戮シテ罪ノ有無ヲ問ハス尋テゼフリース王ノ命ヲ受テ亂ニ與ル諸州ヲ巡行シ敵ノ死屍ヲ得レハ之ヲ鑊中ニ煑テ松油ニ浸シ徧ク林木塔宇ニ懸ク會〻宥赦ヲ得ル者モ課スルニ重償ヲ以テシ之カ爲ニ産ヲ失ヒ飢餓ニ至ル者亦數ヲ知ラス凡ソ前後此官ノ手ニ死スル者三百餘人其經過スル所斷臂敗顱道路ニ狼籍タリ○テストノ律以來舊教ノ徒ハ官ヲ得ルコト能ハス王其禁ヲ去ラントシテ九月公會ヲ開クニ當テ其意ヲ院ニ演フ然レトモ王ノ意舊教ヲ興スニ在ルヲ知テ二院命ヲ奉セス王怒テ是月二十日院ヲ閉チ更ニ僞獄ヲ作テ舊教ノ徒エドワルドハールト云フ者ヲ陸軍大佐ニ任シ別ニ八ヲ倩テ之ヲ法衙ニ訴ヘシム法官既ニ獄ヲ聽クニ臨テ王急ニ抗議ス可キ者四人ノ官ヲ奪テ之ニ與カラシメス故ニ本日法官十二名中十一名ハ王ノ權ヲ以テ何ノ律ト雖廢セサル者ナキ事ヲ審定セリ王乃チ言テ曰ク法官既ニ是ノ如シ議院ノ論ハ據ルニ足ラスト遂ニ舊教貴族ヲ拔擢シ又大臣中舊教ヲ捍拒スル者ヲ廢黜シ是ヨリ漸ヲ以テ舊教ノ諸儀禮ヲ回復シ諸制禁ヲ解キ法三二九教容恕ノ令ヲ發シ遂ニ千六百八十七年七月ニ至テ法王ノ使者ヲ英ニ

受ク是ヨリ先英國羅馬ノ使者ヲ受クルコトハマリー ノ時以來其例ナ
シ故ニ國人之ヲ聞キ皆愕然タリ○千六百八十七年タルボット云フ者
タイルコンネルノ侯ニ封セラレテ愛倫ノ都督ト爲リ禍亂ヲ防クニ託
シテ悉ク新教徒ノ兵器ヲ奪ヒ且軍中ノ士官兵卒法教ヲ異ニスル者ア
レハ即之ヲ隊伍中ヨリ放遣ス之カ爲ニ屏斥セラルヽ者四五千人アリ
○千六百八十八年四月王再ヒ容恕ノ令ヲ發シ且令ヲ下シテ之ヲ寺院中
ニ讀マシメシニユンーノ教長チュルネルチチコストルノ教長レーキ第六
人上書シテ曰ク王容恕ノ布告ヲ發スルハ嘗テ議院ノ不法トスル所ナ
ルヲ以テ義ニ於テ之ヲ讀ムコト能ハスト王大ニ怒テ坐スルニ朝政ヲ
毀譏スルヲ以テシ之ヲ執ヘテトーウルニ投シタリ然ルニ都人六僧ノ
法ヲ執テ禍ニ罹ルヲ憐ミ其獄ニ送ラルヽ途中男女街上ニ拜伏シテ其
福ヲ祈ル者道路ニ塡咽シ衛士之ヲ呵スレトモ制ス可ラス斯テ六月二

十九日法官命ヲ受ケテ之ヲ糺彈セシニ是日都人又衙門ノ外ニ群聚シ
テ其審判ヲ探聽セシカ既ニシテ陪審其罪ニ非サルヲ審斷セシカハ門
外ノ歡聲一時雷ノ如ク相傳ヘテ慶賀スル者殆ト國ニ徧シ是日王ヘベル
シヤムノ營ニ至テ軍ヲ閲セシカ其歡呼軍中ニ及ホシ滿營忽閧然タリ王
其故ヲ聞キ大ニ懌ハスシテ曰ク嗚呼是レ僧徒ヲシテ愈罪ヲ重ヲシムル
ナリト忿然トシテ去レリ○千六百八十八年六月十日后一男ヲ生ム名
ケテゼームスト云フ是ヨリ先王既ニ五十ヲ過テ未タ男兒ヲ得ス其死後
長女マリー位ヲ繼カハ其夫和蘭ノウヰルレムハ則チ新教ノ徒ナルヲ以テ
其多年營々スル所之カ爲ニ敗ラレンコトヲ憂ヒ頻ニ心ヲ惱マシヽカ
是ニ至テ喜フコト限ナシ以爲ラク是ヨリ百事皆意ノ如クナラント然
ルニ國人ハ久シク王ノ政ヲ厭苦シウヰルレムノ沈毅英邁ナルニ意ヲ屬
シテ其代立ノ日ヲ跂望セシニ是ニ至テ望ヲ失フコト甚シ或ハ曰ク新

三生ノ子ハ王ノ種ニ非ス王位ヲ設ケテウヰルレムヲ拒ムノ計ナランヨト
三之ヲ疑フ者アリ是ヨリ先國人往々既ニウヰルレムニ書牘ヲ贈テ迎立ノ
二意ヲ啓シウヰルレムモ亦人ヲ英ニ遣シテ密ニ其國情ヲ探索セシカ今回
和蘭ヨリ使者至テ王ノ生子ヲ賀シ其使者歸ルニ及テ貴族及諸黨ノ巨
魁競テ書ヲ使者ニ附シ其速ニ來テ塗炭ヲ救ハンコトヲ促カシヽカハ
ウヰルレム遂ニ其請ヲ領シ大ニ兵ヲ擧ケテ英ニ入ラントス佛王ルイス
此等ノ事ヲ傍觀シ書ヲ寄セテ王ヲ警戒スト雖時ニ王一意法敎ノ改革
ニ惑溺シテ畧之ヲ意トセス既ニシテ和蘭在留ノ公使亦變ヲ上テ委シ
ク和蘭ノ形情ヲ報奏シケレハ王始メテ大ニ驚キ愕然トシテ其書ノ手
中ヨリ落ツルヲ知ラス是ニ於テ急ニ諸市邑ノ制度ヲ復シ罪人ヲ放免
シ凡ソ近來施行セル政令悉ク廢止セシカ人皆其憂惶ニ出ツルヲ知テ之
ヲ感佩スル者ナシ○是歲十月和蘭ノウヰルレム戰艦ヲ裝艤シ發スルニ
臨テ先ツ檄ヲ移シ英人ニ諭シテ曰ク余ノ至ルハ敢ヘテ國ヲ奪ハンコト
ヲ欲スルニ非ス唯暴政ヲ除キ自主ノ公會ヲ設ケ且世子ノ眞贋ヲ究メ
ントスルニ在リト是月十九日戰艦五百兵士一万四千ヲ以テヨルクシ
ールニ向テ啓行シ十一月五日トルベーニ上陸シテエキセトルニ進入
ス土人初ハモンマウスノ舉ニ慫リテ敢ヘテ懽迎スル者ナカリシカエ
ドワルド、セイモールト云フ者衆ニ先タチテ來リ加ハリシカハ須臾ニ
シテ遠近相告ケテ歸降スル者陸續絶エス倫敦以下都鄙ノ市邑亦爭ヒ
起テ遙ニ之ニ應シ常備兵中ノ將卒ニ至ル迄往々逃亡シテ和蘭ノ軍ニ
歸スル者アリ十一日王倉皇ノ間令ヲ發シテ議員ヲ徵聚ス時ニ常備兵
ハサリスボリーニ在リ王尙之ヲ憑恃シテ公會ヲ此地ニ設ケントシ急
三ニサリスボリーニ赴キシカ數日ヲ經テ其將官チャルチル及王甥クラフ
三トンノ侯等亦王ヲ棄テウヰルレムノ軍ニ投シタリチャルチルハ後ニ至テ

三 マルボローノ侯ト稱スル者ニシテ王最モ之ニ依賴セシニ今此ノ如クナ
三 ルヲ視テ王益〻惶懼シ又此ニ止ルコトヲ得ス時ニ王ノ第二女アンノ夫
四 嗹馬ノゼオルジアンドーブルニ在リ王之ト合シテ事ヲ謀ラント二十
四日駕ヲ返シテアンドーブルニ至リシニゼオルジ既ニウヰルレムニ降
テ邑ニ在ラス二十六日王歸テ、倫敦ニ入レハ其女アンモ亦チャルチルノ
妃ト共ニ去テ既ニ數日ナリ王乃チ天ヲ仰テ歎シテ曰ク事一ニ此ニ至ル
カト是月三十日王ハリハックス等ヲウヰルレムノ軍ニ遣シテ和ヲ議セシ
カ其議成ルヲ待スシテ意ヲ逃亡ニ決シ十二月十日先ツ后及世子ヲ佛國
ニ脫シ翌曉第三字王亦形ヲ變シテ遂ニ宮中ヲ逃出ス是ヨリ王テームス
河ヲ渡テシールヲスニ至リ此地ヨリ舟ヲ備テ去ラント擬セシカ土
人ノ爲ニ搜獲セラレテ再倫敦ニ入リタリ然レトモ初ウヰルレム和蘭ヲ
發スルニ當テマリーノ爲ニ固ク其父ヲ面辱セサランコトヲ約セシコ
トアリ故ニウヰルレム密ニ王ヲ扶ケテ再ヒ都外ニ遁走セシメ後二十三日
ニ至テ王遂ニ佛ニ航ス○倫敦ノ小民王ノ逃亡ヲ聞テ一時ニ群起シ加
之常備兵ノ總督ヘベルシャム亦王ノ既ニ去ルヲ見テ悉ク其兵ヲ解散シケ
レハ倫敦及近地ノ沸亂言フ可カラス凡ソ平生怨恨セラレシ者ハ皆執ヘ
テ罵辱セラレゼフリースハ身ニ舟人ノ服ヲ被リ酒肆ニ遁匿セル間亂
徒ノ爲ニ獲ラレテ拳石交〻下リ後遂ニ傷痍ノ爲ニ死ス倫敦在留ノ貴族
高僧此等ノ狂炎ヲ鎭厭セント連署シテ書ヲウヰルレムニ上リ其駕ヲ促
カシ〻カハ十二月十九日ウヰルレム遂ニ倫敦ニ入テ假ニ萬機ヲ攝行シ
檄ヲ諸州ニ發シ一大會議ヲ開テ後事ヲ定メントス○千六百八十九年
一月二十二日諸州ノ貢員倫敦ニ來聚シテ貴族及高僧ト共ニ會議ヲ開
三 キ先ツ先王ゼームスハ君主ノ德ナク政體ヲ滅裂シ君民ノ原約ヲ破リタ
五 リトテ相共ニ之ヲ廢シ次ニ繼立ス可キ者ニ議シ及ホシ〻カ循舊就新

三及其他ノ黨派其說各一ナラス數日ヲ經テ後遂ニウヰルレム及マリーヲ
三六以テ共ニ位ニ臨マシメント決ス且定メテ曰クマリー若シ子ナクシテ死
セハ位ヲ先王ノ次女哇馬ノアンニ傳ヘ以テ其子孫ニ及ハント二月十
三日議員悉クホワイトホールニ會シウヰルレム及マリーヲ勸進シテ英王ノ
位ニ即カシム

今邨亮校

改正英史卷七終

改正英史卷八

正七位大嶋貞益　纂譯

按スルニマリートアントハ並ニ先王ゼームスノ子ナルヲ以テスチユアルト紀中ニ收入ス可キニ似タリ然レトモ洋人著セル所ノ諸史皆此ノ二世ノ爲ニ別ニ記載シテ前後ノ紀中ニ附セス故ニ今姑ク原本ニ從フ

〔ウヰルレム及マリー共治〕王ノ家ハ累世日耳曼國中オレンジノ部長ニシテ和蘭始メテ國ヲ建シ時其父ウヰルレム推戴セラレテ其統領ト爲リ後ウヰルレム英王チヤールス第一世ノ女マリーヲ娶テ王ヲ生ミ王長ノ又ゼームス第二世ノ女ヲ娶レリ故ニ王ノゼームス第二世ニ於ルハ其甥ニシテ且女婿ナリゼームス位ニ即テ國人其政ニ服セス時ニ王其父ニ繼テ和蘭ノ統領ト爲リ佛王ルイス第十四世ノ兵ニ敵シテ大ニ威名アリ

三加フルニ諸王族ノ中マリーノ血胤最モ近キヲ以テ國人遂ニ之ヲ迎立ス
七英國ノ例女王位ニ當ルコトアリト雖其夫ヲシテ政ニ與ラシメス然ル

ニ王モ亦英國王統ノ近親ナルヲ以テ夫妻相並テ位ニ莅マシメシナリ然レトモ萬機ハ王躬ラ之ヲ統理シ后ハ其位ヲ共ニスレトモ其政ヲ分タス唯王、事ヲ以テ他國ニ在ル間時々朝ニ臨ムノミナリ○是歳二月議員改撰ノ勞ヲ省キ前月假ニ徵聚セル所ノ貢員ヲ用ヰテ公會ヲ設ク此會中始メテ政府財用ノ公私ヲ分ツコト起レリ是ヨリ先政府一歳ノ費用ハ新主代立ノ初年議員之ヲ議定シ其數歷代同シカラスト雖王皆之ヲ專用スルコトヲ得シカ是歳公會始メテ之ヲ二分シ其百二十万ポンド中ニテ半ヲ以テ政府ノ公費ニ供シ半ヲ以テ王ノ家費ニ供ス是ヨリ貢稅ヲ制限スルコト遂ニ公會ノ權ト爲レリ○初メ王ノ英ニ入リシトキ國人擧テ之ヲ悅ヒシニ非ス公會中ト雖往々異說ヲ立ツル者多ク且王和蘭ノ統領ヲ兼ヲテ既ニ金貨ニ富メルヲ以テ公會ニ屈セサルヲ憂フル者アリ故ニ故王ゼームス在位ノ間ハ議院年々二百万ポンドヲ獻納セシカ王ノ世ニ至テハ其數僅ニ百二十万ニ過キス且其用途ヲ限リシモ亦此意ニ原ケリ其後王其攻入ノ經費七十万ポンドヲ和蘭ニ償ハント之ヲ議院ニ請ヒシニ議員懲テ求ニ應セス是ヲ以テ王大ニ望ヲ失ヒ一時位ヲ棄テヽ和蘭ニ歸ラントシタルコトアリ國內又一說ヲ持スル者アリテ曰フゼームス無道ナリト雖未タ位ヲ去ルヘカラス唯少シク其權ヲ殺テ之ヲ復辟ス可シト此輩亦皆王ニ從フコトヲ樂マスシャコビッテスト名ケテ別ニ一黨ヲ成シ爾後數世ノ間頗ル政府ノ憂ヲ爲セリ○是歳三月ゼームス佛王ノ軍艦器械ヲ借リ愛倫ニ歸テ兵ヲ擧ク時ニタルボット尙ホ愛倫ノ都督ト爲リ其政事務メテ新教ヲ抑ヘ舊教ヲ助クルニ因テ島人多クハ皆舊教ノ徒ニシテ最モ意ヲゼームスニ屬シ其至ルヲ聞テ翕然歸向シ降ラサル者ハ唯ロンドンデルリーエンニスキルレンノ二邑ナリゼームス自ラ將トシテロンドンデルリーヲ圍ミシカゼームスノ兵ハ

一時ノ烏合ニシテ能ク小銃ヲ携フル者ハ百中ノ二三ニ過キス加フルニ城兵精悍ニシテ善ク禦キシカハ急ニ城ヲ拔クコト能ハスゼームス則其將ローセンヲ留メテ長圍ノ計ヲ爲シ自ラジェブリンニ退キシカ既ニシテ英將キルクノ來リ救フニ逢ヒ是秋攻兵遂ニ營ヲ燒テ解走ス○是歲夏蘇格蘭北部ノ小民ゴールドンノ侯ヲ擁シテゼームスノ爲ニエジンボロー城ヲ奪ヒ別ニドンジートト云フ者二千餘人ヲスチルリングニ聚メテ大ニ官兵ヲキルリクランキーノ山中ニ破レリ然レトモ六月十三日エジンボロー降ヲ請ヒキルリクランキーノ役ドンジー亦大傷ヲ被テ七月十三日遂ニ死ス故ニ叛徒氣ヲ奪ハレ北方頓ニ鎮靜ス○是ヨリ先キ王ノ位ニ昇ルニ當テ公會又臣民ノ諸權義ヲ伸明シ且傳位ノ順ヲ定メテ之ヲ玉ニ上リシカ是歲十月議院ヲ開クニ及ヒ其書ヲ增補訂正シテ律書中ニ增入ス此書題シテビル、オフ、ライトト云フ亦英國古來大律ノ一ナリ○千六百九十年二月王議員改撰ノ命ヲ下シ尋テ三月新徵ノ貢員都下ニ來會ス時ニ王愛倫ニ新征スル議アルヲ以テ議院百二十万ポンドヲ納レテ其軍資ニ供ス○是歲六月十四日王遂ニ愛倫ニ入ルゼームス王ノ來ルヲ聞キ軍ヲ悉シテ之ヲ禦キ兩軍ボイエン河ヲ隔テ、對陣セシカ七月一日王流ヲ渡テ攻メタリシカハゼームスノ軍戰ハスシテ潰走シゼームス獨リジェブリンニ逃走ス斯テゼームス是ニ止ルコト數日敗兵未タ聚ラサルニ王ノ軍既ニ近キニ在リシカハゼームス遂ニ佛ニ遁ル是ニ於テ王軍ヲ整ヘテジェブリンニ入リ尋テウェックスホルドクロンメル等ノ數邑ヲ連下シ八月リメリックヲ圍ミシカ拔クコト能ハス九月圍ヲ棄テ、英ニ旋師ス其後數日ヲ經テマルボローノ侯來テ之ニ代テ軍事ヲ領セシカ時既ニ寒ニ向フヲ以テ兵ヲ四方ニ用サルコトヲ得スコルク及ギンケルノ二邑ヲ陷レテ後又英ニ旋師ス○是時英人

三四二

佛ノゼームスヲ援クルヲ怒テ遂ニ兵ヲ起シボイエンノ戰前一日英及和蘭ノ水軍合シテ佛人ト海上ニ戰フ然レトモ英軍利ヲ失ヒ退テームス河ニ匿レケレハ佛人岸ニ上テテインマウスヲ焚畧ス○時ニ佛蘭二國ノ爭未タ止マス王歐洲諸國ト連盟シテ佛王ノ貪横ヲ挫カントシ千六百九十一年五月和蘭ニ至リ春ヨリ秋ニ至ル迄屢〻佛兵ト戰テ互ニ勝敗アリ十月ニ至テ又英ニ歸入ス○是歲ノ間英將ギンケルト云フ者愛倫ニ在テ屢〻佛將リュスト戰ヒ六月ギンケルアスロンヲ陷ル其後佛將丸ニ中テ死シ殘徒退テ再リメリッキヲ保シゼームスノ軍委靡シテ振ハス是ニ於テギンケル約束ヲ寛ニシテ敵ヲ誘降シケレハ土人悉ク佛軍ヲ棄テ、來降シ十月ニ至テ島內畧平定ス是時ノ約ニ土人若シ去テ大洲ニ赴カンコトヲ欲スル者ハ政府其費ヲ辨シ船ヲ裝テ之ヲ護送ス可シトノ條アリ故ニ亂平テ後叛徒佛國ニ流移スル者甚多ク此輩一万二千餘人佛王ノ募ニ入リ後愛倫隊ト名ケテ驍武ヲ以テ稱セラル○千六百九十二年ジャコビットノ黨人又故王ノ復辟ヲ謀リマルボロー等ノ諸將及近貴ノ大臣陰ニ之ニ加ハル者アリマルボロー書ヲゼームスニ贈テ國ノ陰事ヲ告ケ且ツ曰ク王若シ國ニ返テハ臣願クハ軍士ヲ率ヰテ駕ヲ迎ヘント其後王女アンモ亦書ヲ父ニ寄セテ深ク前罪ヲ悔謝シケレハゼームス乃佛王ノ兵ヲ借リ愛倫隊ヲ合シテヘーグニ駐留シ日ヲ刻シテ英ニ入ラントス時ニ英王再和蘭ニ至テマリー國ニ留守セリ海軍大將リュッセル(アドミラール)ニ命シテ海防ヲ嚴ニセシム五月佛將トールビールゼームスノ軍ヲ載セテ英ニ送ラント戰艦ヲ率ヰテブレストヨリヘーグニ赴キシカハリュッセル之ヲ追テ十九日大ニヘーグノ海角ニ戰ヒ午時ヨリ晡時ニ至テ佛軍遂ニ敗走ス此役リュッセル以下諸將亦欵ヲ敵ニ通シ共攻入ヲ待テ舉軍之ニ投セントヲ約セリマリー預メ之ヲ覺ルト雖敢ヘテ詰ラス書ヲリュッセ

三四三

三四 ルニ贈テ曰ク近者道路ノ説ヲ聞クニ往々汝カ輩ヲ議スル者アリ然レ
四四 トモ余ハ之ヲ信セス汝等勉メテ忠憤ヲ激マシテ衆疑ヲ散セヨト且リュッ
セルニ命シ將士ヲ集メテ之ヲ船中ニ讀マシム是ニ於テ將士且愧チ且
感シ志ヲ飜シテ勇戰シ終ニ大勝ヲ獲タリ其後マルボローノ罪ヲ訴フ
ル者アリ后一旦之ヲ獄ニ下シシカ明證ヲ得ルコト能ハス久カラスシ
テ又之ヲ放免ス○是ヨリ千六百九十四年ニ至ル迄大洲ノ戰爭悉皆王
ニ利アラス時ニ日爾曼和蘭英國西班牙等ノ諸國連盟シテ佛王ルイス
ニ敵シ日帝レオポルド會盟ニ主タリト雖王ノ威名適ニ其右ニ出テ戰
守ノ權實ハ皆王ニ在リ然レトモ其智略亦佛王ノ敵ニ非ス千六百九十
三年ナミュールノ圍ヲ解クニ當テ王佛軍ノ爲ニ破ラレ同九十四年又ラ
ンデンニ戰テ再利アラス是歲英蘭等ノ商船四百餘艘英將ルーク戰艦
ヲ以テ之ヲ護送シ佛將トールビールノ爲ニ襲レテ商船軍艦八十餘艘
ヲ失フ是ニ於テ國人囂々トシテ王ノ不能ヲ責メケレハジャコンビット黨人
是際ニ乘シテ諸州ニ亂ヲ爲ス者少カラス六月英將タルマッシ等王ノ命
ヲ受ケテブレストルヲ襲ヒシカマルボロー又書ヲゼームスニ寄セテ
密ニ其謀ヲ通知シケレハ佛人預メ其備ヲ爲シ英人岸ニ上ルニ及テ劇シ
ク追擊ス英兵七千中生還スル者僅ニ千許人ノミ○是歲十二月后マリ
ー痘ヲ病テ死ス后聰慧ニシテ才略アリ王和蘭ニ在リシ間每ニ代テ政
ヲ聽キ其國人ニ愛セラルヽコト過ニ王ニ過ク然レトモ其父ヲ逐テ恬
然トシテ憂ヒス又其妹ヲ處スヲコト頗ル少恩ナルヲ以テ後世ノ譏ヲ免
レスヘーグノ役後后グリーンウッチノ離宮ヲ以テ創傷老病ノ者ヲ救養
スル所トス海軍病院ノ制是ヨリ始マレリ○是ヨリ先チャールス第一ノ
三四 世及其治ノ制ノ間三年ニ一タヒ議員ヲ改撰スル法ヲ定メシカチャール
五 ス第二世ノ時以來又其制ニ遵ハス是歲公會中更ニ議定シテ三年一期

ノ制ヲ復ス○千六百九十五年春又議院ヲ開ク此會中印行自由ノ令始メテ出タリ是ヨリ前ハ政府ニセンソルト名クル官アリテ國内發行ノ書籍ヲ檢視シ官許ヲ經ルニ非レハ猥ニ印行スルコトヲ許サス是ニ至テ其禁ヲ解キ其君上ヲ譏リ或ハ政府ノ機事ヲ洩ス者ゴ非レハ發免スルコトヲ得タリ然ルトモ當時ノ人ハ此律ノ世ニ鴻益アルヲ知ラス其論スル所僅ニ書肆印工ノ煩ヲ省クニ過キスト云又初メエドワルド第三世ノ時反逆ノ律ヲ定メ凡ソ王及后或世子ヲ殺サントスル或ハ之ニ對シテ兵ヲ起シ或ハ后及世子ノ妃ニ奸スル類ヲ以テ反逆ト爲シカ爾來大獄起ルコトニ黨人動モスレハ反逆ノ律ヲ濫用シ之カ爲ニ冤枉ノ罰ヲ受クル者少カラス故ニ此會中其律ヲ增補シテ云ク凡ソ反逆ノ獄起ル時ハ其糺彈ノ前五日證罪書ヲ以テ被告者ニ與ヘ又前二日陪審ノ名簿ヲ作リテ被告者ニ與ヘ且ツ原告被告共ニ代言人ヲ用サルコトヲ得ヘシト後五日ヲ變シテ十日トシ其後アンノ世ニ至テ又之ニ增加シテ糺問ノ前十日被告者ヲシテ其證人ノ名ヲ知ラシム可シトノ一條ヲ加入セリ是ヨリ返逆ノ獄大ニ嚴重ヲ增シテ被告冤枉ヲ防ク便ヲ得タリ○千六百九十六年ノ間故王ノ黨人又王ヲ刺殺セントスル者アリ二月十五日王ノ出テ、遊獵スルヲ窺ヒ途中ニ理伏シテ事ヲ舉ケントスシカ期ニ先タチテ叛徒中ノ一人其事ヲ自首シケレハ叛徒大抵戮ニ就キタリ是時叛徒中ノ一人ヘンウキツキト云フ者頗ルマルボロー等ノ陰事ヲ知リ其罪ヲ論證シテ自償ハント請シカ王又卻ケテ其言ヲ納レス○前年夏王又和蘭ニ往テ自ヲナミコールヲ攻陷ス是ニ由テ佛軍ノ鋒勢大ニ挫ケ加フルニ佛ノ國力既ニ盡テ佛王密ニ和ヲ乞ヒシカ此歲ノ間佛軍益ト振ハス會盟ノ列國亦戰ニ疲レ遂ニレイスウキツキニ於テ和議ヲ講セシカハ



王又和蘭ニ往テ之ニ臨ミ千六百九十七年九月和議成リ佛王ウルレム

三四八

ノ英コ王タルコトヲ許シ且スチュアルト氏ヲ逐ハントノ約ス○是歳王和蘭ヨリ歸テ後議院兵ノ一旦止ムヲ以テ軍士ノ數ヲ減セントノ議ス然レトモレイスウヰンキノ和後佛王未タゼームスヲ逐ハス且ツ諸國ノ爭端未タ定ラサルヲ以テ王和議ノ久シカラスシテ又破レンコトヲ知テ其議ニ從フコトヲ欲セス千六百九十八年新徵ノ議員公會ヲ開クニ及テ遂ニ軍士七千人ヲ留メテ其餘ヲ解遣シ且常備ノ兵ハ皆英人ヲ用ヰルヘシトテ悉ク和蘭ノ兵ヲ放逐ス王之ヲ爭ヘトモ聽カス是ニ於テ王大ニ怒リ又和蘭ニ歸ラントセシカ適之ヲ諫ムル者アリテ果サス又初ゼームスノ愛倫ヲ去テヨリ土人或ハ罪ニ坐シ或ハ流亡シテ其土地官ニ入ル者極メテ多シ王之ヲ以テ其寵臣ニ封與セシカ是ニ至テ議院其土地ハ皆政府ノ用ニ充ツ可キコトヲ言テ再之ヲ沒官セシカハ之カ爲ニ產ヲ失フ者和蘭人最多シ然レトモ下院其議案ヲ以テ獻納ノ金ニ代ヘントスルニ因テ王之ヲ拒ムコトヲ得ス遂ニ意ヲ枉ケテ其請ニ從ヒ尋テ議院ヲ閉鎖ス○時ニ西班牙王チャルス第二世老且病テ子ナシ日帝レオポルドノ子チャールス佛王ノ子ルイス及ハハリア部長ノ子ジョセフ並ニ連姻ノ故ヲ以テ位ヲ繼ク可キ理アリ然レトモ英王ノ首トシテ各國ノ君主佛日等ノ益ス強大ナランコトヲ慮テ西ノ一國ニ折入スルコトヲ好マス故ニ是歳十月王又和蘭ニ往テ佛王トローニ會シ密ニ佛王ニ說テ西國ヲ三分シ三子ヲシテ各其一ヲ保クシメント約セシカ翌年春ジョセフ病ヲ以テ死セシニ因テ其約行ハレス千七百年改メテ新約ヲ設ケチャールス及ルイスノ二人西國ヲ分取センコトヲ約ス然ルニ西王及其國人西國ノ分割セラレントスルヲ聞テ深ク英王ヲ怨ミ日帝モ亦頗ル此議ヲ甘セス

三四九

是歳十一月西王死ニ臨ミ遺命シテ國ヲ佛國世子ノ第二子アンジョーノ侯ヒリップニ傳ヘシカハ日帝怒テ別ニ其子チャールスヲ立テヽ遂ニ佛國

ト兵ヲ搆フ世ニ此亂ヲ西班牙繼統ノ亂ト云フ○王ノ初年議院繼統ノ順ヲ議シ嗣馬ノ后アンナシテ王ニ繼カシメ世次ヲ以テ其子孫ニ及ホサント定メシカ千七百年七月アンノ一子グローストルノ侯病ヲ以テ死シケレハアンノ死後位ヲ繼ク可キ者ナシ是ニ於テ千七百一年ノ會中二院繼統ノ律ト名クル者ヲ作テゼームス第一世ノ外孫ハノーブルノソヒアヲ其後嗣ト定メ且數條ノ例制ヲ其後ニ附シテ曰ク爾後英王ノ位ヲ踐ム者ハ必國教ノ徒ナルヘシ他邦ノ人來テ國統ヲ繼クコトアリトモ公會ノ許可ヲ經ルニ非サレハ國人ヲ驅テ他邦ノ戰ニ役ス可ラス後來ノ主君ハ公會ニ謀ラスシテ國ヲ離ルヘカラス他邦ノ人ハ王ヨリ官職土地ヲ得ルコトヲ許サス又公會中ノ議員タルコトヲ許サス官ニ處リ其他王ノ俸養ヲ受クル者ハ下院ノ議員タルコトヲ得ス諸刑法ノ官吏ハ王妄ニ之ヲ黜罰スルコトヲ得ス以テ斷獄ノ者ヲシテ法ヲ曲ケ王ニ諛ル弊ナカラシム諸種ノ罪犯下院ヨリ之ヲ訴フル時ハ王之ヲ回護スルコトヲ得スト其後官吏下院ノ議員タル一條ハ稍〻嚴ニ過クルヲ以テ千七百六年之ヲ廢シ改メテ下院中ノ一員タル者若シ王ヨリ官ヲ受クル時ハ一旦院中ヲ退キ他員ノ評定ヲ待テ再加入スヘシトノ文テ加フ其他君主國ヲ離ルヽ條モ亦ゼオルジ第一世ノ時ニ廢セラレ餘ハ今ニ至ル迄皆法制ト爲レリ英政沿革記ニ詳也○是歲九月十六日故王ゼームス佛國ニ死ス時ニ年六十五英王ノ位ニ在ルコト四年位ヲ逐ハレテヨリ凡ソ十三年ナリ○ゼームス死ニ臨テ佛王其病ヲ訪ヒ之ニ告ケテ曰ク子ノ死後余必子ノ子孫ヲ樂テシトゼームス死シテ後遂ニ其子ヲ立テゼームス第三世ト稱シ且ツ國內ニ令シテ奉スルニ英王ノ禮ヲ以テセシム英人之ヲ聞テ怒ルコト甚シ初メ千六百九十八年ノ公會以來王常ニ議院ト協ハス西班牙分地ノ條約殊ニ國人ノ情ニ反戾ス之ヲ以テ歐洲諸國

三既ニ兵端ヲ開クト雖王ハ唯少許ノ兵ヲフランドルスニ出スノミニテ
五其事ニ與ルコトヲ得ス然ルニ佛王ゼームスヲ擁立スル報至ルニ及テ
二國論俄ニ一變シ是歳十二月議院聚會スルニ當テ二院翕然トシテ議シ
テ曰ク佛王過ヲ謝シ辱ヲ償フニ非レハ誓テ兵ヲ息メシト是ニ於テ直
チニ水陸軍士ヲ全備シ軍資六十萬ポンドヲ王ニ納レテ佛國ノ罪ヲ問
ハシム○千七百二年二月王ケンチントンヨリハンプトンノ離宮ニ至
ル途中馬ヨリ墜チテ胸ヲ傷リ三月八日瘠痍ノ爲ニ遂ニ死ス時年五十
二在位十三年ナリ子ナシ繼統ノ律ニ從ヒ嗣馬ノ后アンヲ以テ位ヲ繼
カシム○王在位ノ間內外ノ戰爭多事ニシテ國用給セス其晩年ニ至テ
貴族或ハ王農ヨリ政府ニ假借スル所ノ金千七百餘萬ポンドニ至ル是
ヨリ先キ歷代ノ間大事故アルニ臨テ君主臣民ノ金ヲ借ルコト間〻多シト
雖皆君主ノ私債ニシテ償還ノ期ヲ立ツルコト尋常ノ貸借ニ異ナラス

王ノ世ニ及テ政府ノ費用始メテ公私ヲ分チシヨリ其負フ所皆國ノ公
債トシテ國債ノ名始メテ起リ是ヨリ數年ノ後次第ニ增加シテ方今ハ
殆ト七億五千万ノ多キニ至レリ方今ノ制金ヲ政府ニ貸ス者ハ半年ニ其利子ヲ收ム其母金償還ノ期ナシト
雖財主若シ金ヲ得ンコトヲ欲セハ證券ヲ他人ニ賣與スルコトヲ得タリ故ニ財主ニ在テハ金ヲ銀行ニ托スル
ト其理一般ニシテ利子ノ期ヲ徳クサルニ至テハ更ニ便ナリ然レトモ近來數年間ハ國債ノ利銀及其經費ヲ合シテ大凡年々二千八九百萬ポンドニ下ラス此金ハ賦斂ヲ厚クシテ之ヲ民ニ取ラサルコトヲ得ス故ニ近世ノ政事家意ヲ悉シテ國債消除ノ法ヲ設クレトモ隨テ減スレハ隨テ增シ其數年ヲ逐テ益累積セリ

○方今內閣ノ制モ亦是王ノ世ニ創レリ古昔封建ノ制行レシ時ヨリ議院ノ外ニ樞密院（カビネット）ト名クル者アリ其員ハ貴族高僧ノ類ヲ以テ之ニ充テ大事アル時ハ王之ヲ會シテ顧問ニ備ヘシカ（プリヤーカウンシル）チャールス第一世ノ時又別ニ一局ヲ開テ機事ヲ議スル所トシ王ノ世ニ及テ其制始メテ備レリ方今內閣ノ員タル者ハ諸省ノ長官及其他（チャンセロル）前卷中往々相國ト譯セル者是ナリ然レトモ中世以降ハ等數名ノ大臣ニシテ王ノ政事ヲ補佐ス樞密院其職掌漸ク異ニナレリ

三モ亦匡輔ノ一院ニシテ現今ハ其數二百員ニ超ユレトモ之ヲ會スルコ
四五ト漸ク少レナリ○俄羅斯帝ペーール第一世ハ此王ト同時ナリ其諸國
周遊中暫ク英ノ造船廠ニ寄寓シ船艦製作ノ事ヲ習練セリ
〔アン〕王ハゼームス第一世ノ第二女ニシテ嗹馬ノ王ゼオルジニ嫁セシ
カ先王子ナキヲ以テ後嗣トナリ千七百二年三月八日王死シテ即日位
ニ昇リ四月二十三日即位ノ禮ヲ行フ王ハ材質凡庸ニシテ人ノ爲ニ制
セラレ易ク其嗹馬ノ后タリシ時ヨリ厚クマルボローノ侯夫妻ニ交リ
シカ位ニ即テ後亦深ク其妃ヲ寵シ常ニ二人ノ制ヲ受ク○王亦先王ノ
遺志ヲ繼テ大ニ兵ヲ大洲ニ用ヰントス時ニ日爾曼和蘭ノ二國佛王ニ
敵シテ佛國西班牙及バハリヤノ兵ト戰ヒ日爾曼フランドルス等首ト
シテ戰地ト爲リシカハ是歲七月王マルボローノ侯ヲフランドルスニ
遣リ之ニ加ラシム時ニマルボローノ雄畧諸軍ニ冠タリマルボロー三
國ノ兵ニ將トシテ是歲ベンローリュレモンデ及リージノ三邑ヲ陷ル○
是歲英將ルーク英蘭二國ノ軍艦ニ將トシテ西班牙ノ貨船ヲビゴ西班牙
ニ襲ヒ其六艘ヲ奪ヒ七艘ヲ沈メ九艘ヲ燒焚ス其八月ベンボウト云フ
者西印度ノ軍艦ニ將トシテ佛軍ト戰テ利アラス其七艘ノ中五艘ヲ失
ヒベンボウ亦創ヲ被テ死ス○千七百三年五月マルボロー又ボーンヲ
圍テ之ヲ取リ是ヨリヒューイリンベルグ等ノ數城ヲ連下ス其他春ヨリ
冬ニ至ルマテ海陸屢〻戰アリト雖大事ノ記ス可キ者ナシ○千七百四年
日帝レオポルド佛軍ノ爲ニ迫ラレ加フルニホンガリア人ノ亂ヲ起ス
ニ會テ頻ニ英國ノ援ヲ求ム因テ是歲首夏マルボローライン河ヲ渡テ
三五ダニューブ河畔ニ至リウヰンテルステルレンニ日爾曼ノ軍ト合シテ七月
二日敵ノ一城ヲ攻陷シ敵將バハリア部長ノ北クルヲ逐テ又オーグス
五五ボルクニ向フ是ヨリ先佛ノ大將タルラルドト云フ者日將ユーゼント

三五六

タニュフノ上流ニ對陣セシカタルラルド其軍ヲ拔テ下流ニ赴キケレハ
ユーゼンモ亦其後ニ蹈シテ下流ニ赴キ是ニ至テ各下流ノ軍ト合シタ
リ時ニ兩軍各〻六萬許人敵軍ブレンヘームノ村落ヲ前ニシ高處ニ陣ヲ
布キ茂林沼澤ヲ左右ニ控ヘテ頗要害ヲ得タリ然レトモタルラルド誤
テブレンヘームヲ要衝ノ爭地トシ銳ヲ悉シテ之ヲ守リシニヨリテ中
軍甚タ空虛トナリ八月十三日戰稍久シクシテマルボローノ侯遂ニ高處
ヲ奪ヒテ陣ヲ移シケレハ敵軍中斷シテ相應援スルコトヲ得スバハリア
ノ部長先ツ左軍ヲ率ヰテ退走シケレハブレンヘームノ全軍一萬二千皆
降ヲ乞ヒタルラルドモ亦虜ニ就キタリ此役佛軍死スル者一萬二千人
創ヲ被リ及河中ニ溺ルヽ者數ヲ知ラス戰後バハリアノ部長國ヲ棄テ
ヽ涅泥蘭ニ逃走シテ日爾曼地中全ク佛軍ナシ○是歲英將ルーク軍艦
ヲ以テ日爾曼ノチャールスヲ葡萄牙ニ護送シ其歸途七月二十二日ジブ

ラルタルヲ襲テ之ヲ陷沒スジブラルタルハ西班牙南岸ノ一堅城ニシ
テ地中海ノ口ヲ搤シ四面峻絕海面ヲ拔クコト百六十丈其海峽モ亦ジ
ブラルタルト名ケ其濶サ僅ニ數里ニ過キス地中海中ノ一大要地タリ
是ヨリ先キ西人常ニ兵ヲ置テ之ヲ守リシカルーク警兵ノ怠ルヲ見テ急
ニ襲テ之ヲ攻取ス是歲秋佛軍西人ト共ニ來テ之ヲ環攻セシカ終ニ回
復スルコト能ハス是ヨリ永ク英ノ所有タリ○千七百五年ペートルボ
ローノ侯其陸軍ヲ率ヰグローデスレーノ軍艦之ヲ載セテカタロニア
西班牙ノ海岸ニ至リ連ニ城砦ヲ攻下シ海岸ノ數州ヲ奪フ然レトモ和蘭
ニ於テハ國人マルボローニ請テ專ラ國界ヲ防守ス之ヲ以テ侯自ラ遠方ヲ
征スルコトヲ得ス其他以多利日爾曼等ノ戰事是年ノ間概シテ皆佛ニ
利アリ○千七百六年ノ間マルボロー又和蘭ノ堰上ヲ守テ廣ク兵ヲ用
三五七ヰス三月二十三日佛將ビルレロイトナルモントノ近傍ラミルリー

スニ戰テ大ニ勝チ佛軍死傷一萬四千遂ニ勢ニ乘シテブハンド及フランドルス中西班牙ノ屬地ヲ戡定ス○是歲日將ユーゼンモ亦サボーイノ侯ト共ニ大ニ佛軍ヲチュリン利以多ニ破リ又英將ルーク水軍ヲ以テマジョルカ及イビカ并ニ西班牙ノ二島ヲ征服ス○西班牙ニ於テハガルウェーノ侯等英蘇二國ノ兵ヲ以テマドリッドニ進ミヒリップ都ヲ棄テビュルゴスニ遁走セシカ既ニシテガルウェー守衛ニ怠リ又ベルウヰッキノ侯ノ爲ニ都城ヲ回復セラルベルウヰッキハゼームス第二世ノ庶子ニシテ是時佛王ノ軍ニ在テ其一方ノ將トナレリ○王ノ登極以來循舊就新二黨ノ爭論日々ニ劇シク二黨ノ中又支分シテハハノーブル氏繼統ノ議ヲ固執スル者アリ又之ヲ拒テ故王ノ統ヲ復セントスル者アリ殊ニ蘇格蘭ハゼームス第一世ノ時ヨリ英ニ併セ二國一王ヲ奉スト雖尙ホ其國ノ法律アリ其國ノ公會アリテ別ニ自國ヲ成シテ英王ハ唯其位ヲ攝スルニ過キス故ニ繼統ノ律定マリシ時蘇ノ公會ニ於テハスチュアルト氏ハ蘇格蘭古來ノ王統ナルヲ以テ之ト終始ス可キコトヲ論シ大ニ其議案ニ抗セシカ是ニ及テ其論愈劇シク千七百四年其公會中遂ニ一事ヲ定メテ曰ク今王ノ死後蘇格蘭ハ別ニ一王ヲ撰テ再英ト分立セントス是ニ於テ英國上院怒テ英蘇二國ノ通商ヲ絕チ且海軍ニ命シテ蘇國ヨリ佛ニ貿易スル所ノ諸船ヲ抑留ス可キ令ヲ發セシカハ二國相睨シテ物情頗ル穩ナラス王以下當路ノ大臣之ヲ憂慮シテ英蘇ノ公會ヲ合併シ二國一ニ歸セハ庶幾クハ此憂ヲ除カント使ヲ蘇格蘭ニ遣テ之ヲ議セシム時ニ佛王ノ軍屢敗レ蘇國英ノ議ヲ怒ルト雖佛ノ力ヲ借ルニ非レハ故王ノ統ヲ復スルコト能ハス是ヲ以テ千七百七年一月其議遂ニ成リ盟約ヲ立テ、曰ク今ヨリ二國ヲ合シテ一トシ王位ハ永ク「ハノーブル」氏ニ傳ヘ二國一公會ヲ設ケテ蘇ヨリ貴族十六名平民四十五名ヲ撰貢スヘシト

三六〇

是歳五月一日ヲ以テ二國合併ノ日ト定ム是ヨリ英蘇ヲ合稱シテ大不列顛ト名ク○千七百七年同盟ノ軍ミランヲ降シ佛軍以多利ヲ退キケレハ日將ユーゼンサボーイノ侯ト共ニプロベンスノ海岸ヨリ佛ノ境ニ入リグローデスレーノ水軍ト合シテ海陸ドーロンヲ環攻ス然レトモ城中兵食ニ富ミ加フルニ敵軍適來援シケレハ遂ニ圍ヲ棄テヽ退軍セリ時ニ佛王年老イテ兵事ニ倦ミ且佛軍ノ屢挫衂スルヲ以テ頻ニ兵ヲ熄ムルニ意アリ然レトモ佛ノ請フ所愈卑シクシテ同盟諸國ノ求ル所愈驕リ千七百十一年ニ至ル迄其議數次ニシテ皆完成セス此間互ニ勝敗アレトモ今詳記セス千七百八年マルボローオーデナルドニ於テ大ニ佛ノ軍ヲ破リ同九年九月マルプラケットニ於テ又大ニ之ヲ破リ同年十月モンスヲ降シ佛軍振益ハス而シテマルボローノ威名獨リ一世ニ高シ○ゴドルヒント云フ者王ノ即位ノ初ヨリ會計總裁ト爲リマルボローハ軍務ヲ掌リゴドルヒンハ國事ヲ掌リ二人相結テ國命ヲ執リシカマルボローノ名聲朝野ニ振フニ及テ盛名ノ下遂ニ云々ナキコト能ハス千七百四年ノ頃ハルリー及セントジョント云フ者二人始メテ內閣ニ入リマルボロー等ト相軋リハルリー終ニマルボローノ妃ヲ讒シテ王ノ寵ヲ奪ヒシカハマルボロー亦怒テ二人ノ過ヲ訴ヘ其官職ヲ褫フ然レトモ千七百十年ニ至テゴドルヒン又黨人ノ爲ニ中ラレテ其職ヲ去リケレハ朝中ノ大臣隨テ變更シ加フルニ此際循舊黨ノ說盛ニ朝野ニ行ルヽニ因テマルボローハ到處勢ヲ失ヒ是歳和蘭ヨリ歸ルニ及テ王及議院復之ヲ禮セス國人モ亦其功ヲ稱賛スル者ナシ○是ヨリ先キ日帝レオポルド死シテ其長子ジセフ位ヲ繼キ千七百十一年ジョセフ亦死シテ其弟チャールス代テ日爾曼ノ帝タリ然ルニ是ニ至ル迄同盟諸國西

三六一

佛二國ノ合併センコトヲ懼レ力ヲ戮セテ之ヲ拒ミシカ今チャールス日

三六二

帝ノ位ニ昇リ且兼テ西班牙ニ王タラハ其害更ニ甚シカラントテ遠ニ日爾曼ヲ助クルコトヲ欲セス是歳十月遂ニユトレクト和蘭ニ於テ和ヲ結ヒ兵ヲ罷メンコトヲ欲ス英國モ亦之ヲ先見シ且嘗人マルボローヲ陷レントスレトモ辭ナキヲ苦シミケレハ相謀テ其功ヲ沒セント頻ニ和議ヲ主張セシカハマルボロー又歸テ之ヲ爭ヘトモ其議行レス下院却テ其軍中ニ於テ貨ニ瀆ルヽ罪ヲ鳴シ千七百十二年一月遂ニ其官職ヲ褫ヒ兵權ヲ解ス是ヨリマルボロー怏々トシテ樂マス其妃ト共ニ和蘭ニ往テ王ノ死ニ至ル迄アントウェルプニ住セシカ後ゼオルジ第一世ノ初年徵歸セラレテ舊官ニ復シ尋テ千七百二十二年病ヲ以テ死ス侯身ヲ微官ヨリ起ヲ大小數十戰終ニ上將ノ位ニ上ル其フランドルスニ在リシ間數國ノ兵ヲ併セ統ヘテ諸將見ヲ異ニシ議論紛起スト雖卓然トシテ群議ニ惑ハス良規ヲ授ケテ勝ヲ得セシム然レトモ其性貪婪コシテ貨財ヲ好ミ且畢生ノ間反覆常ナク初ゼームスニ反テウヰルレム事ヘウヰルレム位ニ昇ルニ及テ又アンニ結テゼームスニ通セシカアンノ即位後尙營々トシテ故王ノ統ヲ復センコトヲ謀レリ○マルボローノ侯罷ラレテ後オルモンドノ侯某代テフランドルスノ軍ヲ領シ密ニ王ノ命ヲ受ケテ兵ヲ勒シテ戰ハス既ニシテ又其營ヲ移シ同盟軍ト相分レシカハ兵氣沮撓シ千七百十三年四月ユトレクトノ和議遂ニ成リヒリップ西班牙本地及其殖民地ヲ取リ日帝チャールスミランヲ以テプルス及涅泥蘭ヲ取テ諸國兵ヲ罷ム其約中佛王英國繼統ノ議ヲ許シテ故王ノ子ヲ逐ハンコトヲ約シ且英國ジブラルタルミノルカ幷ニ西班牙ノバスコッチアセント、キリストーヘル幷ニ亞ノ地名佛ニ屬ス等ノ新地ヲ得タリ○千七百十四年八月一日王死ス年五十在位十三年ナリ其間外國ノ戰虛歳ナシト雖國內淸肅ニシテ反逆謀叛等ノ事ナシ且王優柔ナリト雖國民ノ

三六三

三六四 爲ニ愛セラレテ善王アンノ名アリ是ヨリ前數月ハノーブルノソヒア既ニ老イテ死セルヲ以テ其子ゼオルジヲ位ヲ繼カシム

ハノーブル記甲

〔ゼオルジ第一世〕王ノ系ハゼームス第一世ニ出ツゼームスノ女エリサベッスラインノ部長フレデリッキニ嫁シテソヒアヲ生ミソヒアハノーブルノ部長オーゴスチュスニ嫁セリ即王ノ母ナリ王ノ父オーゴスチュス嘗テブリュンスウヰッキ、リュヲボルクノ侯タリ故ニ又王ノ家ヲ名ツケテブリュンスウヰッキト稱ス王立テ英王タル時年五十五歳ゼルノソヒヤヲ娶テ一男一女アリ○ユトレクトノ和議ハ固ヨリ全國輿論ノ歸スル所ニシテ其事ハ實ニ善シト雖其意原ト黨人ノ偏私ニ出テ連年戰爭ノ間英國最モ功アレトモ其得ル所僅ニ數地ニ過キス是ヲ以テ當時既ニ物議アリシカ王位ニ昇テ大臣黜陟セラレテ就新黨ノ人要路ニ當リシカハ千七百十五年公會ヲ開クニ及テ大臣下院中ニ建議シテ其事ヲ推究シ是ニ由テ罪ヲ得タル者オキスホルドボーリンブロック及オルモンド等數人アリ其中オキスホルドハ捕ヘラレテ獄ニ下リ他ノ二人ハ他國ニ出奔シボーリンブロックハロルレインニ至テゼームスニ隨フ○英佛ノ和議成リシ以來ゼームス佛ヲ去テロルレインニ在リ千七百十五年ジャコビット黨人又之ヲ迎ヘテ英ニ入レントノ謀リマルノ侯ハ蘇格蘭ニ起リホストルト云フ者ハ英ノ北部ニ起テ凶徒ヲ嘯聚ス然レトモ二人共ニ怯弱ニシテ兵ヲ知ラス十一月十三日ホストルハ官兵ノ將カルペントルニ降リ是日マルモ亦アルジールノ侯ニ破ラル尋テゼームス自蘇格蘭ニ上陸セシカ大事既ニ去ルヲ以テ翌年二月又佛ニ遁レシカ時ニ佛王ルイス第十四世既ニ死シテ曾孫ルイス第十五世位ヲ繼キ其尚幼ナルヲ以テオ

三六五 ルリーンスノ侯某政ヲ攝ス侯スチュアルー氏ヲ援クルニ意アラス其後

三六六

新ニ英ト盟ヲ結ヒ好ヲ修シケレハゼームス又佛ニ在ルコトヲ得ス去テ羅馬ニ住ス是ヨリスチュアルト氏ノ勢益〻衰フ○千七百十六年又議員改撰ノ期ヲ改メテ七年トス時ニゼームスノ亂後物情未タ定ラス政府ジャコビット黨人ノ其間ニ乘シテ撰ヲ得ンコトヲ懼レテ其期ヲ緩クセシナリ凡ソ政府ニ於テ公會ヲ設ケサレハ政事粃弊多ク君王因テ自擅ヲ得ルカ故ニ議員代任ノ期ハ短促ヲ善トシテ修綏ヲ善トセス七年一期ノ法ハ稍綏ニ過クルヲ以テ後來屢〻舊ニ復セント謀ル者アリト雖其議今ニ至ル迄行ハレス然レトモ方今ノ制議院ヲ開ク毎ニ下議唯一年ノ度支ヲ納ルヽカ故ニ翌年ニ至テ王又之ヲ開カサルコトヲ得ス其實ハ年々議員ヲ改撰スルト同義ニシテ永ク公會閉鎖ノ憂ナシ近來ハ歳首半年ノ間會ヲ設クルヲ通例トス○是歳瑞典王嗹馬トブレメン及ベルテンノ兩地ヲ爭ヒ嗹馬王其保ツ可カラサルヲ測リ之ヲ英ニ讓テ其ニ瑞典ニ敵セント請フ是ニ於テ是歳秋王兵船一隊ヲ裝テバルチッキ海ニ發遣シケレハ瑞典王チャールス之ヲ怨ミ陰ニジャコビット黨ヲ嗾シテ英國ヲ援ラントス然レトモ英國早ク之ヲ覺リ瑞國公使ヲ執ヘテ之ヲ逐ヒシニ因テ幸ニシテ事ナキコトヲ得タリ此間頗ル猜疑ニ涉ル者アリ愛倫ノ都督タウンセンド官ヲ罷メラレ其他內閣中ノ大臣亦多ク職ヲ去リスタンホープト云フ者代テ會計總裁トタリ是ヨリ首トメ國事ヲ領ス○千七百十八年西班牙王ヒリップ再兵ヲ起シテ西西里ヲ脅シ其相アルベロニート云フ者瑞典及俄羅斯ト結テ又陰ニスチュアルト氏ヲ助ク是ニ於テスタンホープ巴勒ニ往テ佛日蘭ト連盟シ八月十一日英ノ水師提督バイン西ノ水軍ヲバッサロ海角ニ破テ其彈藥貨物ヲ奪フ○千七百十九年西人セームスヲマドリットニ迎ヘ大ニ戰艦ヲ發シテ英ニ入レント擬

三六七

セシカ其船ビスケー灣ニ至テ颶風ニ遭ヒ飄蕩覆沒殆ト孑遺ナシ既ニシ

三六八 テ西相アルベロニー罷ラレ瑞典王チャールス亦病ヲ以テ死セシカハ千七百二十年春諸國成ヲ行ヒ兵ヲ罷ム○千七百二十一年スタンポープ死シワルポールト云フ者代テ事ヲ用サルワルポールハ賢能ニシテ無事ヲ好ミ勉メテ貿易ヲ興シ隣交ヲ修セリ是ヲ以テ王ノ晩年ノ間內外甚無事ナリ○千七百二十七年王ハノーブルニ至リ途ヨリ病ヲ得テ六月十一日オスナブリュック(ハノーブル)ニ至テ獨中ニ死ス時ニ年六十八在位十三年ナリ王容貌醜惡又文學ヲ好マス其英ニ來テ後國語ニ通セサルヲ以テ大臣ト言語スルニ往々羅甸語ヲ以テスト云フ又家內親睦ナラス長子ゼオルシト愛アリ又后ト協ハス英ニ入ル前ヨリ后ヲ執ヘテアルデン城(ハノーブル)ニ禁錮シ前後殆ト四十年王死スル前數月遂ニ獄中ニ死ス相傳フ后死ニ臨ミ書ヲ王ニ寄セテ曰ク今ヨリ一年ノ內子ヲ上帝ノ廳ニ呼テ共ニ曲直ヲ決セント王ハノーブルニ至ル途中ニ於テ其書ヲ得テ驚悸シ因テ病ヲ成シテ死スト云フ

(ゼオルシ第二世)六月十四日先王ノ赴音倫敦ニ至リ翌日王、位ニ昇ルワルポール政ヲ執ルコト故ノ如シ王ハ先王ノ長子ニシテ時ニ年四十五歲アンスバックノカロリンヲ娶テ二男四女アリ王ハ容貌端嚴ナリト雖氣局其父ニ及ハス后カロリン才略アリテ能ク其夫ヲ制シ加フルニ王ハノーブルヲ愛シ多ク英ニ在ラサルヲ以テ政權皆后ノ手ニ在リ○千七百三十七年十一月后カロリン死ス后賢明ニシテ且容儀アリ自才力ニ任スルヲ以テ牝鷄ノ識アルコトヲ免レスト雖王ヲ輔ケ政ヲ爲シテ其功居多ナリ初王、位ニ昇テワルポールヲ罷メントセシ時后其才能ヲ知リ王ニ勸メテ復之ヲ用サシメシカ后死シテ後ワルポールノ言多ク用サラレス是ヨリ外交漸ク多事ナリ○千七百三十九年英國西班牙ト

三六九 西洲ノ貿易ヲ爭テ兵ヲ搆ヘ千七百四十年英ノ水師提督ベルロ港(亞ノ地名)

西属スコヲ攻メテ之ヲ取リ翌年又カルサシナヲ攻テ英軍敗走ス千七百四十年アンソント云フ者數艘ノ船ヲ率ヰテ西ノ商舶ヲ海上ニ劫カシヽカ又大ニ獲ルコトナシ初西班牙ノ事起リシトキワルポール獨リ戰ヲ好マサレトモ意ヲ曲ケテ衆議ニ從ヒシカ戰事意ノ如クナラサルニ至テ國人往々其無能ヲ責ル者アリ下院中ノ一員ウヰルレム、ピットト云フ者首トシテ其政ヲ譏リ千七百四十一年ノ公會ニ至テワルポールノ議論益〻行ハレス千七百四十二年ワルポール遂ニ官ヲ辭ス○千七百四十年日爾曼チャールス第六世死シテ其女マリア、ゼレサバハリアノ部長チャールスト墺地利ノ位ヲ爭ヒ佛國チャールスヲ援ケテビーンヲニ攻入セシカハマリアホンガリーニ遁走シテ英國ノ援ヲ請フ是ニ於テ千七百四十二年英國ステイルノ侯某ヲ一萬六千ノ兵ニ將トシテ大洲ニ遣リ和蘭ト策應シテマリアヲ位ニ復セントス○千七百四十三年王其次子コンベルランドノ侯ト共ニハノーブルニ往キ尋テアスカヘンボルグニ至テステイルノ軍ヲ統フアスカヘンボルグハマイン河畔ノ邑名ナリ時ニ英軍山河間ノ狹地ニ陣シテ糧道四塞シ佛將ノアイルレス大軍ヲ以テマイン川ノ前岸ニ在リ六月二十七日王一旦ハノーニ退カントシ軍ヲ分ケテ二隊ト爲シ自後軍ヲ領シテアスカヘンボルグヲ發セシカハ佛將又兵ヲ分ケテデッチンゼンニ據テ以テ前路ヲ絶チタリ然レトモ敵將衆ヲ恃テ輕進シ險ヲ離レテ英軍ヲ襲ヒシカハ英軍劇戰シテ遂ニ大勝ヲ獲佛軍死傷六千人英軍ノ死傷ハ其半ニ及ハス遂ニハノーニ達スルコトヲ得タリ○デッチンゼンノ役王コンベルランドノ侯ト共ニ自陣頭ニ進テ奪戰指揮シ頗ル勇名ヲ得タリト雖其ハノーブルヲ偏愛スルヲ以テ國人王ヲ悅ハス時ニゼームス羅馬ニ在テ年既ニ老イ其子チャールス、エドワルド狀貌魁偉ニシテ大志アリ英國ノ人心乖離シ戰事暇ナキニ

三七二

乘シテ又恢復ヲ謀ラントシ千七百四十四年二月大ニ佛ノ兵艦軍士ヲ借テドンキルクヨリ發セシカドンゼヲスノ海面ニ至テ颶風ノ爲ニ艦ヲ破ラレテ皆英ノ地ニ達スルコトヲ得スシテチャールス又巴勒ニ歸住ス是ヨリ佛人復ダ大ニスチュアルド氏ヲ助ケス○千七百四十五年五月佛軍七萬六千ホンテノーイノ近傍ニ陣スコンベルランドノ侯英國和蘭ハノーブルノ兵五萬ヲ合シテ之ヲ襲フコンベルランド敵ノ二隊ヲ破テ直ニ佛王ノ麾下ヲ擣キシカ適ヒ和蘭ノ軍俄ニ潰走セシニ因テ餘軍全キコトヲ得ス同盟ノ軍死スル者九千人英人兵ヲ收メテアスニ退キ佛軍隨テトールノーイゲントブリュゼス等ノ數邑ヲ陷ル○チャールス、エドワルド巴勒ニ歸テ後佛ノ援ヲ失フト雖未ダ英ニ入ル念ヲ絶タス千七百四十五年冠飾寶器ヲ典シテ僅ニ軍器ヲ辨シ又佛王ニ說テ其戰艦二艘ヲ借リ七月愛倫ヲ廻リ蘇格蘭ノ西北ニ向テ航セシカ其途中英國哨船ノ爲ニ追レテ其一艘ヲ失ヒ十六日纔ニ七人ヲ從ヘテロカベルニ上陸ス然レトモチャールス意氣撓マス北部ノ大族カメロント云フ者ノ來歸スルニ會テ數百人ノ兵ヲ得九月三日進テペルスニ至リ此地ニ止マルコト數日又馳セテエジンボローニ至リ十七日遂ニ都府ニ入テ其父ヲ冊立シゼームス第八世ト稱ス時ニ王ハ太子コンベルランドト共ニハノーブルニ至リ軍士多ク之ニ從行シテ甚ダ內國ノ備ニ乏シク蘇格蘭ノ鎭兵僅ニ三千人ニ滿タス留守ノ大臣警ヲ聞テ大ニ驚キ使ヲ走セテ王ヲ迎ヘ又所在ニ令シテ兵ヲ募ルト雖事皆急ニ辨スルコト能ハス是月二十一日鎭兵ノ將コップ其兵ヲ率ヰテ都府ニ迫リシカチャールス邑外ニ出テ、之ヲ逆ヘブレストンニ戰テ大ニ其兵ヲ破リタリ是ニ於テチャールスノ兵二千五百且コップノ大砲彈藥ヲ奪テ遽ニ武器ニ富ミ加フルニ

三七三

佛國大兵ヲ發シテ來援セントシカハチャールス遂ニ兵ヲ引テ南向

三七四

シ直ニ倫敦ヲ擣カントス或人其輕進災ヲ取ルヲ諫メ持重シテ得ル所ノ地ヲ守ラント請ヒシカチャールス之ヲ聽カスシテ曰ク今日ノ勢全土ヲ得ルニ非スハ必全土ヲ失ハント十一月遂ニ進テ英境ニ入リコンベルランドヲ經テマンデュストルニ出テ十二月四日デルベーニ至テ軍ヲ駐ムル時ニ王既ニ變ヲ聞テ馳セ歸リ諸方募ニ應スル兵隊ニューケッスル及ビンチレー等ニ屯スル者數萬ニ及フト雖チャールス巧ニ其鋒ヲ避クルヲ以テ皆之ト會戰スルコトヲ得ス是ヨリ倫敦ニ至ル迄纔ニ四日程ナリ倫敦震駭シ都人亂ヲ避ケテ負擔奔走シ滿都騷然タリ然レトモチャールス ノ軍深ク敵境ニ入テ人々危懼ヲ懷キ期ニ及ヘトモ佛人亦來援セス且ツ諸酋長頻ニ歸ヲ思テ退軍ヲ促カシケレハチャールス已ムコトヲ得スシテ軍ヲ旋シペンリッスニ至ル比コンベルランド追躡シ來リケレハ反戰シテ其兵ヲ破リ千七百四十六年一月スチルリングニ至テ其城ヲ圍ミ又其援兵ヲ破リシカ遂ニ城ヲ拔クコト能ハス尋テインベルチスニ退キ諸酋長春初雪消スルヲ待テ再ヒ來會セント約シテ各〻其鄉里ニ散歸ス○千七百四十六年四月八日コンベルランドノ侯兵ヲ率ヰテアベルジーンヨリ發シテインベルチスヲ攻メントス時ニチャールスノ軍未タ集ラスチャールス先ツ發シテ之ヲ掩擊セント夜ヲ犯シテインベルチスヲ發セシカ途上沮洳卑濕ニシテ行軍濡滯シ未タコンベルランドノ軍ニ達セスシテ夜既ニ明ケタリ是ニ於テチャールス軍ヲキュルローデンニ駐メ敵ヲ待テ戰ヲ始ムヽ斯テ両軍既ニ交ハルヲ及テチャールスノ將モルレー先ツ進テ敵ノ一軍ヲ擣破シ轉シテ第二陣ニ逼リシカ二陣其隊ヲ編シテ三列トシ一列跪坐シ前後遞發セシカハ彈丸雨集シモルレーノ兵死傷三七五數ヲ知ラスチャールスノ軍遂ニ大ニ敗レチャールス獨リ軍ヲ棄テヽ山中ニ逃匿ス其後チャールス飢寒困踣スルコト殆ト五月其間或ハ山洞ニ蟄居シ

獸ヲ捕テ餌ニ充テシコトアリ後九月ニ至リ遂ニ一船ヲ得テ又佛ニ遁ル是ヨリチャールス遊蕩ヲ事トシテ喜怒測ラレス世人ニ棄捐セラレテ千七百八十八年遂ニ羅馬ニ死ス是ヨリ先キ其父ゼームス既ニ老病ヲ以テ死シチャールス一弟アリシカ後ゼオルジ第三世ノ俸養ヲ受ケ羅馬ニ住シテ身ヲ終フゼームス第一世ノ位ヲ逐ハレテヨリ凡ソ百餘年ニシテスチュアルト氏ノ系統盡キタリ○千七百四十六年及七年ノ間大洲ノ戰爭互ニ勝敗アリ千七百四十七年英ノ海軍大將アンソン佛人ト戰テ之ニ勝チ尋テハウク又佛人ヲ海上ニ破リ千七百四十八年十月交戰ノ諸國遂ニアイクス、ラ、シャペルニ會シテ和ヲ結ヒマリアヲ墺地利ノ帝位ニ復ス○千七百五十二年英國曆ヲ改メ九月中十一日ヲ除キ其三日ヲ以テ九月十四日トス是ヨリ先キ歐洲諸國用ヰル所ノ曆ハジュリアン曆ト名ケ羅馬ノ頃ジュリュース、シーザルノ算定セル所ニシテ三百六十五日ヲ一



周歲トシテ四年ニ一タヒ閏ヲ設ク然レトモ其推步未精覈ナラスシテ日行、曆ニ先ツコト一閏コトニ凡ソ四十四分其差千百年間ニ至リ積テ十日ヲ成ス故ニ千八百八十二年羅馬法王グレゴリート云フ者其謬ヲ正シ新曆ヲ造テ頒行セシカ諸國次第ニ其法ヲ採用シ名ツケテグレゴリヤン曆ト云フ是歲英國亦之ニ從テ曆ヲ作リグレゴリーノ時以來又一日ヲ差スルヲ以テ十一日ヲ除去シ國內ニ頒行シテ之ヲ遵用セシム又英國ノ習俗古來マーチ今時ノ第三月二十五日春分ノ節ヲ以テ歲首トセシカ是歲又之ヲ改メジョニュアリー今時ノ第一月ノ一日ヲ以テ歲首トス地球太陽ヲ周百六十五日五時四十九分ニシテ其奇數四年ヲ積テ未タ一日ニ滿タサルハ凡ソ三百六十五日四十四分此差百年ニシテ殆ト一日ナリ故ニ方今ハ百年コトニ一閏ヲ缺クモ尙少差アリテ未日行ニ合セス故ニ又四百年コトニ一タビ閏ヲ置キ凡ソ二千年コトニ一タビ閏ヲ缺クナリ舊曆ノ推步ハ未此ニ及ハス故ニ十一日ノ差ヲ生セリ方今ハ其差又增シテ十二日ト爲レリ歐洲諸國中俄羅斯ノミ未新曆ヲ用ヰス故ニ毎年他國ノ一月十三日ヲ以テ其一月一日トス又英國昔時春分ヲ以テ歲首トスレトモ其月名日數ハ今ト異ナルコトナシ故ニ其新年ハジョニュアリーノ一日ニ

三七八

在ラスシテマーチノ二十五日ニ在リ○時ニ亞墨利加洲中英ノ屬地佛國所屬ト境ヲ接シテ爭ヲ生スルコト數ナリ千七百五十五年佛人英地ノ後ニ沿テ連砦ヲ築キカナダ及ルイジアナノ二州ヲ合セント謀リ又屢土人ヲ嗾シテ其境上ヲ擾リ英國之ヲ爭ヘトモ聽カス是歲佛人船ヲ裝テセント、ロウレンス河ニ遣ラントシ其船ブレスト港ニ碇泊セシカハ英人襲テ其二艘ヲ奪ヒ遂ニ令ヲ下シ佛船ノキリール及オルテガル兩海角間ニ在ル者ハ悉ク奪テ之ヲ毀焚セシム是ニ於テ佛國怒テ大ニ戰備ヲ修シミノルカ島ヲ奪テ之ニ報セントス時ニ英國ニューケッスルト云フ者主トシテ事ヲ用ヰシカ闇愚ニシテ之ニ備ヘス千七百五十六年四月佛ノ軍艦陸兵一萬六千ヲ載セマホン港ニ至テヒリップ城ヲ改ムニューケッスル始メテ急ニバイント云フ者ニ戰艦十艘ヲ附シテ其救ニ遣リシカバイヲ既ニ至テ敢ヘテ戰ハス既ニシテ其軍ヲ率ヰジブラルタルニ歸リシカハヒリップ孤立シ六月二十七日城陷リ守將軍ヲ撤シテジブラルタルニ退入ス是ニ於テ國人バインヲ怯ナリト謂ヒ後軍法ヲ以テ糺彈シ觀望救ハサルニ坐シテ之ヲ砲殺ス○ヒリップノ役國人又頻ニニューケッスルヲ咎ム王乃之ヲ罷メウヰルレム、ピットヲ舉ケテ之ニ代ヘシカ既ニシテ王又ピットヲ罷メテ再ニューケッスルヲ抽用ス然レトモ國予ピットノ能ヲ慕テニューケッスルニ服セス是ニ於テ王ニューケッスルヲ以テ會計總裁トシピットヲ國事總裁トシ幷ニ之ヲ任用ス然レトモ是ヨリピット主トシテ事ヲ用ヰ大ニ能名アリ○アイクス、ラ、シャペルノ條約各國ノ疆域故ノ如クニシテ孛漏生獨リシレシヤヲ得是ヲ以テ日帝マリア心ニ甘セス千七百五十六年密ニ俄羅斯、佛蘭西、瑞典及波蘭ト連盟シテシレシヤヲ奪還シ且孛國ヲ割テ之ヲ分取セントス然ルニ孛王フレデリッキ第二世其議ヲ洩レ聞キ先ヲ發シテサクソンニニ入テ諸方ヲ攻略ス時ニ英國佛ト兵ヲ搆ヘ

三七九

且ツフレデリッキハ英王ニ於テ甥タリ故ニ此亂英國獨リ孛漏生ニ與シ千七
三八
○百五十七年王コンベルランドノ侯ヲ遣テフレデリッキヲ援ケシム是レ七
年間戰爭ノ始ナリ○是歲ノ間コンベルランドノ侯ハノーブルニ在テ
佛將リセリュートト戰テ屢利ヲ得ス侯ノ軍エルブ河ヲ渡テ退キ遂ニ悉クハ
ノーブルヲ失フ王之ヲ聞テ大ニ怒リ其英ニ歸ルニ及テ復之ヲ禮セス
爰ニ於テ侯亦憤懣シ自兵權ヲ解テ退キ是ヨリ復タ世事ニ關セス後千七
百六十五年ニ至テ死ス○千七百五十八年英ノ水陸軍二万ハウ及アン
ソン等之ニ將トシテチエルブール港名佛ノ攻メテ利アラス八月英將ブラ
イ再攻メテ之ヲ取リ敵ノ大砲百七十門ヲ毀損シ其二十二門ヲ奪フ○
是歲ブリュンスウヰッキノ部長フエルジナンド佛軍ヲライン河西ニ追卻シハ
ノーブルヲ復ス○千七百五十九年七月英ノ海軍大將ローニーハノー
ブルヲ圍テ其邑ヲ焚畧シ同八月エドワルド、ハウクブレストヲ圍ミ二
十一日キベロンノ近傍ニ於テ佛ノ戰艦ト戰テ大ニ之ヲ破リ其四艘ヲ
沈メ二艘ヲ奪フ○是歲フエルジナンド英軍ヲ將ヰベルゼンヲ攻メテ利
アラス其後佛軍トミンデンニ戰テ全勝ヲ獲此役騎兵ノ大將ゼオルジ
其兵ヲ勒シテ觀望シテフエルジナンド三タヒ其進擊ヲ促セトモ命ヲ用
ヰス是ヲ以テ佛軍僅ニ覆滅ヲ免レタリ後ピット怒テ盡クゼオルジノ官職
ヲ褫フ○是歲英國カナダヲ取ラントシピット自攻進ノ策ヲ畫シ軍ヲ分
テ三トシ一ハオンタリオ湖ヲ下テモントリールヲ取リ一ハチャムプラ
イン湖ヨリ進テチコンデラゴヲ取リ一ハウルフト云フ者ヲ將トシテ
兵士八千人セント、ロウレンス河ヲ上リ三軍ケベッキニ於テ相會セント
期ス然レトモ湖上ノ二軍途中ニ逗撓シ七月二十七日ウルフ獨ケベッキ
三八
ニ至テ他ノ軍ヲ待テトモ至ラスケベッキノ邑ハ二方ニ氷ヲ帶テ河岸峭
一立シ後ニアブラハムト名ツクル小山アリテ最モ峻絶躋ル可ラス佛將モ

ントカルム一万人ヲ以テ邑外ニ在リ七月三十一日ウルフ兵ヲ率ヰテ之ヲ攻メシカモントカルム善ク防クヲ以テ破ルコト能ハスウルフ乃計ヲ決シ襲テ之ヲ取ラントス時ニ英軍要所ヲ分守シテ見兵纔ニ三千六百ニ過キス其衆寡ニ危策タリ九月十三日夜ウルフ軍ヲ潛メテ河ヲ遡リ行ク古詩ヲ誦シ慷慨トシテ歌テ曰ク功名ノ路ハ必黄泉ニ指サスト斯テアブラハムノ山下ニ達シウルフ先ツ躍テ岸ニ上リ全軍之ニ隨ヒ羅ヲ攀チ嵓ニ附シテ黎明山頂ニ至リ稍〻坦處ヲ得テ邑ヲ壓シテ陣スモントカルムハ未之ヲ知ラス夜既ニ明ケテ始メテ曉リ倉卒出テ禦テ銃丸ヲ亂發ス然レトモウルフ沈默シテ敵ヲ待チ一丸其腕ニ傷クレトモ尚ホ之ニ應セス敵間既ニ數十歩ニ迫ルニ至テ急ニ令ヲ傳ヘテ全軍齊發シケレハ佛軍稍〻動搖シタリウルフ乃チ高ニ乘シテ馳突シ衆ヲ勵マシ督戰セシカ又連ニ二丸ヲ受ケ遂ニ地ニ倒ル既ニシテ佛軍潰亂ス時ニ從兵



ウルフヲ陣後ニ舁シテ其傷ヲ看護シ一人軍ヲ望ミ見テ曰ク走ル々々トウルフ急ニ問テ曰ク走ル者ハ誰ソヤ其人ノ曰ク佛軍ナリトウルフノ曰ク然ラハ余死シテ瞑ス可シト語畢テ息絶ユ此役モントカルム亦重傷ヲ蒙リ軍醫ヲ呼テ其死ヲ問フ醫師ノ曰ク明朝ヲ待タストモントカルム乃悅テ曰ク余幸ニシテケベッキノ降ヲ見ルニ及ハスト翌日黎明又遂ニ死ス是日邑陷リ佛軍降ヲ請ヒ翌年春ニ至テカナダ盡ク英ニ歸ス後英人二將ノ勇ヲ追慕シ碑ヲ建テ其名ヲ合刻シテ戰死ノ跡ヲ吊スト云フ○千七百六十年十月二十五日王死ス年七十七在位三十四年是ヨリ先キ千七百五十一年長子フレデリッキ既ニ死セルヲ以テ嫡孫ゼオルジヲシテ位ヲ嗣カシム○千五百九十九年倫敦ノ市人始メテ東印度商社ヲ結ヒ東方ニ通商セシヨリ其貿易日ヲ逐テ隆興シ千七百年間ニ至テマドラスボンベー及カルキュッタノ三所最モ富盛ノ地ト爲レリ然レトモ其

三八四 時本國ノ商賈土人ノ地ヲ借リ或ハ之ヲ買ヒ商館ヲ設ケテ交易スルニ過キス千七百五十六年蒙古ノ所屬ベンガルノ部長シュラジャドウラト云フ者カルキュッタヲ襲取シ英人百四十六名ヲ捕ヘテ之ヲ獄ニ下ス然ルニ適〻盛暑ノ候ニ當リ獄内狹窄ニシテ死スル者一夜ニ百二十三人翌朝獄ヲ開テ之ヲ視レハ其生存セル者ハ幾何モナシ是ニ於テ英人憤怒シロベルト、クライブト云フ者ヲ將トシテドウラト戰ヲ起シ、カクライブ智勇ニシテ連戰皆勝ヲ數年ニシテ遂ニ盡ベンガルヲ戡定ス是英ノ印度ヲ屬隸スル濫觴ナリ

今邨亮校

改正英史卷八終

改正英史卷九

正七位大島貞益　纂譯

ハノーブル記乙

〔ゼオルジ第三世〕王ハ先王死シテ即日位ニ即ク時ニ年二十三ハノーブルノ諸王中英ノ土ニ生ルヽ者ハ此王ヲ初トス是ヨリ先二王並ニ他國ヨリ來テ其鄉土ヲ偏愛スルヲ以テ國人ト親マス王登極ノ始メ議院ニ到リ衆中ニ語テ曰ク予此土ニ生長シテ王位ニ昇ルコトヲ得ルハ身ノ光榮ナリト是ヲ以テ國人相告ケテ皆慶喜セリ王才能ノ稱ス可キハナシト雖ピット黨ニ依テ政ヲ執リ黨派斯滅シテ闔國事ナクシャコビット黨人ノ如キ前王ノ間退職セシ者モ此ニ至テ歸リ仕フル者多シ〇千七百六十一年佛國戰ニ倦ミ諸國トオーグスボルグニ於テ和議ヲ講シ又別ニ英國ト使者ヲ往來シテ和ヲ議セシム然レモピットハ必ズミノルカヲ取回サ

三八五

三八六

ソコトヲ欲シテ其議久シク決セスピット乃又兵ヲ出シテ諸方ヲ攻畧シ是歳ベルアイル佛國ヲ取リ又ドミニカ印度ヲ奪フ○是ヨリ先西班牙ノヘルジナンド第六世死シテ其弟チープルスノ王チャールス位ヲ繼キ別ニチャールスノ第三子ヘルジナンドヲ立テヽチープルスノ王トス西王ノ家ハ佛王ノ支族ナリ故ニ是歳八月三家好ヲ結ヒ且西王佛王ト密ニ誓テ英國ノ和議若シ成ラスハ西國佛ヲ援ケテ兵ヲ起シ佛王其報トシテミノルカヲ西ニ還サント約スピット仄ニ之ヲ聞キ我ヨリ事ヲ發シテ西國ヲ伐タント請ヒシカ其議行ハレスピット乃官ヲ罷メ王ピットト云フ者ヲ擢用シテ之ニ代ラシム○千七百六十二年一月西國果シテ兵ヲ起シ西佛二國ノ兵葡萄牙ノ境上ニ逼テ之ヲ脅從セントス然レトモ葡國從ハス使ヲ遣テ英ノ援ヲ求メケレハピットビュルゴイント云フ者ニ若干ノ兵ヲ附シテ之ヲ援ケシム○是時ニ當テ英國ノ征兵到ル處皆利アリ是歳ロドニー及モンクトン等水陸軍ニ將トシテ悉クカリビー諸島及ハヾナ并ニ西印度ヲ征服シビュルゴイン葡萄牙ヲ助ケテ西人ヲ擊チ卻ケ東印度ノ水軍モ亦呂宋及近傍諸島ヲ攻メテ之ヲ奪フ然レトモピットハ固ト戰ヲ主トセス千七百六十三年二月巴勒ニ於テ和議成リ佛國カナダヲ以テ英ニ讓リミノルカヲ以テベルアイルト交換シ其他英國新コドミニカグレナダノハ、スコッチア等ノ數地ヲ得タリ○ピットハ固ト才識庸劣ニシテ特ヒ王ノ寵眷ニ依テ要路ニ當レルモノナリ故ニ國人其政ヲ悅ハス巴勒ノ和約殊ニ國論ニ戻リ且ピット下院ニ在テ隨テ之ヲ謗毀シケレハ是歳王終ニ之ヲ罷メ更ニグレンビールト云フ者ヲ以テ會計總裁トス然レトモグレンビールノ才力亦ピットニ及バス下院ノ議員ウヰルクス等新聞紙ヲ造テ頻ニ之ヲ詆リ輿論洶々タリ○千七百六十五年英國亞墨利加屬地ニ印

三八七

稅ヲ課シ始メテ難ヲ搆フ時ニ英ノ屬地分レテ十三州ト爲リ新ゼルシー

ペンシルバニアデラウェールマリーランドビルジニア南北カロリナゼオルジアマッサチューセッツ新ハンプシールコンチクチキュットロード島其中マッサチューセッツ以下四州ヲ合稱シテ新英倫ト名ツク黑白人口凡ソ二百五十萬諸州大抵共治ノ制ヲ用サテ各〻集議院一所ヲ置キ別ニ王ヨリ一人ノ長官ヲ命シ相議シテ政令ヲ施行ス是ヨリ先本國政府其富殷ナルニ乘ジ七年戰爭ノ間屢〻稅ヲ賦シテ軍費ニ資セントセリ然ルニ初メ英人ノ西州ニ移住スル者多クハ本國ノ暴政ヲ逃ル者ニシテ其艱苦ヲ跋涉シ新地ヲ墾開スル間本國曾テ之ヲ度外ニ置テ恬然トシテ顧ミス故ニ亞人本國ヲ恩戴スル意薄シ加フルニ英國ノ古法代員ヲ徵サスシテハ其地ニ稅ヲ課スルコトヲ得ス故ニ當時愛倫ノ如キ本國議院ニ代員ヲ貢セサル者ハ別ニ其議院ヲ設ケテ貢稅ノ事ニ至テハ一々之ヲ公議セシム然ニ西洲ノ諸部ハ未タ其法ナシ故ニ是ニ至ル迄亞人屢〻命ニ應セス是歲グレンビール令ヲ下シテ凡ソ金銀土地ノ證券及曆書新聞紙ノ類ニ至ル迄皆政府ノ印紙ヲ用サシメ其品ノ輕重ニ隨テ稅ヲ課スルニ至リケレハ諸州譁然トシテ之ニ抗シ王及本國議院ニ上書シテ曰ク西洲ノ民固ヨリ稅ヲ納レサルニ非ス但王金ヲ得ンコトヲ欲セハ本國ノ例ニ倣テ其事ヲ各州ノ議院ニ下シ其獻納ノ數ハ議院之ヲ定ムルコトヲ得ント然レトモ政府之ニ報セス十一月英船印紙ヲ齎ラシテ亞ノ地ニ至ルニ及テ人々相告ケテ曰ク先ツ之ヲ買フ者ハ罰アラント皆喪服ヲ着シ鐘ヲ撃テ不服ノ意ヲ視メシ甚シキハ旗上ニ蛇ヲ畫キ切テ十三段トシテ其上端ニ連結セサレハ則死ナント書シ群民之ヲ擁シテ街上ニ往來シ或ハ自由ノ字ヲ棺上ニ大書シ墓地ニ舁シ至テ之ヲ葬ル者アルニ至ル既ニシテグレンビール罷ラレテロッキンハムノ侯之ニ代リシカ侯固ヒット交アリピット亞人ヲ聚欽スルハ良策ニ非サルコトヲ說キ翌年春侯ニ勸メテ遂ニ印稅ヲ廢セシム○ロッキンハムノ侯職ニ當テ後久シカラズシテ罷メラレ千七百六

三十六年ピットカザムノ侯ニ封セラレテ又内閣ニ入リ再ヒ首輔タリ然レトモ

九〇病ニ依テ事ヲ視ルコト能ハス是ヨリタウンセントト云フ者主トシテ事ヲ用ヰ千七百六十七年又亞國入港ノ茶葉、玻璃、及紙等ニ課シテ稅ヲ収シム時ニ英國政府云ク本國議院ハ英國ノ大立法院タリ故ニ版圖ノ民ヲ拘束シテ法律ニ循ハシムル權アリト然ルニ亞人之ヲ拒テ曰ク版圖ノ民ト雖代員ヲ貢シ其議ニ加ハル者ハ其制ヲ受ケテ可ナリ否サル者ハ法ヲ以テ之ヲ縛スルコトヲ得可カラスト相告ケテ又茶葉等ノ用ヲ禁シボストンノ民亂ヲ作シケレハ全部益〻洶々タリ后千七百七十年ノルス國ニ當ルニ及テ獨リ茶葉ノミヲ存シテ悉ク他ノ稅ヲ除キシカ亞人ノ訴フル所ハ固ト稅ノ煩簡ニ在ラス一物ト雖尚其稅ヲ存スルトキハ是レ本國未タ稅ヲ賦スル權ヲ去ラサルナリト其沸擾尚ホ舊ノ如シ○亞人茶ノ用ヲ禁シテヨリ英國商人ノ蓄積セル茶葉皆賣ルコトヲ得ス然レトモノルス尚亞港ノ稅ヲ去ルヲ難リ別ニ英國出港ノ稅ヲ鐲テ其害ヲ救ハント千七百七十三年令ヲ下シテ凡ソ亞國ニ輸出スル茶葉ハ特ニ其全稅ヲ除ス初メ亞國ノ稅ハ綫ニ三ペンニーニ過キス故ニ今英國ノ全稅ヲ鐲クニ至テ亞國ノ茶價ハ稅ヲ課セサル前ヨリモ廉ナリ故ニノルス謂ヘラク甚タ計ヲ得タリト然レトモ群商茶ヲ載セ競テ亞港ニ至ルニ及ヒ諸港皆之ヲ陸ニ上ケス賤民ノ輩或ハ云フ船中載スル所ハ皆桎梏鐵鎖ノ類ニシテ其實ハ茶葉ニ非スト十二月十六日夜ボストンノ市人五十餘名土蠻ノ裝ヲ爲シテ潛ニ英船ニ至リ悉ク其茶葉ヲ奪テ海ニ投シタリ是ニ於テノルス大ニ怒リ兵ヲ以テ其驕恣ヲ懲サント前後數隊ノ兵ヲ發シテ亞墨利加ニ遣リシカ兵至ルニ及テ亞人粮食ヲ給セス家屋ヲ授ケス翌三九一年春諸州ノ代員大ニヒラデルヒアニ會シ再ヒ王ニ上書シテ其權利ヲ伸明シ尋テ英亞二國ノ貿易ヲ絶チ諸州往々陰ニ兵仗ヲ購蓄ス是ヨリ先

三九二

千七百六十八年ピット病ヲ以テ罷テレシカ是時再ヒ議院ニ在リ其他ホック
スビュルク等有識ノ士皆云クカヲ以テ人ヲ服スルハ良法ニアラズト論
爭スレトモ王以下皆之ヲ用ヰス英人ハ意氣驕漫ニシテ一意ニ亞人ノ其
君ヲ蔑スルヲ惡ミ亞人ハ英人强ヲ挾テ其下ヲ虐スト謂テ彼此ノ情相
通セス遂ニ亂ニ及ヘリ○千七百七十五年四月ヤッサチューセッツノ州人潛
ニ武器ヲボストンノ近傍ニ蓄フ英將ゲージ之ヲ毀タント輕兵數百ヲ
派出シケレハ土人群起シテ之ヲ拒ミ十九日ゲージノ兵トレキシント
ンニ戰テ其半ヲ殺傷ス是亞國分立ノ初戰ナリ翌月ゲージ敗兵ヲ聚メ
テボストンヲ守ル近傍ノ亞人變ヲ聞テ來聚スル者二万餘人隨テ之ヲ
圍ミケレハ英國クリントンビュルゴインハウ等ノ諸將ヲシテ之ヲ援ケ
シム斯テ六月十六日攻兵ノ將プレスコット夜ニ乘シ邑後ノボンクル山
ニ登テ壘ヲ築キケレハ英人之ヲ驅逐セント昧爽ニ兵ヲ進メテ仰攻ス

時ニ亞人ノ壘壁未成ラサリケレハ乾草ヲ積テ身ヲ掩ヒ且ツ築キ且戰フ
英軍再壘ヲ攻メテ再ヒ退キ死傷スル者算ナシ午後ニ至テ英軍復攻ム亞
人丸盡キ銃ヲ倒マニシテ壁ヲ攀ル者ヲ毆擊セシカ日暮竟ニ支ヘ得ス
英人ニ壁ヲ奪ハル然レトモボストンハ英人ニ在テ甚要地トセス加フル
ニ是月亞人華盛頓ヲ推テ元帥トシボストンニ遣テ益環攻セシカハ翌
年首春ゲージ兵ヲ率ヰテスクーテン嶋ニ退キ翌日華盛頓代テ邑ヲ領
ス○千七百七十六年七月四日亞人國ヲ建テ亞墨利加合衆國ト名ツケ
檄ヲ移シテ其意ヲ諸國ニ告ク其略ニ曰ク天ノ蒼生ヲ生スル固ヨリ上
下ノ別ナシ且ツ天之ニ與フルニ必ス奪フ可カラサル權ヲ以テス政府ハ即
其權ヲ保護スル任ナリ故ニ若之ヲ毀壞シテ民ヲ塗炭ニ陷サントスル
三九三 時ハ之ヲ去テ更ニ其職ニ稱フ者ヲ推戴ス是民ノ權也亦民ノ職ナリ然
ルニ今英王彼ノ奪フ可カラサル權ヲ奪テ此蒼生ヲ奴隷ニセントス所

三九四 謂之ヲ去ル秋至レルナリ故ニ吾曹別ニ國ヲ建テ、亞墨利加合衆國ト稱シ自身家ヲ保スル計ヲ爲セリト是ヨリ先亞人フランキリン等ヲ佛ニ遣テ其援ヲ請フ佛國未之ヲ許サスト雖密ニ彈藥ノ類ヲ借與シ國人亦其意ヲ憐ミ間〻亞ノ地ニ至テ之ヲ助クル者アリ中ニ就テラ、ファエッテト云フ者其魁タリラ、ファエッテハ佛ノ一貴族ニシテ此時十九歳亞墨利加ニ至テ陸軍少將(メジヨル、ヂエネラル)ニ任セラレ分立ノ間屢〻功ヲ立テテ華盛頓ト兄弟ノ如シ

○是歳八月ハウ兵ヲ分ケテロングー島ヲ攻メ九月又ニューヨルクヲ攻ム並ニ亞人戰ハスシテ退走ス是ニ於テハウ其部將コルンワリスニ命シテ亞人ヲ追ハシメ是歳冬遂ニ華盛頓ヲデラウエール河ノ西ニ追卻ス然レトコルンワリスハ敢ヘテ河ヲ渡ラス其東岸ニ沿テ營ヲ下シ冬ヲ過ス計ヲセシカハ十二月廿五日夜華盛頓返襲シテ之ヲトレントンニ破リ又新ゼルシーヲ回復ス○千七百七十七年夏ハウニューヨルクヨリヲエサピーキ河ヲ泝テペンシルバニアニ上陸シ日ヲ刻シテヒラデルヒアヲ襲ハントスヒラデルヒアハ當時既ニ繁華ノ一都會ニシテ戰初ヨリ諸州ノ代員常ニ此ニ會議シ此時又會ヲ開キタリ華盛頓新セルシーノ兵ヲ移シテ急ニ其救ニ赴キ九月十一日ハウノ兵ヲブランチーワインニ要シテ防キシカ英軍上流ヲ渡テ亞人ノ右ヲ襲ヒハウ中軍ヲ以テ其弊ニ乘シケレハ亞軍遂ニ敗走ス是ニ於テヒナデルヒアノ議員兵ヲ避ケテ會ヲランカストルニ移シ是月廿六日ハウヒラデルヒアヲ奪フ○是歳夏ビュルゴインカナダニ在テ一萬餘人ヲ聚メ南方ノ軍ニ合セントハツトソン河ニ傍テ南下シ連リニ城砦ヲ下シテサラトガニ達ス然レトモ八月十五日ペンニントンノ糧ヲ奪ハントスト謀テ利ヲ得ス九月十六日スチルワオートルニ戰テ小勝ヲ得シカ十月七日再スチルワオートルニ戰テ又大ニ敗ラル時ニビュルゴイン孤軍重地ニ陷テ糧餉續カス加フルニ亞軍

三九五